基督教之根據

谷久太郎著

明治二十六年九月發兌

基督教の根據序文

三谷久太郎君の著(基督教之根據)全篇凡て五章——貳百頁——の文章は實地傳道の際に成りたるものなれども是れ偏に著者か多年同志社に在りて修養練磨せられたる信仰と思想との結果たることと一目瞭然たり。而して神、人間、及ひイエスの性行と理想とに繫るる至大至高なる研究は著者の如く熱心眞理を愛慕し敬虔以て神を畏ひ博愛以て同胞に事ゆるもはにあらざれば決して能せざるなり、今余は此書の議論を批評する暇なきものなれども常に此種の文章世に多からんことを望みて止まざるものなり。即今我邦に宗教に心

を寄するもの、數鮮からず此際各々其特有の才と識とを以て一方又は近世理科學的の方法を以て宗教上の典禮、教會、信條、定理等の沿革を敘述し又他の一方には歐洲中古神學の模型を超脫し第十九世紀の哲學的方法を以て公平に大膽に宗教は本旨、性質、原因、歸趣等を說明せは單に學問上非理を免かるゝ而已ならず實際上信仰を養ふ裨益も亦大ならん。余は前二方法何れを先ずべきを知らざれども今他を省き茲に宗教哲學研究者は爲め試に左は數書を揭く熟讀批評以て其中に含める眞理を攝收するを得は恐くは吾人は識見を養ふは資料たらん。三谷君は請に應し聊か所感を記し

以て序文に代ゆ。

一、プレタウは〔共和政〕
二、アリストーツルは〔形而上理學〕
三、アウゴスチンは〔神は都〕
四、ライブニッツは〔元子論〕
五、カントは〔純理批評論〕
六、ヘーゲルは〔宗教哲學〕
七、シユライエルマーヘルは〔信仰論〕
八、ロツチエは〔宗教哲學〕

明治二十六年八月下旬

米國エール大學哲學博士
森田久萬人

序文

基督教は生命なり其本源耶蘇基督は意識より發す而て生々長大一芥種は比喩は如く枝榮へ葉茂り花咲き果熟し遠く萬世を期し廣く世界より蔓り千狀萬態窮極する所なし又基督は意識を以て天下億兆は衆生を感化し千種萬類の庶民を陶冶して一大人間となさんとせ蓋し其意識を宇宙浩然の生氣化身して動作するものなればなり三谷君爰より活眼を注き古今を論せず教會の內外を問はず以て証を萬國人の經驗に取り其千狀萬態なるものをして一貫一統一結もて純乎たる耶蘇基督の意識に歸向せしめんとす故に其引照する所千

緒萬端偶矛盾反對するの憂なきにあらずと雖亦自ら唯一氣の之を連絡するものあり讀者此意を了せば益する所少からざるべし

海老名彈正

基督教之根據

目次

第一章　基督教とい何ぞや……一
第一　基督教は天啓の宗教なり……二
第二　基督教い絶對の宗教なり……九
第三　基督教の本領は歴史上の事實にあり……十四
第四　基督教は國家の生命にして且信ずる者を救ふ神の大能力也十八
第二章　基督教の根據……(其一)……二十三
天父上帝を信すること……二十四
甲　神の本体及び性質……二十五
乙　神の萬有及人類に對する關係……二十九
丙　神學及哲學上の解明……三十六
丁　神の存在を論ず……三十八

第一　開墾原因論……四十五
第二　絶對論……四十七
第三　思想論……仝
第四　美妙論……四十九
第五　萬有經濟論……五十二
第六　精巧論……五十五
第七　理法論……六十三
第八　人性論……六十七
第九　歴史論……七十六
第三章　基督教の根據……(其二)……八十五
人の不完全にして罪過多きを認むること
第一　人の組織……八十八
第二　人心の本性……九十三

第三　人間の位置……九十四
第四　人生の目的……九十八
第五　人間の義務……百十
甲　全心全力を盡して主なる神を愛ずべし……百十一
乙　己の如く他人を愛すべし……百十二
第六　人類普通の現狀……百十三
第七　其結果……百十六
第四章　基督教の根據……(其三)……百十八
神の獨子萬民の救主イエスを信ずること
甲　神の獨子萬民の救主の顯現の必要……百二十
乙　イエスは即ち神の獨子萬民の救主なるを論す……百二十二
一　イエスの教訓……百二十四
二　イエスの品性……百二十九

三　イエスの行爲……百三十
四　イエスの事業……百三十三
五　イエスの意識……百三十八
六　イエスの確信及先見……百四十三
七　イエスの獨立創始……百四十九
八　イエスの感化……百五十四
九　結論……百六十六
第五章　結局……百六十九
附錄
一　教育勅語と基督教……百七十一
二　基督教の必要……百七十六

基督教之根據

緒言

此書は著者が地方傳道に從事するの際傳道の一方法として發刊したる一小傳道雜誌に掲載せしものを訂正編纂したるものにて昨年初夏の候より現今まで凡そ壹ヶ年間を經て成りしものなりとす。著者が此書を著はすに就てはハリス氏、フリント氏、スミス氏、ロボルトソン氏、ストッル氏、ブシチル氏、シャーフ氏、ジョンソン氏、ニューマン、スマイス氏、ストウカル氏、チャンニング氏、ストラオス氏及吾邦の先輩諸氏の著書等に負ふ所少からずと雖重に著者が數年間の勉學と觀察と沈思默考と經驗との結果にして議論の組織及書中の論旨の如き全く著者自身の獨目一己の見識に

由れるもの尠からず故に此書の善惡及論旨の可否の如きは全く著者自ら其責に當らざるべからず。此書は前にも云る如く著者が傳道に從事するの際多用の中に忽々筆を走らせしものにて往々欠漏過失なきを保せず讀者幸に之を推恕せよ。今此書を世に公にするに至りしは傳道上之を使用せんと欲するに由るのみならず聊か時勢に感する所あり て天父上帝の榮光を顯彰し吾國家と同胞とを裨益する上に於て少補あらんことを希望するに由るなり

明治廿六年七月中旬於大和國南都之寓居

著者識

基督教の根據

三谷久太郎著

第一章　基督教とは何ぞや

人の相知るに至るや或は一見舊知の如きものありと雖多くは幾多の歲月を經過するを要し其間互に或は誤解し或は輕蔑することあるを免れず宗教の國民に於ける亦同しきのみ況んや未だ吾日本國民との交際至て淺き基督教が今日迄古現今も尙ほ幾多の誤解と批難とを受け日本國民の中に親友知己を有すること少きも正に是れ理の當然なりと謂ふべし

抑も基督教とは何ぞや人或は以爲らく此れ世間に有りふれたる勸善懲惡の方便なる宗教の一のみ然れども基督教は其の中に於て最も可なるもの宜しく婦女青年をして之を信ぜしむべし只識者は然らずと或は又曰く國家及一箇人は宗教道德を要す然りと雖我國宗教なきに非ず何ぞ外國の宗教を用ゐんと或は又曰く我輩は只忠君愛國を知る其他を知らず曰く何曰く何と凡そ我國民が未だ基督教の眞相と其の國家人生に

如何に重要なる關係を有するかを知らざるの甚しき上識者より下匹夫に至るまで誤解の多き一々盡すべきに非ず吾人今是を辨解せんとするに非ず請ふ讀者の爲に積極的ゑ基督敎の何たるを說かん蓋し是れ良善の辨解

第一　基督敎は天啓の宗敎なり

今此事を論ずる前ゑ余輩をして先つ宗敎の定義を學ばしめよ抑も宗敎とは何ぞや余未だ一定普通の定義あるを聞かず米國ェール大學の敎授神學博士サムエル、ハリス氏曰く「宗敎とは人が人と神と呼ぶ所の一箇の人間以上にして且自然以上なる有權者との關係の意識にして此の意識は人の自發の信仰感情の中及神の歡受し給ふ服事たらんことを願望せる人心任意の働作の中に顯現するものなり又は宗敎とは人の神に對する關係の應答なる內部の生活及外部の働作なりとも言ふべく若くは宗敎とは永遠に現存し永遠に活動し給ふ上帝の現存及び活動ゑ對する有知的の應答なりとも謂ふべし」(神ノ自顯十五頁)と獨逸國の有名なる神學者シュライエルマヘル氏は一宗敎とは有限なる者が無限なる者の中に存在することを知覺することなり即ち無限

の有限ゑ於る默示なり是故に宗敎は元來感覺なり感情なり知覺なり」と云ひ(原田氏朱氏神學概論)横井時雄氏は曰く「宗敎とは人生存在の秘義を解悟して以て安心を得ることなり又曰く凡て人間の免る能はざる罪惡憂慮悲哀失望ゑ打勝ちて永遠の生命を得ることなり即宗敎は哲學に非ず儀式に非ずして寧ろ人心の開悟又は平和幸福と謂ふべきなり又曰く然らば則ち何をか宗敎と云ふ平曰く人心の最も高くして最も貴き時の狀態なり之を稱して至上の平和最大の幸福と云ふも可ならん別語以て之を云はゞ宗敎は生命なり各人其の不平不滿憂慮絶望の境を脫して天地の運命と理法とゑ親和契合し以て永生の靈を得るにあり」(六合雜誌及基督敎新論)原田助氏は曰く「人心の至聖至高なる情狀是れ即ち宗敎なり」と(六合雜誌百四十四號)其れ斯の如く宗敎の定義悉く相同しからず且つ夫れ余を以て是等の定義を見る時は此を宗敎の定義と言はんより寧ろ之を基督敎の人心ゑ與ふる眞正の結果を說明せるものとなすの可なるを覺ふ況んや世間に有りとあらゆる宗敎と見ゆる宗敎を概論し比較する場合に於て頗る不便なるものあるに於ておや故に余は以爲く宗敎の定義は之を天理人道なり

と云ふべし之を客觀的に言ふ時は宗教とは天理人道の或る組織形体を言ひ之を主觀的に言ふ時は宗教とは人が心中に確信實得せる天理人道を云ふなりと則ち此の定義に從ふ時は高等なるものより下等なるものに至るまで凡て宗教と見ゆるものを概括し網羅することを得べく又客觀的に彼の宗教と此の宗教とを對照比較することを得べく又貴殿の宗教は何か余が宗教は此れなりと論ずることを得べくして極めて便且眞なるを信す凡ろ余が宗教と言ふは此の定義に從ひ此の意味に從へるものなり

偖て右にて宗教の定義は判然たるべければ是より宗教に二種の區別あることを說き進んで基督教は唯一天啓の宗教なることに論及せんと欲す

抑も世間に宗教の存する固より多し然りと雖是を大別せば二種となる曰く人出の宗教曰く天啓の宗教是れなり人出の宗教とは儒教の如く佛教の如く將た又神道の如く回々教の如く凡ろ人間の思想工夫の中より產れ出たる者を云ひ天啓の宗教とは天下唯々一あるのみにして上帝自ら顯現し自ら默示して啓示せられたるもの基督教即ち是れなり

若夫れ廣き意味にて言ふ時は上帝の顯現默示は獨り基督教の境內にのみ限るに非ず果して正義仁愛の上帝存することあらんか赤心宇宙の眞理を尋ね誠意仁義を爲すの人になどか眞理を顯現し默示を與へ冥助を與ふるとのなかるべき且つや天啓教の旭日東天に昇るの前に異教の星辰世の暗黑を照らし神の獨子の臨む前に異教の聖賢之が前驅を爲せしは全く皇天上帝の撫理ならずんばあらず

其れ然り然りと雖人は固と是れ有限の者智識も能力も共に限り有れば如何でか能く天地悠々無限の奧理を窮め天理人道の至純を捕握することを得んや而も尙人には心あり善を求めて止まず而も尙人に道義心あり偉大完全なる人物の標本を尋ねて休まず而も尙人に理性あり天地の蘊奧人生の秘義を知らんと欲して息まず若し夫れ之を得ざるふ於ては則ち人心の生命衰萎し安心立命の柱礎を得ず永く暗黑憂愁不安罪惡の谷底に埋沒せんとす是に於てか皇天上帝自らイスラエルの民族を擢拔し是れが雙肩に唯一天啓の宗教を萬國民に紹介するの大使命を負擔せしめ神の人預言者救主キリスト及其の使徒を通ふして十分に自己を顯現し此れに天理人道の至純を默示し

以て救世聽罪の方畧を定め給へり

同志社學院校長小崎弘道氏も嘗て此事を論じて曰「夫れ上帝人類終極の敎たる基督敎を世に現はさんとするや先づアブラハムの苗裔たるイスラエルの一族を撰み之を以て神の選民となし之に宗敎眞理の初步を敎へ之に種々の律法例式を與へ直接に基督敎の準備を爲さしめたり是れ即ち猶太敎が基督敎に至るの階梯小學たる所以にして其の律法預言敎誡悉く基督敎によりて全ふせらるゝの理と謂ふべし上帝は之と同時に世界の哲人賢者をして其の自然の思想力を使用し宗敎上の眞理律法を發明し間接に天啓なる宗敎の準備を爲さしめたりキリストが（我れ律法と預言者を廢する爲に來れりと意ふ勿れわれ來りて之を廢するにあらず成就せん爲なり）と云ひ給ひしは唯猶太敎にのみ關ずるに非ず凡の宗敎にも關する言なるべし」と（政敎新論七十八九頁）

世に往々天啓默示と云ふことの果して有り得べきや否やを疑ふものあり我れ思ふに天啓默示を疑ふは是れ未だ上帝の眞性を知らざるが爲めのみ宇宙に果して仁義無限

の上帝ありとせんか何ぞ其聖旨を人類に顯現し天理人道の至純を默示せざるべき

太田錦城曰く「聖人の言は天言なり凡夫の言とても靈竅は自然より出て臺顱の人慾に涉らざるは即ち天言なり況や聖人の言は天理は自然より出て千萬世人道の摸範たる時は天言に非ずして何ぞや」（梧窓漫筆前編下）と氏は其の結果により之を推定して信せしのみならず其の言を傳へし其人自身は之を知らざるなり之を信せざるなり夫れ其人自身は之を知らず之を信せずと雖其の此の如きものは固より天言たるに相違なし即ち廣き意味にて言ふときは此等も亦上帝の顯現默示たるに相違なく天の啓示たるに相違なしされども人出敎と天啓敎との相違は即ち是れなり前者に於る天の啓示は無知無覺的にして後者に於る天は啓示は有知有覺的のものなり前者は始より人の名に因りて出て後者は始より神は名に因りて來る是故に余輩は基督敎を他敎より區別して唯一天啓の宗敎なりと云ふ

龍溪矢野文雄氏立敎神人篇に孔子と耶蘇とを論じて曰く「孔子は人として敎を立つ其道先王に出でざるを得ず耶蘇は神として敎を立つ其道天に出でざるを得ず先王

に出るものは證を古史に取り史を以て經となすの必要起る天に出るものは先王に則るを要せず又史を經となすの要なし兩者此の相違其の影響を百事に及ぼせり」（今世名家文鈔百四八頁）と知言と言ふべし若し方便視するに非れば

夫れ耶蘇は基督教の中心なり耶蘇や人にして人に非ず神の化身なり神人の中保なり道肉体と成りて我儕の間に寄れるものなり神の獨子なり萬民の救主なり彼れ心中上帝と一なるの意識を有するや敎へて曰く「我と父とは一なり」（約十〇三）或は又曰く「我みづから何事をも行ず唯わが父の敎に從ひて此等の事を言へるを知るべし」（約八〇二十八）蓋われ己より言に非ず我を遣はし、父わが言べきこと我かたるべきことを命じ給へるなり」（約十二〇四九）而て耶蘇の此の確信と意識とは終始一貫して毫末も變ずることなく捕卒の棒も劍も刑の冠も暴卒の鐵拳も唾も將た又カルバリ山頭十字架の慘死酷刑も遂に是を變せしむるに緣由なかりき耶蘇は前に預言者あり耶蘇の後に使徒あり前者は耶蘇の爲に道を備へ後者は復活せし耶蘇の証人となりて福音を萬國に傳へぬ彼等の言敎に從事するや曰く「エホバ斯く言ひ給ふ」曰く「人に從ふ

より神に從ふは爲すべきとなり」と石にて擊たれ鐵鎖に繫がれ火災の中に投せられ十字架に釘せられ碎身粉骨して而も尙其の確信と意識と遂に毫毛も變せず全聖史によりて此等の人々の言行人物を批判するに洵に至誠天地を動かし義烈仁愛肺肝に徹するの人なり此の人々にして此の確信あり此の意識あり此の確信あり此の意識あるこの人々に因りて來れる基督教を見るに又是れ眞に至高至純萬古不易の眞理にして千萬世人道の最良摸範罪惡憂愁暗黑の中より人靈を救濟して永生を得せしむるものなり吾れ是に於てか基督教の全然天啓の宗教たるを信ず

第二　基督教は絶對の宗教なり

夫れ一國人民の精神を支配し長く世に行はるゝ宗教の中には必ずや多少の眞理なくんばあらず彼の儒教の如き佛教の如き神道の如き固より世界宗教中の小ならざるもの其國民の風俗習慣倫理及思想品性の上に大なる影響を及ぼせるや疑なく此等宗教の中に多少眞理の分子を含蓄するや又更に疑なし

然りと雖我れ神儒佛等の宗教を以て之を基督教に對照比較するに恰も一杯の水を以

て大海に比するが如くなるを覺ふ既に其の大根源に於て異なり其の枝葉末流に至て亦甚だ趣を同ふせず

今夫れ聖にして愛なる眞神の存在を認め敬虔の念を以て赤心之に奉仕するは是れ安心立命の根底にして天理人道の柱礎なり苟も此の信仰なきに於ては不如意の世に處して安心を得ること難く人道の實行難く丹誠の偉人を得ること難し是故に改進黨の名士島田三郎君も言へり曰く「夫れ眞神に事ふるの心を推して人事を行ふに至る者之を宗教の感應と言ふ之を以て社會に對せば以て純潔の業を遂くべく之を以て政治に施せば以て正大の治を爲すべし宗教の社會及び政治に關するの効是に於てか正且大なりとす」(政教新論序文)と氏が基督教を信ずる蓋し此に見る所あるによる乎

去て我れ佛教を見るに始より神は存在を認めず儒教を見るに說て詳ならず又之に重を置かず神道は如きに至ては說て甚だ之を誤れり我れ是に於てか基督教と神儒佛と其の大根源に於て已に異なれりとは言ふなり

さりながら彼は儒教が我に君子大人となるは或は工夫を敎へ忠孝操節の精神を皷舞

し仁の爲すべく義の爲に死すべきを敎ゆるや我れ固より之を稱嘆せざるに非ず

彼の釋迦が三世因果實有の義を敎へ出家菩提の道を示し貪瞋癡を滅〜て淸淨樂土に往生すべきことを諭し婆羅門の難行苦行を排斥して佛道を立て釋迦入滅の後迦葉、阿難、末田地、尙那和脩、優婆鞠多馬鳴、龍樹、提婆菩薩等相次て起り大に佛法を擴張して一切皆空の道理を說き進んで遂に般若波羅密等の論を主張せしと云ふや我れ聊か其は要領を學んで其の達見に服し同情を表するものなきに非ず

余又彼の平田篤胤が「眞の神道と申すはこの天地を御造り遊したる天ッ神、高皇產靈、神皇產靈の神を始めまして伊邪那岐、伊邪那見の神の御受繼あろばして世にありとある事物の本を御始めなされて其の御功德は天照大御神に御傳へあろばしさて皇御孫邇々杵命御天降り遊ばさるゝ時天ッ御祖產靈の御神天照大御神より皇御孫の命の御代々々天の下を知し召す御政のやうを御傳へ遊ばし扨御代々々の天皇うの御依しのまに〜己命(おのれみこと)の御さかしらを御加へあろばさず天地と共に御世しろしめすことぢや」(俗神道大意卷ノ一)と言へる所謂る眞の神道なるものを見るふ亦聊か眞理

なきに非ず

然りと雖我れ儒教に於ては其の政教を混同するの非なるを知り人と人との間に嚴然たる階級を造り甚しく區別を立るの弊あるを知り其實行を重んずるは可なりと雖天地神人に關する幽冥の至理を說示せざるが故に未だ全く人心の至情を滿足せしむるに足らざるを知る佛教に於ては我れ其の悟道の法理を重んずるが爲め空理に流るゝの弊あるを知り俗塵を超脫すると云ふは高邁なるが如しと雖未だ盤根錯節なる世の眞中に切入り身を殺して仁を爲す的の尤も高貴なる精神を皷舞するものなきを見る我れ又神道に於ては神を敬し皇室を貴び自國を愛するの心情を推暴するものあるを知ると雖其の神を說くや多神と臣下に誤り皇室を貴ぶの理や其の眞を得ず自國を愛する頗る偏狹なる所あるを知る

余已に此等の丘陵を越へて今基督教の麓に來り仰て之を望むに高峯峻嶺白雲に入り空天を壓し萬山を脚下に蹈んで獨り昂然たるを覺ふ

米國エール大學教授神學博士フィシャル氏曰「基督教は絶對の宗教なり別語以て之

を言へば基督教は多少欠点あり過失ある凡ての人類の他の諸宗教に對して眞正にして完成せる宗教なり基督教は重ねて變改增補するを要せざるものなり而て此の基督教の完全なることは其の中心の肖像なる主耶蘇基督の完全なること、主耶蘇に於て神が充分に自己を顯現し給へる事實とに密着の關係を有すされど基督教は絶對の宗教なりと主張せばとて他の諸宗教が價値ある眞理を含有せずと言ふにはあらず他宗教中の或者は眞正にして且つ大に有益なる教理及教訓を含めり且つ神は基督教及其の根元の組織即ちイエスヲヘルの宗教の境界を越へては決して眞理を現示せざりしと言ふに非ず異教國民の中にも高等なる攝理上の使命を有せし宗教道德の教導者ありし且つ往々或度まで超自然的の光明をさへ與へられたる教導者もありきソクラテスは卽其一人にして異教聖賢中の尤も高貴なるものなり孔子も亦同級に屬すべき乎今余が此に確認せる所は單に他の諸宗教は關係的に一の卓絶せるものを所有すべく又上天よりの光明を指示するため或る特有性を所持すべしと雖基督教は格段なる神の顯現の果實にして遙に階段の上級に位し且つ他の諸宗教と機關的の關係を有し凡の

諸宗教は全世界の救主なるキリストに終局するが故に絶對の意味に於て眞正の宗教なりと云ふにあり基督教は一の卓絶せる眞理も欠乏し居らざる唯一の宗教なり」（千八百九十二年十一月三日發行の米國コングリゲーショナリスト新聞）と眞なる哉言や

夫れ基督教は神人の和合を說き信望愛を說き全心全力を以て神人を愛すべきを說く何等の至理ぞ凡そ人が安心立命を得罪惡の泥中より救はれて眞人となり得べき天理人道は悉く基督教の中に完備し基督教に於て完成したり人一を加ふるを要せず人一を減するを要せず基督教の前に基督教なく基督教の後に基督教なし聖經に曰く「此ほか別に救あるとなし蓋天下の人の中に我儕の依賴て救るべき他の名を賜はざればなり」（使四〇十三）と我れ是に於てか基督教の絶對の宗教なるを信ず

第三　基督教の本領は歷史上の事實にあり

夫れ哲理と道德と儀式と此の三者は宗教の鼎足なり三者其一に偏すべからず又其一を欠くべからず何となれば哲理は是れ天地の奧義を說き人生の疑問に答へ以て人心の至情を滿足せしむる所以道德は人の品性を高め道念を美ふし以て圓滿高潔完全の

境域に達せしむる所以儀式は人の感情を感發調和し以て嚴肅優美靜平ならしむる所以なればなり予熟々基督教本統の組織を見るに三者備具して其一を欠かず高遠なる哲理を含み完全なる道德を持し適宜の儀式を懷きて起てり

夫れ然り然りと雖若し夫れ人あり基督教の本領は何處ぞと尋ねなば予は答て言はん基督教の本領は哲理に非ず道德に非ず儀式に非ず寧ろ歷史上の事實に存すと不知何の歷史上の事實か是れ基督教の本領なる

海老名彈正氏曰く「基督教は永生の道なり人は生ながら限りなく生る者にあらず神は始あらざれば又終あるべからず神は無窮の生命なり人は有限の生命なり故に神其の靈氣を吹て有限の人を支へ人其の靈氣を飛ばして無窮の神に依り神人合一して毫髮も相違反せざるの境界に至り始めて人は永遠生々して一個の神たるを得是れ即ち永生なり基督教の永生を說く豈偶然ならんや必ず本つく所あり基督教は天地の正確なる事實即耶蘇基督に由て神我儕と偕に在るとの奧義を明にし世界の人々をして神人合一の意識を完全ならしむる所の教なり」（六合雜誌百二十一號）と

米國エール大學教授神學博士サムエル、ハリス氏曰く「神は自身の働作により人々に又人々の前ふ自己を顯現し給へり抑も聖書に記載されたる神の顯現はキリストに於て成就し聖靈の現存及び能力により連續の作用に成果しつゝ人心に働く神の贖罪の恩惠の感化により且つ神の王國に社會を化成することにより神が罪より人類を贖ひ給ふ神の歴史的の働作ふよりて成りしものなり而して此の歴史的の贖罪及び夫れより生ずる生涯は是れ即ち基督教の本領なり」（神の自現四百五十八頁）と

聖經に曰く「太初に道あり道は神と偕ふあり道は即ち神なりこの道は太初に神と偕に在き萬物これに由て造らる造られたる者ふ一として之に由らで造れしはなし之に生あり此生は人の光なり光は暗に照り暗は之を曉らざりき……夫すべての人を照らす眞の光は世に來れりかれ世にあり世は彼ふ造られたるに世之を識らずかれ己の國に來りしふ其民之を接ざりき彼を接ろの名を信せし者には權を賜ひて此を神の子と爲せり斯る人は血脈に由に非ず情慾に由に非ず人の意ふ由に非ず唯神ふ由て生れしなりられ道肉體と成りて我儕の間に寄れり我儕ろの榮を見ふ實に父の生たまへる獨

子の榮にして恩寵と眞理とて充てり」（約一章）

イエス曰く「凡ろ子を見て之を信ずる者は永生を得われ復これを末の日に甦らすべし是われを遣はし、者の意なればなり」（約六〇四十）

是れ即ち基督教の本領なり基督教の本城なり基督教の特色なり彼の哲理や道德や儀式や貴からざるに非すと雖も基督教の基督教たる所は却て彼に存せずして此に存するなり而て基督教が他の諸宗教に異なりて眞ふ世を潔よめ人を救ふ所の生命活力を有する所以亦此に基かずんばあらず凡ろ志を教育に存する人は必ずや知り給ふらん能く人心を感奮興起せしむるものは實に歴史上の事實にして決して冷淡なる哲理や道德や儀式にあらざることを我輩是に於てか　皇天上帝が世を潔よめ人を救ひ給ふ計畫の極て深遠なるに驚服せずんばあらず

要「之に基督教の本領は哲理に非ず儀式に非ず道德に非ず全く聖にして且つ愛なる見へざるの神がキリストを中心となし預言者使徒及び教會を通して罪惡の中より世を潔よめ人を贖ひ給ふ歴史上の事實にぞ存するなる

第四　基督教は國の良心となり生命となり且信ずるものを救ふ神此大能力なり

讀者試に世界の輿地圖を披き果して何なる宗教を奉する國民が良心を有し生命を有し文運隆盛國家富强に赴くかを見よ又古今東西此歷史を証人となし其の國の文明の駸々として能く進歩發達し來れるものは果して何宗教を奉する國民なりしかを裁判せよ必ずや思ひ半ばに過くるものあらん

吾人は妄に西洋諸國を崇拜し東洋諸國を卑下するものに非ず又我國体國粹の大に誇るべきものあるを忘るゝものに非ず然りと雖論議は公平ならざるべからず宇内の大勢を察し歷史此示導に從ひ公理の存する所に賴らさる可らず

今夫れ英國と米合衆國とは基督教の盛に行はるゝ國にして蘇國、獨逸之に次き佛蘭西、以太利、西班牙、葡萄牙、伯義、和蘭、墺太利、魯西亞等亦基督教國と稱へらる土耳其、埃及、亞拉比亞等は回々教國にして印度はブラマ教の行はるゝ所支那、朝鮮、日本は即佛教儒教の行はるゝ所なり且夫れ亞弗利加、南亞米利加の諸民族及亞細亞州中アフガニスタン、ペルチスタン等に至ては別に宗教と言ふべきほどのものを奉するにあらず

而して果して其中何なる宗教を奉する國民が尤も活潑有爲にして文運隆盛國家富强に赴くかを見よ印度は死し土耳其、埃及、亞拉比亞は眠り日本、支那、朝鮮は今や漸くにして醒め亞弗利加、南亞米利加及亞細亞の他の諸州は未だ夢幻の裏に彷徨するにあらざる乎而て獨り基督教國の國民のみ能く五州に飛躍する所以のものは抑も何ぞや固より現今歐米基督教國の人民が文化隆盛を極むとて直に其の原因を單に基督教に歸するは頗る我田引水たらざるを得ずと雖若し夫れ其の原因中の重要なるものなりと言ふに至ては是れ一般學者の許す所識者の認むる所至公至平の斷案なりと信ず

是故に佛國の歷史教授ギゾー氏は其の著文明史に曰「偖て此に社會的なりとは稱ふるを得ずと雖公共上の生涯よりは寧ろ人心の智能に關する個人的の事實と適當に稱へらるゝ所の或事實ありけれりを何ぞと言へば宗教上の教理、哲學上の學說、文學、科學及美術之れなり……凡の時代に於て凡の邦國に於て宗教が其中に住居せし國民を文化せしてふことは正に之れ宗教の誇言榮譽なりき」（文明史十九、二十頁）と

博識鴻學氏の如く特に文明の由來を尋究せし氏にして此言あり又何をか疑はんや又何をか疑はんや

且夫れ歴史古代に於て今此基督教國々民に先ちて早くも既に文明の峯に先登せし彼の埃及、希臘、カルデヤ、印度及ひ支那等の文明は却て或は中途にして倒れ或は萎微不振退化の趣きを呈せしにも拘らず獨り基督教國の文明のみ日進月歩進んで止まざるの情勢ある所以のものは抑も何ぞや是れ豈基督教が眞正文明の良心たり生命たり原動力たるが故に非るなきを得んや

吾人は之を宇内の公理に訴へ萬國の歴史に徴して基督教が國の良心たり文明の生命たることを疑はざるなり

若し夫れ基督教が眞に厚く之を信ずる一箇人々に及ぼす感化の明著にして漸次其の品性を高め道念を進め平和喜樂に滿たしむる一種不可思議の能力を有することに至ては已に近來吾邦人の共に目擊する所實驗する所敢て喋々を要せざるなり

海老名彈正氏曰く「凡そ基督を信ずるものは尋常ならぬ心靈上の變化を實驗するものなり其始に於て來る者を新に生る、と云ふ天國に入るの門なり其漸を追ふて來るものを聖と成ると云ふ榮光に達するの路なり新に生れ聖と成るの際吾人が著しく認識する所のものは目未だ見ず耳未だ聞かず人の心未だ念はざりし神の奥義なり神の奥義を知ると同時に吾人が著しく感覺する所の者は骨未だ感せず肉未だ覺らず人の身未だ行はざりし神の元氣なりこの新知識この新元氣其の由て來る有樣を察するに閃電目を眩まし霹雷耳をしひるが如く外界より注射し來るに非ず吾人の實驗によれば信徒各自の内心より溌然として發生し來るを覺ゆるなり然りと雖更に思を潛めて其本源を尋れば新に生れ聖と成るは厚く基督を信仰し親しく其の交際に入るの結果なり吾人の淺墓なる心は斷してこの新知識この新元氣の本源たるを得ず吾人の心靈が基督と合體して異常の變化を生ずるは恰も山麓の清泉が遠く深山の水源に接して混然たるが如く又は鐵の電氣に感動して千狀万態の顯象を呈するかさも似たり故に基督信者は其神聖なる知識も其無窮なる元氣も偏に耶蘇基督の恩賜なりと承認し自ら謙遜して肯て救拯の勳功に與らず基督を尊崇して生命の本源靈魂の救主教會の

首領万物の君主として仰慕措く能はず終に無窮の神榮光の父に奉事する至上の尊敬をもてベツレヘムに生れナザレに育だちパレスチヌを往來し十字架に釘けられ神に甦され大能の右に擧られたる耶蘇基督を崇拜するに至る」(六合雜誌百卅三號)と

是れ洵に善く基督教の一箇人に及ぼす感化及吾人信徒の實驗を告白せるものなり

聖經に曰く「エホバをおのが神とする國はさいはひなり」(詩三十三〇十二)と

又曰く「我は福音を恥とせず此福音はユダヤ人を始キリシヤ人すべて信ずる者を救はんとの神の大能たれば也」(羅一〇十六)と

吾れ是に於てか基督教は眞に國の良心となり生命となり且つ凡て信する者を救ふ神の大能たるを信ず

噫夫れ我見し基督教とは此の如きものなり基督教とは何ぞや曰く天啓絶對の宗教にして其の本領は歷史上の事實に存じ國の良心となり生命となり且信ずる者を救ふ神の大能なり

方今我國方に改革の氣運に屬し舊日本を出で、新日本に入らんとす東西両洋の主義思想、風俗、習慣等端なく吾此の東洋一孤島に衝突し今や優劣勝敗を爭ふの時正に是れ吾人の彼を知り又吾を知り綿密に比較審査を卒へ短を棄て長を取り活眼を開て智識を宇内に求め五州の粹を拔て以て吾國家百年の大計を立て建國の基礎を固ふすべき秋なり今にして一歩を誤らんか後如何ともすべきなからん

夫れ宗教は深く國民の腦裏に入るもの識者の冷淡視すべきものに非ず識者の冷淡視すべきものにあらず基督教は豈勸善懲惡の一方便ならんや豈又婦女青年の伴侶たるのみならむや基督教は決して吾國從來の諸宗教と同樣のものに非ず又斷して忠君愛國の精神を撲滅するが如きものに非ず讀者よ乞ふ更に予が次章以下に論する所を讀み以て基督教の根據の何處に存するか及其の正確なることを了知し因て以て其の疑團を氷解せんことを

第二章　基督教の根據　(其一)

凡そ事物を研究せんとするに當ては先つ其根據要領の何たるを知るを要す根據要領を措て徒に末葉に就て議論するは甚た益なきことなり蓋は根據要領をば先つ曉得す

ることを得ば其末葉の事柄は從て自ら明白になるものなればなり且つや吾輩基督教を信奉する者に取ても其進戰退守の中心は決て基督教の末葉に非ずして全く其根據要領に存するが故に吾人は之を歷史に訴へ又之を實驗に照らし以て信仰の基礎を堅固にせざる可らざると同時に又之を道理に質し其根據に就て可成的明白なる知識を得可成的强健なる論明を知らざる可らず是れ予が基督教の根據に就て聊か論述する所あらんとする所以なり

予熟々考ふるに基督教の根據ゐ三点あり是れ最も大切なるもれに～て百般の教義、信仰皆此根據の上に築造せらる三点の根據とは何ぞや曰く第一天父上帝を信ずること第二人は皆不完全にして罪過多きものなるを認ること第三イエスは神の獨子萬民の救主なるを信ずること是なり左に諸点に就て順次説明論証する所あるべ～

天父上帝を信ずること

此の信仰は基督教の根據中の根據にして至要至切のものなるが今先つ聖經の教示する所に基き天父上帝の本体性質及萬有及人類に對する關係を説明し次て神學、哲學

上よりの解明を説述し終に神の存在を論究すへし

甲　神の本体及性質

(一)　神は靈体にして肉眼を以て見るべき形体を具有し給はず又存在し給はざる所なし

吾人舊約聖書を繙き見るに開卷初頭に曰く「元始に神天地を創造たまへり地は定形なく曠空～くして黑暗淵の面にあり神の靈水れ面を覆たりき」と見るべし神は靈妙の体に～て全く時間と空間の關係を離れて存在するものなることを而て吾人新約聖書に至り救主が人民を教へ給ふものを見るに曰く「神は靈なれば拜するものもまた靈と眞を以て之を拜すべし」と是れ主イエスがサマリヤ州スカル村の井邊に於て一婦人に教へ給ひしものゐして當時の人民が神は宮殿又は特別なる場所に存在すると考へ其宮殿を出て其山林を離れては直に神を忘れ又敬虔の念なかりし誤謬と牛羊野菜飲食れ物を神に供献して以て自ら足れりとなし心を正し思を潔め神を敬ひ人を愛し以て所謂靈の供物を献げて靈なる神を悦ばすを爲さゞりし弊害とを規正し給へるも

のなり故に基督曰く「神は靈なれば拜するものも靈と眞を以て之を拜すべし」と靈にして在さゞる所なき神は豈宮殿山林よのみ存在し給はんや又何ぞ牛羊野菜等の供物を受けて滿足し給ふものならんや

（二）神は全智全能にして能はざる所なく知らざる所なし

創世記一章三節に曰く「神光あれと言ひたまひければ光ありき神光を善と觀たまへり神光と暗を分ちたまへり」と仝九節に曰く「神言たまひけるは地は青草と實蔬を生する草蔬と其類に從ひ果を結び自ら核をもつ所の果を結ふ樹を地に發出すべし」云々と詩の第十九篇ダヒデの歌に曰く「もろ〳〵の天は神のをいくわうをあらはし穹蒼はろの手のわざをしめす」とキリストも亦教て曰く「然ば何を食ひ何を飲みなにを衣んと思わづらう勿れ此みな異邦人の求る者なり爾曹の父は凡て此等のものゝ必需ことを知り給へり」（太六〇三十一、三二）又曰く「二羽の雀は一錢にて賣るに非ずや然るに爾曹の父の許なくば其一羽も地に隕ることあらじ爾曹の頭の髮また

皆かぞへらる」（太十〇廿九、三十）と又嘗て富者の天國に入るの難きことを論し給ふや弟子驚き問ふて然ば誰か救を受くべきやと言ひければイエス答て曰けるは「是れ人ふは能はざる所なり然と神には能はさる所なし」（太十九〇廿六）と夫れ此の如く此の不思議なる天と地と其中にある萬物は皆悉く神の受造物にして（人工物に於ては其原料原質を言ふ）其全能全智の一大秘力を以て之を創造し給へり

（三）神は始なく終なく永遠不變の存在者なり

昔時神モーゼを遣はしてエジプトにある神の撰民イスラヘルの民を救はんとし給ふや之に言て曰く「我は有て在る者なり」又いひたまひけるは「汝かくイスラヘルの子孫に言ふべし我有と云ふ者我を汝曹に遣はし給ふ」云々と此の我有と云ふ原語は意味深長にして永遠に現在なる存在者なるを現はすものなり夫れ世は移り物は變はると雖獨り神は始なく終なく永遠に亘りて變らせ給ふことなし

（四）神は其德性完全にして正義、公平、仁愛、聖潔等兼備り圓滿にして欠る所なし

神の完全なることに就てはイエス山上の垂訓中に演て曰く「是故に天父の完全が如

く完全せよ」と其正義なることに就ては詩篇十一篇七節に曰く「ヱホバはたゞしき者にして義きことを愛し給へばなり直きものはうの聖顔をあふぎみん」其の公平なることに就ては羅馬書二章六節以下十一節までに曰く「神は人の行に循ひて各人に其報を爲すべし耐忍て善を行ひ榮光と不朽壞とを求る者には永生をもて報ん然ども爭鬪をなし眞理に順はず不義につく者には報ゆるに忿と怒と患難辛苦とを以てす此はユダヤ人を始めギリシヤ人すべて善を行ふ人には榮光と尊貴と平康とを以て報ゆべしこれ神には偏視なければなり」其れ仁愛聖潔なるに就ては約翰四〇十四五六節に曰く「父襲に其子を遣はして世の救主となせり我儕すでに之を見たり今うの證を作なり凡うイエスを神の子なりと認はす者は神かれに居りかれ神に居我儕の爲に神の有る愛を我儕すでゐ知りて信ず神は即愛なり凡う愛ゑ居る者は神に居り神また彼ゑ居」又彼前一〇十五に曰く「爾曹を召し給ふ聖者に效ふて凡の行を潔くすべし」と此等は只其一例を舉るのみ夫れ神は宇宙間の至尊者至聖者なれば萬民皆其前に拜跪し之を崇尊すべきものなり

乙　神の萬有及人類に對する關係

（一）　神は萬有の創造者なり

創世記一章一節に曰く「元始に神天地を創造たまへり」使徒行傳七〇四十九、五十節に曰く「即ち主いひ給く天は我座位なり地は我足發なり爾曹我ために如何なる屋を建んと爲か又わが息む所は何處なる乎我が手は此凡の物を造らざりしか」羅馬書十一〇卅六に曰く「うれ萬物は彼より出てかれに倚りかれに歸ればなり」其他哥前八〇六、弗三〇九、希一〇十二、默四〇十一等を參觀すべし

（二）　神は萬有の維持者なり

夫れ此の廣大無邊なる宇宙間の萬物が整然として其秩序を保つものは靈にして全智全能なる神のあるありて科學上の諸法則に因り之を維持し給ばなり若し夫れ上帝の之を維持するとなくんば諸天体は忽に〻て瓦解し大地は破壞し宇宙は直に滅裂すべきなり幸にして全智全能なる天父上帝の存在するありて之を維持し給ばこそ萬有は斯く安然なるを得るなれ詩の第六十五篇に曰く「かみは大能をおび、うの權力により

て、もろ〳〵の山をかたくたゝしめ、海のひゞき、狂瀾のひゞき、もろ〳〵の民のかしがましきを鎮めたまへり、されば極遠にすめる人々もなんぢのくさぐさの豫兆をみておろる、なんぢ朝夕のいづる處をよろこび謳はしめたまふ、なんぢ地にのぞみて溉ろぎ、おほいに之をゆたかにしたまへり、神のかはに水みちたり、なんぢ如此ろなへをなして穀物をかれらに與へたまへり、なんぢ畎をおほいにうるほし畝をひらにし、白雨にてこれをやはらかにし、ろの萌芽るを祝し、また恩惠をもて、年の冕旒としたまへり」と

(三) 神は萬有の主宰者なり

天地は廣く萬物は衆矣而て神は天地萬物の主宰なり山崩れ地裂け洪水氾濫し風伯地上に暴行し巨浪怒號して海面に狂するに當ては何物の勢力か能く之に抗敵するを得んや獨り大能なる神は萬有の主宰者なれば神聲を出せば風は止み波は和ぎ天地靜穩となりぬべ〳〵第三十九番の讃美歌に曰く

一　エホバはちからに　とみたまへば

かせもみこゝろに　したがふなり
エホバ宣まへば　あまつろらに
かゞやきめぐれる　日もとゞまる

二　なみよさかまきて　なりとゞろき
くがにうちよせて　よせ來ば來よ
エホバおほみてを　たかくあげて
たちまちはまべに　つなぎたまはん

三　ふきくる夜あらし　こゑたけりて
ちからぬかぎりに　あらぶるとも
みゆるしあらずは　樹のうへなる
小鳥の巣をだに　うごかしねじ

四　たふときみこゑは　なりとゞろく
いかづちのうちに　きこゆるなり
エホバのみいづは　つむちかせを
をさめてうらにぞ　かゞやきける

夫れ神は自然の法則に因て萬有運行の組織を定め自ら之を監督し給ふことなれば春雨の梅蕾に音連る、狂風の幼苗を害する人類の生死、禍害、僥倖一々神の直接ゆ御働にはあらずと雖又米國ゆ神學博士サムエル、ハリス氏も言へる如く神は萬有中特に最高なる人類を目的として自然の法則のみならず更に一層高等なる道德上又は心靈上の法則をも執行し給ば神は其の義にして且つ愛なる聖旨により人類に對する特別なる或目的の爲に其の道德上又は心靈上の法則に從ひ其全智と全能力を以て自然ゆ法則ゆ超へたる或現象を顯し給ふなり又顯はし給ふことを得るなり是れ即基督教組織の中に奇跡の存する所以にして又吾人が天父に祈禱する所以なり噫々天地に萬有主宰ゆ神ありて其聖旨に合ふ時は吾人の爲よ如何なることをも成し得るとは是れ人類

の爲よ尤も喜ばしき福音に非ずして何ぞや(路可傳十二〇十五—二十一、詩篇六十六篇等參考)

(四)　神は人類の天父なり

使徒保羅は昔時アテノスのアレオ山頭に立ち群集に宣傳して曰く「神は我儕各人を離る、こと遠からざるなりられ我儕は彼に賴りて生きまた動きまた存ることを得るなり爾曹の詩人も我儕は其裔なりと云しが如し」云々と夫れ神と人類とは其關係決て遠く隔離せるものに非ず畢竟罪雲惡霧深く人類の心中を鎖せばこゝ靈眼盲くして極りなき天父の恩寵慈悲を認め得ざるにてあれ若し夫れ一朝天上より聖靈の風の吹き來りて吾人の心の雲霧晴れ吾人の救主イエスの贖罪に因りて天父と和くことを得たらんには必すや何人も天父の慈愛の限りなきを悟り頭を垂てゆば父よと親く天父ゆ近くことを得べきなり而て斯る人の心は常に謠ふて曰はん

一　エホバはわれの　牧者にませば
われはともしき　ことなかるべし

みどりの野べに　われをふさしめ
いこぶみぎはに　ともなひたまふ

二

わがたましひを　いきかへらしめ
聖名のゆゑもて　まよへるわれを
たゞしきみちに　みちびきたまふ
めぐみのみては　つねにはなれず

三

よし死のかげの　たにをゆくとも
世のわざはひを　わればかうれじ
エホバのつゑと　ろのしもとゝは
われをなぐさめ　たすけたまへり

四

あたのまへにも　ひしろをまうけ
首にあぶら　ろゝぎたまへば
わがさかづきは　あふれにあふる
かみのめぐみぞ　いかにたへなる

イエス天父に就て教示して曰く「然ば何を食ひ何を飲何を衣んと思わづらふ勿れ此みな異邦人の求る者なり爾曹の天の父は凡て此等のものゝ必需ことを知たまへり爾曹まづ神の國と其義とを求めよ然ば此等のものは皆なんぢらに加らるへし」と又曰く「爾の隣を愛みて其敵を憎むべしと言ることあるは爾曹が聞し所なり然ど我なんぢらに告ん爾曹の敵を愛み迫害ものゝ爲に祈禱せよ如此するは天に在す爾曹の父の子となられん爲なり夫天の父は其日を善者にも悪者ゐも照らし雨を義き者ゐも義からざる者にも降らせ給へり爾曹おのれを愛する者を愛するは何の報賞かあらん税吏も然せざらんや安否を兄弟にのみ問ふは人より何の過たる事かあらん異邦人も然せざらん乎是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし」と其他イエスが

天父ゐ就て教へ給ふ所深く且詳にして一々引例するに遑あらず夫れ五州の人類は均しく皆神の子供にして神は全人類の天父なりされど神は特ゑ神を信認し赤心を以て之を敬愛するもの丶天父なり

(五) 神は人類の審判者なり

神は愛なり故に凡の人類を愛護し給ふされど神は又義なり故に惡逆姦邪不義不正の徒を罰し給ふ斯て現世より來世に亘りて義者を賞し惡人を罰するとに由り神は全人類に對して審判者の地位ゑ立ち給ふなり且如此して神は自身の神聖を保持し道義の法則を確立し人間の至情を滿足せしめ給ふなり詩の六十二篇十二節に曰く「あ丶主よあはれみも亦なぢにありなんぢは人おの〳〵の作にしたがいて報をなしたまへばなり 哥林多後書五〇十一節に曰く「蓋われら必ず皆キリストの臺前に出て善にもあれ惡にもあれ各身に居りて爲し所のとに循ひ其報を受くべきものなればなり」と

丙 神學哲學上の解明

神は靈なり無限、永遠、不變の存在者なり智慧、勢力、聖潔、正義、眞善及眞理等存在者

の凡の本源の性質を具有し給ふと是れ古代に於る教義問答書の普通の解明なりキリスト以前異教者の神性に關する最上の解明者はギリシヤの哲學者プラトウ是なり氏曰く「神は永遠の心意にして天然中の善の原因なり」とカルビン氏の解明はルーテルと畧ぼ同樣なり曰く「神は無限にして且心靈上の本源なり」と第十六世紀に於ては未だ萬有神教的議論起らざりしが故に右の如き解明を以て十分なりとなせしも現今は然らざるなり同し第十六世紀中他の一派の解明ありウルフ氏是れなり氏曰く「神は世界の實在の根基なる自存の存在者なり」と最も近き時代の解明はヘース氏を以て最上の標本となすべし氏曰く「神は自由の愛を以て萬有の原因となれる絶對の有心者なり」とヘーゲル氏は曰く「神は絶對の靈なり」とされども氏は神に自覺意識あることを承諾せず無心の勢力と做すが故に是れ即ち萬有神教にして正統の有神論に非ず(スミス氏組織神學十一頁抄譯)

米國の神學者ヘンリー、ビー、スミス氏は神の各種の屬性を結合し且凡神說を推拒すべき一の解明を示して曰「神は其存在及屬性に於ては絶對、有心、神聖、無限及永遠な

る一の靈（たましひ）にして且萬有の根基及源因なり」と而て此解明中左の諸点に注意すべしとなす（一）靈、此は種屬的の觀念を與ふるものゝ〜て物質上の反對なるを示す（二）絶對、他物に限制せられず依賴せず全く自身に於て完全なるを云ふ（三）有心、神たる本質として固有なるものを特表す（四）神聖、此は神の道德上の完全の總額にして神の本性なり（五）無限及永遠等、神の存在及屬性の時間及空間の如何なる束縛にも制限されざるを表す（六）萬有の根基及原因、此語に附加すべき道理は吾人が神を知るや一方に於ては常ふ萬有を通ふして神を知ると云ふの事實と神ふ結果として萬有の中に發見する凡の事物の原因を歸すること之れなり（スミス氏組織神學十一、二頁抄譯）

現今諸學者が哲學又は神學上より神の本体及性質幷に萬有及人類に對する關係を解明する略ぼスミス氏と異なるものなきが如し吾人は右の解明を以て適當なりと認む

丁　神の存在を論ず

吾人は前既に神の本体、性質及萬有、人類に對する關係を說明せり今より進で其れ神の存在を論明せんとするに先ち爰に諸者諸君に一言すべきもれあり何ぞや凡ろ人れ

神を信ずるは其本來の天性にして且つ自發のものなるが故に人は必しも皆神の存在の高等なる理論を知るを要するにも非ず又之を知らざれば神を信ずること能はざるにも非ること是なり請ふ少く之を說かん

人は必しも皆道を推〜理を研めて後神を認識するものにあらず人は神を直覺するものなり故に信仰は自發にして事に觸れ物に接するの際宗敎的の經驗を積むと多きに從ひ其信念も益々深く益々固くなるものなりとす蓋し天地萬物は神の形体、神も天地萬物の大靈にして天地萬物夫れ自身と其れ變動とは常に悉く神を顯現し居るなり語を替へて之を言へば神は宇宙の大心靈ふして萬有と其變化を通ふして常に人の意識に自己を直現し給ふなり而て人は皆な性來天より稟け得て良心、道義心、理性及び美妙の念、依賴の念等を有するが故に此等のものが人を驅りて其の萬有の變轉に注視し幾多人生の經歷を積む中ふ機に觸れて無限者聖者を感想せしめ直覺せしめ認識せしむるなり是を以て宗敎は人類普通の事實にして且つ人心の中に固着し又尤も勢力を有する所以を知るを得べきなり

サムエル、ハリス氏も此事を論じて曰く「人は皆信神的のものなり何となれば人は皆神の存在の中に生活し神の活動の中央に生活するものにして皆な神聖なる感化を受け得べく又其の感化に因りて神の存在を認識する得るを様組成せられたるものなればなりされば尤も下等なる野蠻人と雖尚何處にも働き給ふ神の面前と活動の中に生活するなり彼等は肉体の感覺に依て樹木及太陽を認識する如く其の心靈の感覺に依て神の存在を認識するなり吾人は世界の諸宗教に由りて一般の人類が人は皆此の秘密なる事實の面前に生活し且つ是に依頼せるとを發見せり見よ人は皆人間進歩の各階段に因て又人間生活の各形情に因りて漸々人間以上にして又自然以上なるもの、視覺の中に進入するなり」と

氏は又人が其の天性自發の宗教心に因りて直覺したる神の觀念は最初には曖昧不完全にして後漸々明瞭に全することを論じて曰く「人類が神の眞正の觀念に達したるは實に長久の歳月を經過したる後にてありき此の關係より言へば人の神に對する知識は恰も其外界の事物に對する知識の如し人は常に日月星辰大地の面前に生活し未

だ嘗て其の勢力を減止したることなき此等のもの、側邊に活動し居るものにして人は此等のもの、存在を知り且つ此等のもの、或る正當なる知識を有するなり然れども人類は此く考へたりき天は輝ける斑點を散布したる圓天井にして地は平扁にして動かず日月星辰之を回轉するなりと其の天然に關する觀念を誤りたるが如く神の觀念に於けるも亦然り其の天然の正當なる觀念に達する進歩の遲鈍なりし如く神の正當なる觀念に達するも又容易ならざりしなりされど彼等の思想の斯く誤りしにも拘らず常に彼等の爲に活動し彼等に顯現せ〜日月星辰及地球〜依然として古今に通じて均同なりし如く人の最初の神の觀念や誤れるものにして獨一眞神なる神の眞正の知識に達するや極めて遲かりしと雖其存在と活動とに因て常に自己を顯現し人の常に知覺したりし神は未だ嘗て眞正の神ならざりしはなし」と（ハリス氏神之自現十六頁）

右に論ずる如く神を信ずる人の信仰〜自發にして人は天性の宗教心に因て神を直覺するなりされども同様の種子も其の蒔かれたる土地境遇及培養の如何に因りて或は

芽を發して青々として生長するもあり或ひい芽を出さずして其の儘枯死するもあり或は一旦芽を生ずるも中途にして朽敗するものある如く吾人の宗教心も亦其經歷境遇及修養の如何によりて芽を出すもあり芽を出さゞるもあり薄きもあり厚きもあるなりされば彼の世には一國一市邑又は一人種としては必ず神を信ぜざるものなしと雖一個人としては往々信心薄く無神論を唱ふるもの、存する所以全く此の道理に因るものとす（プルタルク）曰く「若し人ありて全世界を旅行するの勞を取らば其の人或は財産なく金錢なく演劇場及競技場なき市邑又は家屋を發見すべけんされども必らずや世に社殿なく神なき人類及び市邑を見ざるべし」とシセロ曰く「凡ろ人類の中には如何に野蠻蒙昧なりと雖好しや眞神は如何なるものなるかを知らずとも神の崇拜すべきことを知らざる程愚蒙野蠻なるものなし」とギリシヤの詩人ホーモルも「凡の人は神を仰望す」と言へりしとぞ夫れ斯の如きは是れ豈神を信ずるは人の天性にして其の信仰は自發のものなるが故にあらずや

夫れ然り果て然らば神學及哲學上の議論は全く無益なるかと云ふに決して然らず神

學及哲學上の議論の人の信仰に於けるや其の關係恰も登山の客ふ望遠鏡を附與するが如き乎吾人は是に因りて曖昧を明瞭になし薄弱の知識信仰を確實にするなり聖經に曰「ろれ人の見ることを得さる神の永能と其神性とは造られたる物により創世より以來さとり得て明かに見るべし是故に人々推諉べきやうなし」と實に然り夫れ眞神は靈体にして吾人の肉眼を以て之を見るを得ずと雖然れども一切受造の萬物は悉く神を顯現し居るが故に吾人は萬物と其變化運行とを通ふして遙かに神の玉姿を認めて之を拜するなり英國の說教者フレドリック、ロボルトソン氏嘗て曰く「人或は問はん此の世界は何ぞや又何故人は此の世界の中に置かれしかと世界の創造に因りて神を就ての觀るべからざることが明白に觀られ得るなり靜默にして燦爛たる星辰が下瞰するの時吾人は天の嚴肅なる穹窿の下に立つものなり而して神の無限の冥感的感覺を感しなさゞりしか皎々として白光の空に輝く時彼れ一の勢力に就て吾人に語る所なかりしか岩石及山岳彼等は只物質的群集の觀念を吾人に與へんか爲ふのみ存するか若しくばイスラヘルの能力に就ての理解を顯現する爲めか吾人が過去の歷

史を取り惡は決して長久に築へず只其等此國民が互に懼るべき配當の杯を受けしこと
とを讀みし時吾人は凡て是を歴史哲學として放任し得べきか若し〜くば吾人は血、戰
爭、憂困を通過して主宰者なる神の御足跡を追求し而て此の世の出來事此能此傍に
一人此精敏勇敢ふして且つ懼るべき審判者此坐するてう攝理を發見しなさゝるか見
ゆるの眼、溷疾なきの心意を有するの人は必ずや神の此處に在すを知らん……世界
は一の眼鏡なり之を通ふして造物主を見得る所の眼鏡なりされども人々の爲す所は
是れなり世人は其の眼鏡の背面に人々自身の私慾てふ暗黑なる水銀を置くなり故に
世界は此の如き人に取ては是を通ふして神が光明を放ち給ふ所の透明なる媒介とな
らずして唯自身の影像を反射する半面鏡たるのみ吾人は眞きたる眼と謹受すべき心
とを以て拜伏するを爲さずして却て世界と教授者の前ふ傲然として立ち塞るものな
り故に世界は只吾人に吾人自身の迷妄なる感情と性質とを返與するのみ故に世界に
は棘や蘚を生ずるなり雜草生ずるなり燈火は怒を以て燃へ雷は憤を諡くなり而して
逝くべき凡の物に因りて神の此の顯現が失れ自身を變化するなり――卽ち肉体の

慾、眼目の慾、又勢より起る驕傲等に因りて――世界の萬物ハ又天父を顯はすもの
に非すして只世界の世界となり了するなり」と（ロボルトソン氏說教集三百卅五頁）
予は氏の言の極めて至當なるを信ず乞ふ是より尙進んで神の存在の諸般の証論を述
ぶべし

(一) 開端原因論

人は皆自己の過去の歴史を知るものなりされども人は必しゝ皆人間全体の過去の歴
史及び天地萬物の過去の歴史を知るものに非ず故に若し人間全体及天地萬物の過去
の歴史を知らんと欲せば必ず科學哲學の補導を仰がざるを得ず今古來歐米諸國の科
學者哲學者が腦漿を絞りて研究したる其の結果なる科學哲學の啓示する所を窺ひ且
つ考ふるに諸の天体や吾人の住居せる地球や及地球上の萬物は決めて永遠の太古よ
り今日の如き姿にて存在せしものに非ず幾多の變遷進化を經て后初めて人類の生存
するに至りしは大畧今日より六七千年の前に出でざるべしと言ふ而して夫れより以
前に於ては地皮の變動定りなく水陸両棲の大怪物及び驚くべき奇怪の大木等繁生存

在せしと言ふ尙夫れより以前に溯れば天地未だ開離せず日月空天に懸からず晝夜の別なく水陸判定せず草木なく禽獸なく虫なく魚なく人なく只混々漠々濛々として雲界の有樣なりしと言ふ學者此の時代を稱して雲界の時代と言ふ

且つ吾人各國の歷史を閲するに皆天地開闢の始原を說かざるはなし其の說く所の如何に至りては固より悉く同じからずと雖天地に開闢の始初ありと言ふに至ては敢て異なるものなきが如し此の如く諸國の口碑歷史も科學哲學も又は諸國の宗敎も悉く天地萬物には必ず開闢の始原ありとなすなり果して然らば其の天地開闢の初頭に立ちて天地萬物の大始原となりしものは何ぞや又は此の奇絕妙絕壯絕美絕の大天地及森羅萬象をば彼の混々漠々濛々たる有樣より變遷せしめ進化せしめて成果せしめたる大始原の能力實体は何ぞや之を推究するの議論を即ち開端原因論と言ふ

讀者諸君は果して如何よ考へ給ふか天地萬物の開端原因は果して何物なりや予は偏に諸君の熟考せられんとを希望す而て聖書の敎示する所予輩の信ずる所は即ち之を以て天父上帝なりと信ずるなり

（二）絕對論

凡そ天地間の萬物は一として他物に依賴せず制限せられずして自存するものなし諸君試に此の眞理を應用して考へ見よ有機物も無機物も一として此理に洩るゝはなきなり有機的なる動物も植物も無機的なる礦物も將た又諸天体も理學上の諸勢力も皆然らざるえなゝ果して然らば宇宙全体も亦依賴的制限的のものならざるを得ず何となれば天地間の萬事物皆な依賴的制限的のものなりとせば依賴的制限的のものは假ひ之を合加すること千々萬々に及ぶと雖其の全体も尙依然として依賴的制限的のものならざるを得ざればなり然る時は其の依賴的制限的なる宇宙全体は果して何物に依賴し制限せられて存在するものなるか若し宇宙間に全然他物に依賴せず制限せられずして自存せる妙体妙能なるもの即ち絕對の存在者ありて宇宙萬有の根基となり支柱となるにあらずんば宇宙は何を以てか一日も存在することを得んや而して其の絕對の存在者は是れ即ち神なり

（三）思想論

凡て思想目的を現はす所の事物の原因は思想者なり宇宙萬有は思想目的を現はす故に宇宙萬有の原因は思想者なりと論結する是れ即ち吾人の思想論なり

無神進化論者は曰く「宇宙萬物は決めて有心なる大思想者即神ありて是れが創造計畫及啓導に因りて成りしものに非ず天地開闢の始初に當りて不安定なる單素物と勢力とありしが運動爰に始まりて互に親和混轉し夫れより自然淘汰適種生存等の理によりて變遷進化し來りしものなり」とされども吾人は此の說に承服することを得ず何となれば彼れ無神進化論者は第一に天地開闢の始初に當り不安定なる單素物と勢力とありしが俄然として運動爰に始まりしと言ふと雖其の最初の運動及變化を開始したる刺動力又は開端原因の何なるやを開示せざるのみならず所謂る自然淘汰適種生存等の秩然たる法則によりて進化せる此の宇宙萬有の原因をば無智無心なる物質又は自然の法則に歸することを信ずることを得ざればなり

吾人宇宙の組織を考へ万物各自の構造を念ひ其の變轉進化ふ注意して何故に然るかと熟慮するに皆目的なきはなく思想を顯現せざるはなし

諸君試に何故に地球上に動物植物礦物の如き異類のもの〻存在するかと其理を考へ見よ是れ豈礦物は植物及動物の生存に必要なるが故に非ずや植物の存するは動物の生存に必要なるが故に非ずや又何故に天は日月懸かり地に水陸の別あり晝夜四季の交迭するかを考へ見よ又或は動植礦物各自の構造に付て考へ見よ一として目的なきはなく一として思想を現はさゞるはなし故に吾人は如何にしても此の天地万物を以て自然に成果したるもの又は無智無心なる物質或は勢力の作用によりて出來せるものなりと信ずる能はざるなり必ずや宇宙万有は思想目的を現はす故に宇宙萬有の原因は思想者なりと論結せざるを得ず而して其の宇宙万有を組織し構造し監督し啓導する全智全能の有心者大思想者宇宙の大心靈は即ち救主耶蘇の敎へ給ひし所吾人の篤く信ずる所の天父上帝是れなり

（四）美妙論

試に讀者諸君に問ふ無智無心の者果して美妙を生し得るか美妙は無智無心偶然の作用の結果たりと思考し得らるべきか諸君の先天智識い必ず諸君をして萬口一齊「ノー」

と答へしむべし然り美妙は必ず有智有心者の作用意匠の結果ならずんばあらず然らば則ち諸君乞ふ心して宇宙萬有の構造と配置を考へ見よ又其の變化運行を見よ果して美妙ならざるか一年の春立還れば照り出つる旭日の影も最と長閑に霞さへ四方に綴き爛漫たる百花忽ち園林に錦を懸け青麥黄菜野邊を飾り告天子碧空に躍舞し鶯鳥樹梢に唱歌せば池水川流涓々として下より爲に樂を奏し剩さへ暖風徐ろに吹き渡りて馥郁たる蘭香と泙々たる妙音と怡々として六合に盈たんとす誰か園林郊野の春光を眺めて此世界を美妙ならずとするもけやゐる若し夫れ夏時の晩涼月老松の梢に宿り清風颯々池上の漣波を弄ぶが如き秋夜月前横笛を聞くが如き嚴冬皚々滿目銀世界と化する奇觀の如き凡て曙曉薄暮晴雨寒暑四季の交迭變化と共ふ天然が色を代へ種を交へて現呈する光景を注視せよ諸君如何に美絶妙絶の極ならずやされば古より詩家歌人萬國に輩出して何れも天地の美妙を謳歌したりき諸君試に左の詩歌に就て十分に想像の翼を伸べ見よ必ずや直ふ美妙の樂園に遊ばん彼の邵康節が清夜を吟じて月到ル天心一處風來ル水面一時一般清意ノ味料リ得ル少ナルコトヲ人ノ知レルコトヲと言へるが如

き陶淵明が四時を詠じて春水滿ツ一澤一夏雲多シ奇峯一秋月揚ル明輝一冬嶺秀ツ孤松一と言へるが如き王維が日落テ江湖白ク潮來テ天地青シの如き孟浩然が微雲淡ヒ河漢一疎雨滴ル梧桐一の如き柳子厚の千山飛鳥絶シ萬徑人蹤滅ス孤舟蓑笠客獨釣ル寒江雪一の如き又和歌にては室鳩巣先生が其の著駿臺雜話に引用せられたる

久方の光のとけき春の日にしつ心なくはなのちるらむ

朝日かけ匂へる山の櫻花つれなくきえぬ雪かとぞみる

うちしめりあやめぞかほる時鳥なくや五月の雨の夕暮

秋風にたなびく雲のたえまよりもれ出る月の影のさやけさ

津の國の難波の春は夢なれやあしの枯葉に風渡るなり

駒とめて袖うちはらふ影もなし左野の渡りの雪の夕暮

の如き皆間接又い直接に天地萬有の配置及ひ變化運行の美妙を撮影示敎せざるなし諸君又轉じて萬物箇々の撰造に就て考へ見よ百草萬樹の花と實と共に其の形狀も色澤も美妙ならざるか鳥獸虫魚彼等の形狀と彩色と共に千種萬別にして固より其の度

に等差ありと雖概〻て珍奇美妙ならざるか梅條ゝ囀づる鶯を見よ春日野に眠れる鹿を見よ草花に戯るゝ蝶を見よ泳水に游ぶ鯉魚を見よ雅致麗婉美華ならざるなし例ひ烏雀犬猫蚊蠅蝶鮒の屬に至りても又夫れ相應に雅趣なくんばあらず又無機物の領土に進入して考へなば石類金屬の一々條理を守りて結晶せるを見る若し又諸君が最良の顯微鏡を執りて雪片の結晶形を研究し又は出翼木葉等を熟視せられなば諸君ハ必ず其の極めて美妙なるに驚き讃嘆して指かざるべし

果して然らば最初に論せし如く美妙の事物は決して無智無心偶然の作用の結果たり得べからざるが故に此の如く美なる宇宙萬有は必ずや有智有心なる天父上帝の存在するありて其の創造維持に頼るものなりと斷定せざるを得ず誰か言ふ神存在せずと乞ふ來て吾人に何故に宇宙萬有は其の配置構造變化運行の此の如く美妙なるかを解明せよ

（五）萬有經濟論

茫々漠々廣大無邊にして何人も其の端涯を知り得べからざる此の大宇宙を以て假に

一大倉庫なりと想定せよ而て此の一大倉庫の中に滿々として充盈する所のもの大は太陽及び諸恒星木星土星の如き天体より小は蟻螻砂塵の類に至るまで其の類屬數種固より無限なりと雖吾人の研究し思考し信ずる所によれば一として不用無益のもの存することなし（或は適々稀に人智の未た及ばずして其の用利を發見せざるものあるへきも）果して然らば此の如く萬物の靈長なる人類の爲に有用有益なる億萬數種の品物をば豫め此の一大倉庫の中に貯蓄し給はりたる倉庫の主人は必ずや有智有心者にして且つ仁愛なる至尊者大恩者ならざる可らず何となれば有用有益なる事物の多數が智慧なく心なきもの、結果所造なりとは人心自得の元理に背き公平なる心の思考し得られざるとなればなり

抑も諸君は如何に思考せらるゝか宇宙間の萬物は或は直接に或は間接に或は肉体上に或は精神的ふ悉く皆諸般の利益を供給するにあらずや或物は吾人の食物となり或物は衣服家屋の材料となり裝飾となり或物は旅行運搬音信防衛製造等の器具となり便利となり或事物は肉体及精神に快樂を與へ智識を與へ警戒を與ふる等萬事物一として有用有益ならざるはなし聖經に曰く「うれ神の造りし物はみな美なり感謝して

受るときは棄つべき物なし」（提前四〇四）と眞なる哉言や

然りと雖萬物の組織と相互の關係は極て複雜にして相賴て以て現はす所の目的及用益は頗る深遠なるが故に淺き人智を以ては容易に其の全局及び究意を看破し解了し得られざるものなれば吾人は只に事物の一部一端を見て輕卒よも全智全能なる神の事業意志を臆斷するの誤謬に陷らざらんことを勉めざる可らず聖經に曰く「あゝ神の智と識の富は深かな其法度は測り難く其踪跡は索ね難し孰か主の心を知し孰か彼と共に議ることを爲しや」（羅十一〇卅三四）と故ふ未だ人智の全く其の理其の用益を發見し得ざるものもあるべゝと雖既に人智の及ひたる多數を以其の他を推測せば宇宙の萬事物一として人類の用益をなさゝるはなし天災地變過失病苦貧賤不幸及ひ惡逆の人猛獸毒蛇等の存する所以未だ必しも是が解釋なくんばあらず蓋し或場合に於ては怠慢不注意罪惡に對しての警戒又は刑罰たるべく又或る場合に於ては人智啓發精神鍛錬の爲めなるべく又或る場合に於ては被害者外萬人后世に對しての警戒鑑例なるべし且つ此の上に靈魂不滅及び完全なる靈界の存するてふ眞理の光を以て之を

照せば千疑万怪忽に奔逝して胸中白晝となりぬらむ是れ聖經の明示する所予輩の固く信ずる所なり果して然らば吾人は宇宙間に於て起る凡の出來事及び宇宙間ふ存在する萬物は悉く皆な人類の爲に有用有益ならざるはなしと斷言するに敢て躊躇せざるべし

果して然らば此の宇宙と云へる一大倉庫の主人は必ずや有智の經濟家ならざるべからず人類に對して極めて愛憐の深き御方ならざるべからず何となれば若し其の主人よして無智不仁の不經濟家ならば有害無益のものも多く創造せられて大倉庫宇宙の中に存蓄すべく非理酷慘の出來事常に呈現して地球は人類の生活に適せず生民滅絶するが如きともあるべき筈なればなり（災禍疾病毒害の物の存する理由は其の一端を前段に論じたれば讀者熟考せらるべし）

借問す讀者諸君此の有智愛憐の經濟家宇宙の主人は果して誰なるか

（六）精巧論

吾人又た第十九世紀科學の光明を持して宇宙萬物の組織構造を審査し來るときは眞に其の精巧の極なるを驚嘆せずんばあらず乞ふ吾人が嘗て學びたる一二の例を揭げ

て之を讀者に示さん

(一) 視官の構造

(哲學博士森田久萬人氏証據論口授筆記抜抄)

一眼窠は眼球を入るゝ處にして其の周圍には頭骨瞼骨鼻骨ありて其の構造甚だ堅固にして横面より來る災害を防くに適し内部には又眼球を維持するの組織あり

二眉毛は濃厚なる鬚毛ふして眼形に準應して其の位置を保ち汗滴等の流れて眼中に入るの害を防く

三瞼皮は恰も二箇の籬の如く上部にあるものは下部にあるものより稍大にして運動も亦自由なり而て其の内部には粘液膜ありて能く感じ易く以て砂塵埃の侵入を防ぐ

四睫毛は亦砂塵等の侵入を防ぐの用を爲すのみならず光線の度量を斟酌整理し及び光線に伴ふ熱線を量り内部の網膜を害せざらしむ

五上下の睫毛に近く脂線あり瞼皮の粘着を防ぎ又涙液の溢流を支ゆ

六眉骨の外部眉の下部に常り涙線ありて瞼皮に膏を與へ且つ眼球の内部に濕氣

を與へ以て是れが透明を保つ

七両眼の下部に鼻孔あり涙液の不用なる部分を運び出すの道なり

八涙線は外部に鼻孔は内部にあるが故に涙液の流るゝ時は勢ひ眼球の上面を經ざるを得ず瞬は即ち是を助く涙液の多きときは瞬をなすこと多きは是の故なり

九眼球は前面稍凸起したる圓球形なる横一寸餘縱一寸弱眼球は各三箇の透明体と膜体とあり

十三箇の透明体は水樣液水晶液及硝子液にして三箇の膜体は硬膜脈絡膜網膜是れなり此等の六物は眼球の六分の五を組織し其の餘は前面にありて凸隆をなすものにして角膜と言ふ薄く透明ふして恰も窓に用ゆる玻璃の如し

硬膜は角膜と共に眼球の外部を包圍するものにして白色不透明尤も堅固にして防禦に適す

脈絡膜は網膜と硬膜との中間にありて其の質天絨の如く内面一帶黑色なり其用は眼中を通過する光線を吸收して反射するなからしむ

網膜は視神經と連絡して物の影像悉く茲に映射す而て其の影像をば感覺神經を經て腦中に通せしむ

角膜の後に接して水の如き透明液あり是を水晶液と云ふ此の液中ふ眼簾或は光彩ありて其周圍は硬膜に附着し中央に圓形の小孔を備ふ是を瞳孔と云ふ但し眼簾の色に黑、青或い灰色の別ありて同一ならず此の眼簾に二種の筋肉ありて其伸縮を自在にす卽ち光線の強きときは伸びて瞳孔を小にし弱きときは是を大にし以て進入する所の光線をして適度ならしむ

又眼簾の背に水晶液あり其形狀を複凸透鏡の如く後面は前面より更に凸隆せるものなり其の用は光線を集めて焦点をなさしむるにあり此液に接して硝子液あり眼球の內部に充滿し其周圍は網膜に因て被包せらる

十一網膜中視神經に接して三百三十六萬許の圓錐体と無數の圓柱体あり光線若し此等諸体の存せざる處の神經に落下するも感覺なし黃点と稱する處は網膜の中心に位し此に諸体夥多にして視覺尤も銳敏なり

十二獨逸の理學者ヘルムホルツ氏曰赤綠桔梗の諸色は眼球中各特別なる神經を有す白色を見るときい三種の神經共に感すれども若し赤色なるときは赤色神經尤も強く感じ他は次第に弱く感ずと

十三眼目の上下及內外の二部に凡そ四箇の筋ありて分布し眼球の運轉を自由ならしむ

十四遠近を視るに適合するは水晶液の凸形の伸縮するに因る常体は平面に近けれども近きにあるものを熟視するときは其の凸隆高まりて明影を映視す又近きものを視るふは多量の光線を要せざるが故に瞳孔收縮す

十五眉目は人體中最秀美なる處なり且つ諸の思想及感情此に現はる

十六眼目に因りて諸の智識を得るなり光、色、表面を知るは視官の固有智識なるのみならず且つ經驗によりて物体の重量距離方向運動及臭味を知る

（博士デビス氏天地大原因論抜抄）

（二）空氣の性質作用等

空氣の高さ七十八里（四十五英里）にして其の地球を環圍すること猶卵白の卵黃を

環圍するが如し空氣は一寸四方に付き一貫目の壓力ありて其壓力は尤も宜きを得たるものなり其の壓力或は減し或は增すの變あらば植物動物一日も生活すること能はず然り而て空氣の壓力の原因は四あり曰く空氣の性質曰く空氣の量曰く空氣の溫度曰く地球の引力是れなり此の四者の釣合宜きを得るか故に其壓力も亦其の宜きを得るものなり其釣合は上帝の働きなり○又空氣は透明なり故に光線を受けて之を散布するの力あり空氣なき時は直接に日光を受くる處のみ明白なるべし直接に日光を受けざる處は必ず黑暗なるべし黑暗の室內より明白の室外に出る時は忽ち吾人の眼目を害するの患あり然れども空氣あるによりて更に此の患なし旭日未だ東天に出でざるの前より少小の光線を散布し黑暗變して昧爽となり再ひ變じて曉となり遂に旭日の上るに至る黃昏に於るも亦然り其人眼に大利を與ふる實に大なりと謂ふべし○又空氣は溫度を散布するの性あり溫氣散布せざるときは空氣中所々に寒暖の差異を生じ大に人間健康上に害を生ずるものなり且つ北極南極帶の寒風は赤道に赴き赤道の暖風い兩極に赴き兩極赤道彼此寒暖相交易するは皆空

氣の力なり○又空氣は溫氣を含藏するの力あり其含藏力の大なる鎭の二倍に至ると云ふ此の含藏力なきときい晝間に受けたる溫氣は夜に及で忽ち之を發失し大に寒氣を生じ以て人獸の健康を害するの患あり中夏の大暑と雖高峯雪を戴くは山上の空氣疎薄にして其の溫氣を含藏するの力なきが故なり夜中高山の上にありて頻りに寒冷を覺ゆるも亦同理なり○又溫氣の空氣に出入するに一定の規則あり溫源の度の高き時は其の入ること至て易きなり溫源の度の低きときは其の出ること至て難きなり太陽は溫源なり其の溫度至て高きが故に空氣に入ること至て易し地球の溫度は至て低きが故に其の溫度を發出ずること至て難し故に地球は多量の溫度を受けて少量の溫度を失ふの割合なり此の仕掛なきときは地球の表面を忽ち嚴寒の極度に下り大に人体を損害すべし花戸が「ムロ」を造りて草木を圍み以て嚴冬の寒威を禦ぐも亦此理に原く「ムロ」は太陽の溫を受くること大にして之を失ふこと小なればなり○又空氣は音聲を傳ふるの性あり物体微動すれば必す空氣中に波瀾を生ず之を名けて音聲と云ふ一秒毎に微動八回なるものは音聲の尤も低きものなり微動

一秒毎に數万回に及ぶものは音聲の尤も高きものなり音聲の速力一秒間に百丈餘に至ると云○又空氣は五色を備ふるの性あり色も亦物体の微動より起るものなれども之を音に比すれば色波は最も微秒なるものなり各色各波の長さは即左の如し

(省略)又空氣は窒素酸素炭酸及び水蒸氣の四物を以て成る此の四物の分量各其の宜きを得ざるに非れば決して以上論ずる所の空氣の大功用を爲すと能はず動物は常に空氣を呼吸して酸素を變じて炭酸となせども植物は之に反して炭酸を變じて酸素となすが故に両氣の分量更に變異せざるものなり空氣中所々寒暖の差あるが故に風あり風あるが故に空氣流通して凝滯せず以て空氣の腐敗を防ぐなり

諸君僅に右の二例に就て考ふるも萬物の構造及作用の如何に精巧の極なるかを察知するに於て充分なるに非ずや若し夫れ此の外動植物天文地質化學等のことを言はんには時足らざるなり

然る時に予は讀者諸君が何故に萬物の構造作用は此の如く精妙巧密なるかを考察し判斷せられんことを希望す全智全能至愛至義なる神靈の存在するに非ずして何を以

てか能く此の如くなるを得んや

(七) 理法論

予聞く嘗て西洋の或國に一人の賢明なる父ありしが其兒に上帝存在の理を悟らしめんとて豫め庭園に草花の種子を蒔き置きぬ地軸轉々廻りて息まず既に幾日を經過し其種子の方さに生長せし頃ひ兒子は一日何心なく庭園に出で行きしが忽ち草花の美はしくも己が姓名を現はして咲きけるを認め愕然暫く能はず直に父を呼び伴ひ出で、頻りに其理由を尋ねける父は則ち微笑して其兒に言ふ樣爾は抑も如何に思考するにや此草花は偶然に爾の名を現はして咲けると思ふか兒子答て否とよ父上、よもさるにてはあるまじ智慧なき草花は吾名も文字も知るまじければ此は父上の戲むれて斯く爲し給ひしにこそ相違なけれと云ふ因りて父い然なり然なり此い吾身の所爲にてありしぞかしさりながら此は徒らなる父の戲事よはあらで實は爾に貴き道理を悟らせんとて此くはせしものを兒よ父は更に爾に問ふ見よ此の廣大なる天地万物は如何に美はしからずや又萬物は皆一々道理に基き正き法則に從て働くにあらずやされ

ば兒よ天地萬物は如何にして出來たりと思ふやと言へば兒は躊躇なく大悟したる面色にて神なり神なりと最と眞面目に答へゝと云ふ

抑も吾人の信ずる所に因れば凡て道理に基き法則存する事物は必ず有智者の結果所造なり天地萬物は道理に基き法則存ず故に天地萬物は必ず有智者なる天父上帝の結果所造なり

今夫れ無智無心のもの、結果所造にして道理に基き法則存するものあらんとは人心の決して思考し得べからざることなるが故に思ふに讀者諸君は必ず皆子が比の論理の前提を承諾せらるべし果して然ば子は今進んで天地萬物は道理に基き法則に從つて運動せるものなるを論ずべし

凡そ何人にても少く思慮あらん人は必ずや天地萬物に一貫せる天理法則の嚴然として存するありて人ゝ毫も之を犯し又變すべからざるを認めん

則ち天文學者は諸の天体が皆悉く天理法則の配下に立ち其命を遵奉して運行するを見るべく化學者は六十有餘の諸元素が秩然たる道理法則に從ふて化合し變化し分析

せらるゝを見るべく生物學者は諸種の生物が一々法則を守りて或は進化し或は退化し或は變遷し或は生長增殖し或は死滅するを見るべく物理學者は又諸般の物体が皆一定の理法に從つて或は液体と變じ或は氣体と化し或は固体と變じ固体復た液体に復し液体復た氣体に還り斯くて變化無限循還無窮にして以て萬物生々天地安泰するの妙を見るべし凡て何等の点より觀察するにもせよ何等の學術に由りて萬有を讀むにもせよ智識あらん人は必ずや遂に宇宙萬有に一貫せる天理法則の座前に到達し夫が榮光を見て之を拜すべきなり若し夫れ然らずして天地萬物は道理に基けるものにあらず一定の法則に支配せらるゝものに非んば學者は何を以てか一歩も其研究の途に上るを得んや又人類は一日も生命を地上に安んずること能ふまじ何となれば若しや萬物に理法の一貫せる者なくして此物は斯くあるも同類の彼物は斯くあらず此處に於ては斯くありしも同樣の事情なるに拘らず彼處に於ては斯くあらざる時は是即ち天地は全く紛擾錯亂無理無法の相態を現ずるものなるが故に學者如何に腦漿を絞りて萬般の現象事實を研究するとも之を推理し分類し概括し組織すること能はざる

が故に何等の學術も決して成立すること能はず既に成立せざれば無論又應用し得べき何等の學理も絶へて存することなし是に至て凡の學術及學者研究の辛勞は全然徒勞無益に歸すべければなり且つ日本に於ては米麥は人の食用に供し得べきも若し道理法則の宇宙に一微せざる其の時に於ては歐米にては同類の米麥も果して人の食用に供し得べきや否事未だ判然たらざるべく中國の水は低きに流るれども東北諸國の水は逆流するやも謀られず畿内の犬猫は人を殺害する程猛惡ならざれども北海道の犬猫は人を殺害することなしとも知れざるべきが故に此の世界は眞に危險の極にして人は一刻も生を安んずることを得ざるべければなり

幸にして然らず天地萬物は道理に基き萬有を支配せる法則も何れの處何れの時よ於ても恒久同樣にして毫も違はざるが故に是に於てか諸般の學術も成立し且つ之を應用することを得て萬般の利益發明も起り人も理法を信用し經驗に依賴することを得て安然として斯く地上に生活するを得るぞかゝ

果して然らば凡て道理に基き法則の存する事物は必ず有智者の結果所造なり天地萬

物は此の如く道理に基き一定法則に支配せらる故に此の天地萬物は必ず有智なる天父上帝の結果所造ならざるべからずと信するは果して道理に非るか但しは庭園の草花が偶然ふして人の姓名を現はすべきか

（八）人性論

吾人今萬有物質界を去り靈妙にして且つ尊嚴なる此心靈の國土に來り眼を放て人心の性質作用及秘奥の願望天來の傾向等を觀察し思考し判定するに吾人は茲に又天父上帝の存在を信ずる吾人の信仰を確むべき諸の道理を發見し且つ天父上帝の公義仁愛にして恩惠の豐富なるを認め轉た感謝の念に滿たずんばあらず讀者よ乞ふ吾人を導して先つ心の足より履を脫し思念を深め而后徐ろに進み以て聖なる神の山に神の足跡を追はしめよ

（イ）良心の作用は神の存在を証す

何をか良心の作用と云ふ曰く「萬人の心皆善は爲すべし惡は爲すべからずとなし善を爲せば心に平和喜樂を感し惡を爲せば憂苦と畏懼と不安とを感ず」是れ即ち良心

の作用なり良心あるが故ふ人は善德に進み善業を爲すなり良心あるが故に人も社會も甚だしき暗黑と罪惡とに陷らざるなり良心あるが故に社會の改良も成就し惡人も轉迷悔悟して翻然として善に立還るなり良心あるが故に善人は心に平和と喜樂と滿ち惡人は憂苦と畏懼と不安とに責めらるゝなり

若しや人に良心なからましかば世は如何に成り行くらん人は如何に成りゆくらん想像するだも最と懼ろしとも懼ろし

聖經に曰く「彼等りの心に銘されたる律法の工を表彰し其良心これが證をなして其の思念たがひふ或は既あるひは褒むることを爲せり」と

蘇國エデンボロ大學教授フリント氏も亦曰く「良心は、吾人を統治する全權を有し吾人の全能力を監督し支配し且つ吾人を究察し吾人を認知し吾人の前後に圍繞せる一の完き善且つ聖なる意志の委員又は代理者の如き權威の聲を以て吾人の意志に反對して吾人を警戒し脅迫し攻擊し及懲罰するなり抑も此の完全なる權威ある至極意志其ものにまで凡の良心が――最も錯誤せるものさへも――指返する所の此意志は誰

が意志ぞや上帝の意志に非ずして何か」と（――フリント氏有神哲學二百十九頁）

果して然らば万人の心に天の律法を刻し良心をして之が證を爲さしむる者と誰ぞ

（ロ）道義心

孟子曰人皆有二不レ忍レ人之心一――所四以謂二人皆有二不レ忍レ人之心一者今人乍見二孺子一將二入レントスルヲ於井一皆有二怵惕惻隱之心一非レ以所三以二內二交二於孺子之父母一也非レ所三以二要二譽一於鄉黨朋友一非レ惡二其聲一而然也由レ是觀レ之無二惻隱之心一非レ人也無二羞惡之心一非レ人也無二辭讓之心一非レ人也惻隱之心仁之端也羞惡之心義之端也辭讓之心禮之端也是非之心智之端也人之有二是四端一也猶二其有二四體一也有二是四端一而自謂不レ能者自賊者也凡有二四端一於我一者知皆擴而充之之矣火之始燃泉之始達如苟能充之足以保二四海一苟不レ充不レ足以事二父母一且つ人は皆義務の念を有し種々の關係に因りて生ずる義務も必ず盡さゞる可らずとなす

夫れ人は必ず此の四端の心と義務の念を有せざるはなし而て人の此の心念を道義心

と云ふなり

彼の骨肉の間に自然に憐憫の情動き義を聞て感奮し義務と知つては死地をも冒さんと欲する等崇な道義心の作用に非るはなし

世に大人君子とて最貴き人のあるは能く此の心を研きたるにて凡夫小人と云ふは私心私慾のみ盛にして此の心の衰敗せるを云ふになむありける

若しや人に道義心なかりせば人情は眞に氷よりも冷かになり殺伐の氣天を衝きて社會は忽ち修羅の巷と化し人は虎狼と分つことなけん

幸にして人皆此心を有すればこそ罪惡も其極に達せざるなり又時に大人君子の心腸を鼓舞して其の汗と涙と血とを以て社會の汚濁を洗滌せしめ全く己を忘れて國家同胞の爲に碎身粉骨せしむるぞかし噫々此心ばかり貴きものはなし

抑も如何なれば凡の人は此の如き心を有てるにや加賀の儒者太田錦城曰く「何を以て人心天命と一なるを知ると問はゞ皐陶謨泰誓を引くにも及はず先づ吾心を知るべし此心と云ふもの我造作し出せるものにも非ず父母の造作せる者にも非ず自然にして然るものは人造に非ずして天造なり人心なるもの天造なるときは人心に是は善也と愛慕するは天神の其善を愛し玉ふなり人心に是れは惡なりと惡み忌むは天神の其惡を惡み玉ふなり人の本心妙明にして是非善惡ふ惑はざるものは我には非ず天地の鬼神なりと知るべし去と人慾混亂して是非も善惡も蒙昧なるときは天地の神明に非るのみか又我本心に非るなり此心を以て天道天命なりと思はんは大なる誤也うれ等の心は天地の妖氣にして天地間の惡魔なりと知るべし」と

中庸に曰く天命之ヲ謂フ性ト率フ性ニ之ヲ謂フ道ト

夫れ無は有を生ぜず凡の結果よい夫れに適應せる原因なかるべからず故に宇宙間に斯くの如き道義心を具したる人類の生存することは即ち萬物の造物主又は宇宙の造化力は道義の心性を具したる至尊者即ち天父上帝なることを証する所以にあらざる平。

(八) 理性

人は皆な詐欺と誤謬とを排して眞理の光を求め怪疑の門を破て眞理の王を捕んと欲

す己知に因て未知を推知し過去に鑑みて將來を戒むるなど理性の作用に非るそなし其は疑いーきてとなり詐僞ならんやも知れじ誤謬ならんやも知れじとて事實の眞實を尋求むるは理性の作用なり此は何故ならん何故斯かることの生ずるならんとて事物の道理原因を知らんとするも理性の作用なり種々の害惡を防き種々の便益及幸福を增すの途を工夫し發見するも理性の作用なり古に鑑み過去の經驗に照らして將來を戒むるも亦理性の作用なり

若しや人に理性なからまーかば此世は全く眞の暗夜となり日つ人は全く無智愚蒙にして禽獸と少も異なることなけん幸にして人に此の理性あり是に於てか世の文明も進歩し社會も改良に赴き人も益々便益と幸福とを增すにぞある

見よ水は泉より湧き雪は空より飜べり降る人の理性は抑も何處より來りしぞ何故人は皆斯の如き貴き理性を具へて此世に生れ來るにや

（三）美妙念

夫れ此世界ハ天父が人類の爲めに設け給ひし最大最美なる公園地なり天には高く日

月星辰を懸けて以て紅燈銀燭となし地には山岳河海原野林園市邑を連ね綠葉紅花碧氷玉雪等を以て之が裝飾となし疾雷狂風暴雨地震山谷の崩潰飛瀑怒濤若ば彈丸の響征馬の嘶聲等を以て壯快の音樂となし林間に囀る小鳥の聲靜かに響く谿流泉池の音などを以て優美の音譜を奏で秋郊の虫黃昏の歸鳥遠寺の晩鐘等を以て悲音の調となす牧童の村徑に歸る漁夫の波浪を破て行く煙を殘して漁車の走る犬を抱きて童子の戲るゝ朝暾夕照奇峯江海の眺望等一として吾人の耳目を喜ばさゞるはなし觀し來れば此の世界は眞に天與の樂園なりさりながら人に美妙の心なからましかば花ありと雖水ありと雖月ありと雖雪ありと雖其れ何を以てか之を樂むを得んや

且つや人心は眞と善とを求むると同時に又美の女王をも追ひ求むるなりさればこそ文學も建築も衣服も將た又百般の用具に於ても人皆意匠を凝らして相當の美をこそ現はさんとはするなれ

是故に若や始めより人ゝ美妙を味ふるの能力なく且つ美妙を好むの心なかりせば人は如何計り不幸なりむならむ社會は如何計り醜体汚狀を呈するならむ幸にして人に

美妙の心あり以て天地の美妙を樂ひを得以て社會に清潔と美妙と存す

果して然ば讀者諸君い人皆斯く美妙の念を有するを以て單に偶然の結果となすか乞ふ再思せよ決して偶然なりとい思考せられまじ

（ホ）依賴の念

舜は大孝の人なり初め父母に奉へて心思を尽せしかども父母彼を愛せず却て慘酷を以て之を苦めしかば恒に田に往て旻天に號泣せしと云ふ仲尼は聖人なり嘗て惡人の己を害せんとするに遇ふ泰然として曰く「天生二レリ德ヲ於予ニ桓魋其レ如ニ予ヲ何ニセン」とヴ

オルテーアは有名なる佛國の無神論者なり嘗てアルプスの後嶺に攀ぢ斷崖絶壁の上に起ち遙に山下を眺望してありしが俄然として黑雲空を掠めて來り霹靂として迅雷の頭上を壓せし時彼れ忽ち地に倒れ聲を放つて神よ我を救ひ給へと叫びしと云ふ夫れ號泣して旻天に訴ふるもの天命に依賴して安然として動せざるもの危難に際會して救を神に求むるもの何れか人身の奥底に潛伏せる依賴の念の發現にあらざるべきや彼の宗教の事實の世に普ぐして未た眞神の何たるを辨せずながら尚神佛に禮拜し

神佛に祈願するものなど亦此依賴の念の發表に非るいなし

病者の美味を美味とせざるは美味の美味に非るが故ふ非ず味覺に變化を生せしが爲のみ世に依賴の念の著しく現はれざるものあるは依賴の念なきが故に非ず他に之を澈ふ所のものあれば也

果して然らば凡ろ天下の事物需用あれば必ず供給あり人に此の依賴の念ありて豈此れに應ずる無限者なかるべきやは無限者は即ち神なり

夫れ人には斯の如く眞心あり道義心あり理性あり美妙の念あり依賴の念あり以て眞と美と善と無限者とを求む人心本來の此等の作用は人の作爲せるものに非ず人の作爲せるに非ずして生起する凡の事物は造化主の所造作用なり故に人心本來の此等の作用は造化主の所造作用なり

果して然らば人心に此等の作用あることは有智の造化主即ち天父上帝の存在することを証すると同時に其造化主い即ち眞美善を求むる眞美善の本体にして且つ無限者なることを証するに非して何ぞや

(九) 歴史論

吾人が又歴史上よりして天父上帝の存在を確むるの道理に三点あり

(イ) 世の文明の漸次に進歩するは神の摂理の形跡なり

吾人聊か萬國の歴史及び文明史を讀み且つ考ふるに世界の文明は世紀を加ふる毎に漸次進歩し來れる事實を認む

固より一國又は一時代に就て考ふる時は盛衰榮枯興亡の變窮りなしと雖若し夫れ凡の國家及凡の時代を通して之を達觀する時は何人も世界の文明は無數の變化を過ふして時代の波より時代の波を越へて進歩し來れるを認むべし今を以て將來を推すに必ずや又今を以て過去を見ると異なることなきや明白なり

果して然らば何故に世界の文明は益〻進歩し人は益〻幸福と便益とを增加するを得るか見へざるの神が冥々裡に人智と萬事とを啓導して然かなし給ふに非ずして何ぞや

(ロ) 歴史上に善悪應報の證跡存するは神の審判の証據なり

吾人は神の審判は重に人心の内部に存し永遠に亘りて定るものと信ず即聖經に「神

は人の行ふ循ひて各人に其報を爲すへし耐忍ひて善を行ひ榮光と不朽壞とを求むる者には永生をもて報ん然ども爭鬪をなし眞理に順はず義につく者には報るに忿と患難辛苦とを以てす」と云へるが如しさりながら外部に現はるゝものも亦顯然として蔽ふべからざるものあり何人にても少く注意して歴史傳記抔を讀みたちんには必ずや一國一家又は一箇人々の上に或は速に或は遲く善悪應報の照々乎として報ひ來るを見るべし讀者彼の梧窓漫筆を見しや太田氏畏天を論ずるの邊に於て和漢の事例を列擧し天の應罰の懼るべきを論ずる眞に剴切なり今其の二三を引用して一汎を讀者に示さんと欲す

天道好て還すの一語千万世に渉て差ふことなし信玄の父を逐出して其子義信父を弑せんと謀て誅せらる姑智の諏訪頼茂を欺き害して其女を奪ひ夫か腹に勝頼を生して國を滅す天道之巧なる造作し出せるに似たり

曹操父子漢に逼て天下を奪へば司馬懿父子孫魏に逼て天下を奪ふ宋の後廢帝無道にして齊祖天下を奪へば齊の東昏無道にして梁武天下を奪へり北宋の滅る金人宋

の妃嬪公主を奪ひ去りし處を青城と云ふ金の滅る元人金の妃嬪公主を奪去る處又青城なり天道好還又巧なり

氏又天地に屈伸の理存することを論じて

日本にて奢侈を極めたる人は御堂關白道長平相國清盛豐太閤秀吉三人なり御堂殿も四男にて少き時は麥飯海鹽を食たることある人なり淨海入道の少き時は繼母の池の禪尼にいためられて某の中納言の家へもらい食に日々行き玉へると西光法師の詈るにて知れたり豐公の卑賤困窮は女童部も語り傳ふると也皆大屈より大伸を生したる人なりされとも御堂殿の榮耀奢侈を極められて其子の宇治殿後三條院の英明に行逢たる故藤原氏の權頓に挫屈せり道長にて藤原氏の盛此に極り其衰も亦た此に始まれり淨海入道の奢侈榮華を極められて子孫は西海の波濤に沈溺せり豐臣關白も榮華汰侈を極められて子孫滅亡せり皆是大伸の大屈を感招するものなり云々

人を遇して恭敬の誠を盡すも屈なり其人必ず愛悅するは伸なり道を行くよも人を

廻避するは屈なり其人必ず悅喜するは伸なり人に遇して倨傲不遜なるは伸なり其人の怒り怨を受るは屈なり一言一行皆屈伸の理ありて道を知る者は屈を知るものなり能屈する人は福祿の伸を得さるてとなきは天地古今の常理なり云々

と其れ正義の念盛なる時は國必ず興り敗德の民は久しからずして亡ぶ積善の家には餘慶あり積不善の家には餘殃あり天に從ふものは榮へ天に逆ふものは亡ぶ天道親なし善に與す天網恢々疎にして漏れず眞に儒書に云へるが如し又佛者が因果應報の道理を主張するが如き皆善惡應報の理法及事實を認むるに非るいなし

室の鳩巢先生も言へり曰「凡人のする事善となく惡となく限もなく入亂るれば善惡の報ひいかてか急に極るべきされば前後不同有て治定せぬ事のやうにみゆる程よ小人の險を行ふて幸を求る事もあやしむふ足ず然るに天にも終には勘定の極る時有り是を天定まると謂也茲に至て天の聰明は天下の名算の人と云とも及ぶまじければ善惡の報輕重大小少〳〵も違ふ事有べからず昔より唐土大倭ともに世の英雄豪傑多くは己が武勇智謀に誇て天の未定らざるをみて天道は人力をもて自由よなる物と思ひつ

、猛威を逞ふし詐力を恣にして一旦は志を得るに似たりとい〳〵ども程なく天定りぬれば忽に天罰あたりて身うせ家亡ること古今歴々として其例し少なからずされば人として天に勝は禍のもと、知へし小人は眼前の利を見て淺はかに是を悦び君子は未然の害を監て深く是を懼る」と(駿臺雜話卷の二)

果して然らば斯く古今に通じ萬國に亘りて善は榮福を來たし惡は禍害を招くものは抑も何の故ぞや是れ人爲に非ずして而も應報の事實照々たり應報の事實照々たるものは抑も何の故ぞや是れ見へざるの神正義の上帝が宇宙に存在し冥々裡に善を與し惡を罰し給ふが故に非ずして何ぞや

(八) 宗教の事實の世に普きことは神の存在する証據なり

其の學理よりせると經驗よりせるとを問はず凡て多數の人の信用せる事柄は論理上一の信據すべき條件たるに相違なし尤も其等の人々が無學無智なるものなるか又は其の事柄ふ付て研究し思考せしことなきものなるか又は著しく其事柄に對して利害を感するもの多くして妄に反對し或は妄に辨護せんとするの傾向存する場合などに

於ては是等の人は証據人たるの資格欠乏せるが故に單に多數人の輿論なりとて又多數人の信用せる事柄なりとて決して論理上適當なる証據といならざるなりされども普通正當の場合に於ては多數の人の信用せる事柄は論理上証據の一條件なり況んや其等の証據人の中には多數の有德有智の人々存し且つ其の事柄が古今に通して均しく多數人の信ずる所となり又萬國に通じて同じく多數人の信ずる所となり尚且つ時代の進むと共に人智の進むと共に益々普く益々深く人の信ずる所となるに於ては愈々以て其事柄は論理上十分に信據すべき証據の一條件ならざるべからず

今夫れ何の宗教よもせよ凡て宗教は皆人間以上にして又自然以上なる大能大智者の存在を認めて是を崇拜し之に祈禱することを含まざるはなし而して此の宗教の事實の古今萬國に通じて普きことは歴史上顯著なること古代の埃及、巴比倫、希臘、羅馬に宗教なかりしが現今文明の花なる歐米の國民は宗教を有せざるか印度、支那は如何南洋諸島及亞弗利加州の野蠻人民は如何に彼等皆宗教を有せざるはなし

又見よ世界の畑に於て迷妄不完全なる神の思想及び宗教の組織は次第に苅除せらる

ゝも獨り最高にして完全なる基督的神の思想及信仰の宙は文明の光に曉められつゝ學理開發の雨露に潤ひつゝ益々廣く益々深く其根を人心に下しつゝあるに非ずや

夫れ基督教が初て亞細亞の西端猶太に生れしより今を去ること一千八百九十餘年の古昔なりしが其の信仰の傳播の速なる僅々三百餘年を出ずして羅馬全帝國の民草を靡かせ帝國の滅亡するや其の征服者にして現今歐米人民の祖先なるウアンダル人ゴスト人フランキ人アングロサクソン人等の信奉する所となり紀元一千四百九十二年に彼の有名なるコロンブスが亞米利加州を發見するや基督教も亦續て此の新土に渡航し來り深く此地に根據を置くに至れり降て今世紀となり汽車汽船の發明ありて頗る旅行の便を增し萬國の交通開くるに至れば基督教も亦更に汽車に投じ汽船に乘じて地の極にまで進軍し今や世界國を立る衆しと雖殆と國として讃美の聲を聞かざるはなきに至れり即今世紀中歐米の信徒が異邦萬國に福音を傳へし結果を言へば新に基督信徒となりしもの凡そ二百三十万人餘ふして其中亞米利加の土人は六十八万餘人太平海諸島に二十万人亞細亞の諸國ゐ七十八万人亞弗利加ヤタカスカルに五十八万人

あり又傳道者の立てし學校の生徒凡五十万人あり又聖書は二百七十餘箇の異國語に飜譯せられたりと云ふ

又現今全世界の宗教上の有樣を言へば(一)歐羅巴州より人口凡三億萬人ありて其中猶太教徒五百五十万人、回々教徒六百万人、羅馬教徒一億五千万人、新教徒七千五百万人、希臘教徒七千二百万人あり(二)亞細亞州には人口八億三千万人あり其中に猶太教徒一百万人、回々教徒一億一千三百万人、異教徒七億万人、基督教徒一千二百万人あり(三)亞弗利加州には人口凡二億萬人ありて其中猶太教徒一百萬人、回々教徒五千萬人、異教徒一億四千五百萬人、基督教徒三百五十萬人あり(四)亞米利加州には人口八千五百萬人ありて其中ゐ異教徒九百五十萬人ありて自餘は減く基督信徒なり(五)太平海の諸島には人口總計四百七十萬人ありて其中に異教徒二百七十萬人、基督教徒二百萬人あり」と云(右二件同志社教授博士ラールチデル氏著述ノ基督教會歷史ニ據ル)以て基督教の信仰が非常なる勢力を以て地球の全局面に弘流しつゝあるの事實及び至大の速力を以て進歩し來りし事實の一汎を推知することを得べし且つ古今名門貴族有智有德の人の基督教を信奉せる

もの甚多し即ち改革者にはマーチンルーテルツロメノックス及びクロムエルあり天文學者にはケプロル、コポルニコスあり詩人にはミルトン、セーキスピーヤあり哲學者にはスピノザ、ベーコン、ライプニツロック、デカート、カント等あり政治家には英國のジョンブライト、リチャードコブデン現大宰相グラッドストン獨國のビスマーク米國のワシントン、リンコルン、ガーフヒルト及び前大統領ハリソン現今大統領クリーブランド等あり其他米國發見者コロンブス發明者ワット植物學者グレー地質學者デーナ等皆基督教を信奉せーものならざるはなし其他基督教を信奉せずと雖上帝の存在を認めたるものを言へは希臘のソクラチス、アリストーツルの如き支那の孔丘孟軻の如き亞拉比亞のマホメットの如き吾國に於ては有名なる神道者國學者なる本居宣長平田篤胤の如き儒者太田元貞室直清の如き皆然らざるはなし

果して然らば前ふも言へる如く古今に通し萬國に亘り有智有德の人々など多數の人の信ずるてふ事柄は論理上一の信據すべき條件なるが故に右に說明せる如く宗教の事實は世に普くして古今に通し萬國に亘り有智有德の人々も多く多數の人々が神の

存在を信ずる以上は是れ論理上神の存在を証する一の信據すべき條件ならざるべからず

斯く吾人は歷史上に於ても世界の文明の次第に進歩する事實を認め又善惡應報の事實を認め及宗教信神の事實の普きことを認むると同時に此は決して偶然にあらざるべきを信ずるが故に吾人は此等の道理を以て天父上帝の存在を確むるものなりとす

偖て予は今神の存在を信ずる諸般の神學及哲學的理論及証明を論ずるに當り九ヶ條の項目を揚げて一々之を論陳し終れり

讀者若し幸に熱心を以て眞理を追求し以上の論旨を反覆熟慮せば必ず聖書に敎示せる如き又神學者スミス氏の解明を與へ〻如き天父上帝の正しく存在し給ふことを認め其信仰は全く道理に合へるものにして萬人が朦昧として直覺する所の神の觀念是に至て始て充實し其の信仰も亦是に至て確實することを發見すべし

第三章　基督教の根據　(其二)

人は不完全にして罪過多きものなるを認むること

夫れ人を知るは難きことなり己を知るも亦難きことなり人を知るものは己も知るべく己を知るものは人も知るべし蓋は人品の高下人物の如何を批判するの明其人に備はるときは則ち人をも知るべく又己をも知ることを得べければなり

而て基督教の聖經は神の默示によりて成れるものにして人に道德上の知識及知慧を與へ人の心の眼を開き人を知り己を知るの明を與ふるものなり吾人聖經の鏡に對し天の光を得て自己を映し見るよ洵に不完全にして罪過多きことを知りぬ然れども不完全にして罪過多きなり故に神救主を下し天啓の宗教を付與して以て萬民を救はんとし給ふなりと今其二三を引証せば即左の如し

然らば如何ぞ耶われら勝れるか決てなし蓋われら既にユダヤ人もギリシヤ人も皆罪の下に在ることを證せり錄して義人なし一人も有なしとあるが如し明達者なく神を求る者なしみな曲りて全く邪となれり善を作ものなし一人も有なしその喉は破れし墓のごとし其舌は詭詐をなし其唇には蝮の毒を藏てりその口は詛と苦にて滿ちその足は血を流さんか爲に疾し殘害と苦難は其途に遺れり彼等は平康なる道を知ずその目前に神を畏るの懼あることなしとあれ律法の言ふところは其下にある者に示すと我儕は知ることは各人の口塞り又世の人てぞりて神の前に罪あるものと定らん爲なり是故に律法の行に由て神の前に義とせらるゝもの一人だに有ことなし蓋律法に由りて罪は知らるゝ也○今律法の外に神の人を義とし給ふことは顯れて律法と預言者は其の證をなせり即ちイエス、キリストを信ずるに由て其義を神は凡の信者よ賜ふて區別なしうは人皆既に罪を犯せば神より榮を受るに足らず只キリストイエスの贖に賴て神の恩をうけ功なくして義とせらるゝ也(羅三〇九、二十四)

夫爾曹はもと惡行を行ふよ因て神に遠かり心にて其敵となれる者なりしが神今キリストの肉の身體をもて其死により爾曹をして己と和がせ潔く玷なく咎なくして己の前に立しめんとす(西二〇廿一、二)

是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし(太五〇四十八)

尙進て聖經の敎示する所に基き人の組織、人心の本性、人間の位置、人生の目的、人間

の義務及人類普通の現狀等を略論して以て人は皆神の前に在ては不完全にして罪過多きものなるが故に天啓の宗教と基督の恩惠に頼らざるべからざることを論明せんと欲す

第一　人の組織

人は肉体と心靈とに因て組織せられたるものなり肉体は物質及物力によりて成り心靈は無形靈妙の体なり肉体は塵より出て、塵に歸る暫時のもの心靈は本是れ神の像に象りて造られたるもの高妙の質永生を得べきものなり即ち聖經に曰く

エホバ神土の塵を以て人を造り生氣を其鼻に噓入たまへり人即生靈となりぬ（創二〇七）

神其像の如くに人を創造たまへり即神の像の如くに之を創造之を男女に創造たまへり（創一〇廿七）

イエス大聲に呼り曰けるは父よ我靈を爾の手に託く此くいひて氣絶ゆ（路廿三〇四十六）

我羊は我聲を聽くわれは彼等を識るかれら我に從ひわれ彼等に永生を賜ふ彼等いつまでも亡ひず亦これを我手より奪ふ者なし（約十〇廿七、八）

然るに世に唯物論者なるものあり靈の存在者あることを承認せず物質と物力の作用を以て萬事物を説明し去らんと試む彼等曰く人の肉体中別に心靈又は靈魂とて靈妙の存在者ありて存するふ非ず彼の心靈の作用は皆是れ腦の物質及ひ熱、電氣、磁氣等物力の作用に外ならざるなり何ぞ物質と物力の作用の外に靈妙の存在者あらんや宇宙ふ神存在せざるなり人に靈魂なきなり又何ぞ死後未來世に於て人靈の活ることあらんやと

然れども是れ實ふ思なざるの論のみ臆斷の甚きもの、み固より近世學術の非常なる進歩は殆と從來の思想に一變化を與ふる程なりと雖唯物論は決して悉く宇宙萬有の現象及人心の作用を説明し得るものにあらず彼の神の存在及心靈の存在を認むる二元論と雖勿論多少の困難なきにはあらねど其唯物論に比べて困難の少きに若かざるなり況んや唯物的傾向が社會人心ふ跋扈するときは遂に人倫を破り又社會の德義を

滅するものあるに於ておや論者は人の良心の作用も德義の念も理性も將た又自我の觀念も愛情も皆單に腦の物質物力の作用なりと言ふか彼の他人の物品を盜窃するも姦淫するも親を殺し君を弑するも又皆其人の腦の物質及物力の作用なりと言ふか然らば忠孝操節の美行も博愛犧牲の偉業も左程に稱嘆すべき價値あらざるにあらずや他人の厚誼親愛も別段感泣すべき程のものにあらざるにあらずや不法の徒を罰し不義を惡し卑劣の心情を有するものを斥くるも皆無理なる譯にはあらざる乎慘酷なる譯にはあらざる乎何となれば人の善を爲すも惡を爲すも善意も惡意も皆彼等の腦の物質及物力の作用の然らしむる所なればなり論者或は曰はん然り人の善惡の意想行爲悉く腦の物質及物力の作用なりと雖人は各々其の腦の物質及物力の作用を支配する所の自主なるが故に當然其の責任を負擔すべきものなりと然りと雖論者の主張する唯物論より言ふときは其の腦の物質及物力の作用を支配する所の自主も尙依然として物質及物力の作用の外ならざるべければ到底善を爲すも惡を爲すも悉く皆腦の物質及物力の作用なるに非ずや斯の如くにして唯物論は人の品位を卑下し道德の觀

念を害傷するものなり

只に是れのみならず唯物論を且つ斷して彼の靈妙なる心意の作用を說明し得るものにあらず固より心理學生理學解剖學物理學及化學等の結果によりて得たる心身相關の密着なる事實及び感覺知覺等の中樞は腦髓なることは何人も之を否まざるべしと雖若し夫れ熱光及化合力等變化して感覺思想及感情となると言ふヒューム氏ミル氏及ハーバート、スペンサー氏の唯物的心理說の如きみ至ては是れ一の學術上の假定のみ吾人若し一歩を越へて然らば如何にして熱、光、及化合力が感覺となるか如何にして思想となるか如何にして感情となるかと尋ねなば彼等は最早答解すること能はざるなり

且つや記憶力の作用の如き到底唯物論の說明し得る所にあらず唯物論者曰く吾人が過去の事物を記憶し得るは感覺知覺せる所のもの印象となつて腦中に殘留するが故なりと然りと雖吾人は此論に承服することを得ず何となれば生理學者は吾人に示して言ふ吾人の肉体を組織せる物質は次第に老朽用を爲さゝるが故に血液循還して此

が營養をなし新陳代謝止むことなく凡そ七年間にして一新すと果して然らば腦中の物質も亦次第に新陳代謝せん腦中の物質次第に新陳代謝せんか過去の印象は漸次滅盡し去るが故に吾人は七年前の事物は絶て記憶し得ざるべきなり然るに事實は之に反して吾人は十年前の事物も五十年前の事物も自由に瞬間に想起し得らるゝなり唯物論者如何に之を解説する乎又其作用は如何に神速敏妙なるかを見よ吾人今思想を感起せば忽にして東都に遊び浪華に歩し西都に往き又忽ち美峯に登り忽ち琶水に浮ぶなり唯物論者よ腦の物質は果して如何にして其等過去の事物を記憶し得るか又如何ふして斯く神速に想起し得る乎轉移し得る乎唯物論者い此に至て答解なかるべきなり如何なる唯物論者と雖全く心靈は存在を否定し得るものはあらず其之をなすは臆斷のみ妄斷のみ

然りと雖吾人心靈の存在を承認したりとて之を以て凡は難問を解説し得べしと云ふに非ず又心肉相關は理法を悉く理解し得たりと云ふに非ず只斯く信ずるを以て解説し易く信じ易く滿足し得べしとなすはみ有限なる人智は全く理解し得ざるは豈獨り

人心は事はみならんや

是故に吾人は聖經に教示せし如く人は塵より造られて塵に歸する肉体及ひ神の像に象りて造られたる高妙の質永生を得べき心靈とに因りて組織せられたることを信ず

第三　人心の本性

人の本性は善なりや惡なりや是れ古來東洋學者の心思を煩はしたる一疑問なり荀子は性は惡なりと斷じ孟軻は善なりと主張し楊子は善惡混ずと言ひき孰か正孰か邪人の本性果して全く惡なるか何故に忠孝貞節の人大人君子存するや人の本性果して全く善なるか然らば何が故に不義不正の徒姦邪佞惡の輩多きや然らば則ち善惡混ずてう楊子の説は眞を得たるか然り若し夫れ人間社會の現狀と一箇人々の多數の實際より言ふときは彼の楊子の説こそ當を得たるものなるべけれ

然りと雖退て更に熟考するときは吾人は性は善なりてふ孟軻の説の眞なるを信じ之に左袒するものなり何を以て之を言ふ曰く金銀珠玉を以て造れる寶器あり久しく塵埃の中に沒して光澤を失しぬ或人之を見て以て凡て金銀珠玉に光澤なしと言ふ果し

て眞乎秀眞の菊花あり苗を得て吾れ之を庭園に植ゆ培養の法吾れ之れを誤り期よ及んで燦たり婉たるの美花なし吾れ之を見て此菊よ美花なしと云ふ夫れ眞乎故に人の善ならざるは本性の善ならざるよ非ず磨かざるが爲のみ損害せるが爲のみ

吾人謹で聖經を案ずるに上帝の啓示せる所又如此のみ彼の創世記に人は神の像に象りて造られたりと言が如き又は人祖が罪を犯して樂園より追放せられしと云奇談の如き全く此意を示せるに外ならず且や聖經を通觀するに人の本性の極て高貴なると罪惡の爲に其本性を失損して人類現狀の頗る憐なることを示す至て痛切なり是れ神が天啓の宗教と基督の恩化贖罪とにより人類を救拯して再本性の善に立還らしめ十分に本性の美を發揮せしめんとする所以にして基督教の救とは即是を言ふなり

米國の神學博士リチャード、エス、ストッル氏曰く使徒パウロの思考せられし如く人類は今や道德上零落せりと雖元來の本性は高大なるが故に主は其の聖靈によりて生命（ライフ）の新元素を接木せんとて來り給へるなりと（基督教天啓論九十七頁抄譯）

第三　人間の位置

神言給けるは我儕に象て非儕の像の如くに我儕人を造り之に海の魚と天空の鳥と家畜と全地と地に個ふ所の諸の昆蟲を治しめんと神其像の如くに人を創造たまへり即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造たまへり神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生よ繁殖よ地に滿盈よ之を服從せよ又海の魚と天空の鳥と地よ動く所の諸の生物を治せよ（創一〇廿六、廿八）

汝心を盡し精神を尽し力を尽して汝の神エホバを愛すべし（申六〇五）

汝の神エホバを畏れてこれに事ふべし（申六〇十三）

惡魔また彼を最高き山に携へゆき世界の諸國とその榮華とを見せて爾もし俯伏して我を拜せば此等を悉爾に與ふべしとイエス彼に曰けるはサタンに退け主たる爾の神を拜し唯之にのみ事ふべしと錄されたり（太四〇九、十）

吾人聖經の敎示せる所に從て宇宙間に於る人間の位置如何を考ふるに人は萬物の靈長なりと雖宇宙の至上者よはあらず人は萬有の上に立ち神の膝下に伏すべきものなり宇宙間の至上者萬有の主宰は靈にして且つ聖なる全智全能の神にして神は自然の

法則と道德上の法則とを以て萬有及人類を支配し給へば人類は悉皆神の法則に服從すべきものなり

神は人を受造物の首領となし山岳、河海、動、植、礦物、光、熱、電氣、磁氣、風力等は苟も人智人力の征服し得る限り神の聖旨に合する限神の法則に從て是を利用することを許し給へり故に人は寔に此等萬有の主人たるなり

然りと雖人は有限にして神は無限なり神無限の智能を以て萬有と人を支配し給へば人如何でか神に抗敵して神の法則を變ずることを得んや諸君試に流水の邊に立ち水に命して逆流せしめよ水は斷して諸君に從はざるなり又試に刃に伏して傷かざらんことを勉め見よ斷して能はさるなり何となれば水の身よ就き刃の肉体を傷るは是れ神が萬有を支配し給ふ自然の法則にして人は秋毫も此の自然の法則を變ずること能はざるものなればなり諸君又試に怨恨嫉妬猜忌復讐傲慢姦譎頑固等の卑劣なる心情を有するものが社會に在て高貴なる品位と幸福とを得べきかを考へ見よ又は詐欺百出放恣暴横の人にして而も尚能く衆人の信愛を受るを得べきか否々斷して得べから

ざるなり何となれば斯かる神の道德上の法則を破れる不道德の罪人い決して神の祝福を受くべきものよあらざればなり斯の如くにして人は神を知るも知らざるも全く神に服從して神は自然の法則及道德上の法則を遵奉せざる可らざるものなり

且つ聖經ふ曰く「二羽の雀は一錢にて售るに非ずや然るに爾曹の父の許なくば其一羽も地に隕ることあらじ」（太十〇廿九）又曰く「われら今日明日某は邑にゆき彼處に一年とゞまり寶買して利を得んといふ者よなんぢら明日の事を知す爾曹の生命は何ぞ暫く現れて遂に消る霧なり爾曹の言ことに易て如此いへ主もし許し給はゞ我儕活で或は此事あるひは彼事を行んと」（雅四〇十四、五）然り寔に死生命あり富貴は天にあり神其聖旨によりて吾人を困難の中に投じ給ふ時吾人如何でか之れを免れ得んや

神吾人の靈魂を取り給ふ時は吾人は最早一日一刻も此地上に止る能はざるなり事を謀るは人にあり事を成すは天にあり天に從ひ天命に安すべきものなり

是故に宇宙間に於る人間の位置は他の受造物に對しては其の首長なれども造物主なる神に對しては其僕にして神に事へ神の聖旨に從ひ神の法則を遵奉すべきものなり

第四　人生の目的

若夫れ洋々たる萬里の波濤を越へ遠く外國に航海せんとする旅客に取ては先つ最も安全にして且つ眞正なる航路を撰ぶを以て最第一の急務とするとせば此の風波險惡なる人生の渡海を試みんとするの前に當り若ば後にても最も安全にして且つ眞正なる人生の目的を撰決するは亦是れ人間最大一の急務にはあらざるか且つや吾人が此地球を經過するは是れ唯一回のみ一朝忽焉として永逝せば人誰か再び此地球に歸來し得るものぞ而て日月い長へに此地球を照し山い長へに高く水は長へに流るれども人の此地上に生存するは眞に瞬間のみ人瞬間の生命を以て唯一回の通過をなす吾人にして若し人生の目的を誤ることあらんか異日如何に悔恨すとも夫れ人豈再び青年たるを得んや豈又墳墓より歸るを得んや然ば則ち眞正なる人生の目的は何ぞや

紀元前二百六十年の頃ギリシヤに一理學者ありエピクラスと云ふ彼れ宇宙間何處に か神の存在し給ふことを信せしかども而も神は世界萬有の造物者ゴはあらで世界と人類には全く關係なきものと思へり彼れ又未來を信せず是に於てか彼は唯現世に於て

快樂を得るを以て人生の目的とはなしぬ彼徒則ち曰く「飲めよ食へよ我儕は明日死する者なれはなり」と是れ豈獨りエピクラスの徒のみならんや正に是れ古今人類一部の生活の目的を代表せる者にこそありけれ讀者い是を以て果して眞正なる人生の目的となすか見よ此の主義は不幸にも古代の羅馬人によりて尤も熱心に實行せられしが其結果は如何と問ふに驕奢淫逸敗德頽風遂に亡國の主因とはなりぬ夫れ人の靈性は無窮にして國家人生の一事一行悉く相影響して遠く未來に追ふ者なり而て彼徒の思想の淺近なるや妄に希望を現世に限る何ぞ其れ誤れるの甚きぞや況んや現世に於て快樂を得るを以て目的となし己が私心私慾を滿たして事止むとなすに至ては誤謬も又此に至て極まれりと云ふべし何ぞ其の志望の卑劣なるぞや斯の如くにして人禽獸とならず國灰燼とならすんば蓋し幸なり是豈眞正なる人生の目的ならんや

又佛書に釋迦の出家せる由來を傳へて曰く「一日悉陀太子苑囿に到らんと欲して車を走せて東門を出て路に一老衰の人を見る乃はち御人に問ふて云く是は何人ぞや身短少にして躬く血肉乾涸し頭髮白く其齒落つ只杖に依て僅に歩むのみ是れ何人ぞや

是唯其一家ふ限りて然るや或は又萬生の免れ難き命數なるや御八答て曰く彼人は老衰せるなり是即ち萬生必死の常期のみ太子曰く吁嗟生類何ぞ無知なるや其小壯の奚に心を奪はれて之に誇る是豈昧劣愚戇に至ならずや御者速に車を反せ老衰を免れ難き此身を以て我豈快樂を追求むべけんやと太子復一日遊園に到らんとして西門を出て熱に苦む病人に遭ふ太子再び御者に問ふて其狀を知り歎じて曰く嗚呼身体の强健は唯夢ぬ戯のみ此の畏るべき形狀を見るもの誰か歡樂を思はんやと其後太子復遊園に到らんとし路にて死骸の布に覆はれて運棺車の上にあり親戚朋友ぬ其傍に哭泣するを見太息して曰く痛ィ哉此世や人唯暫く住まるのみ若し老病死の苦なからんには其樂如何ぞや我其れ還らん哉我常に遊園解脫を得るぬ道を求むべきなりと其后太子北門を出て遊園に到らんとし一の乞食者を見る即ち出家行者なり其人逸樂を棄て名利を離れ嗜慾を去り修行に凝りて刻薄の生を度る是は己に克たんと務むるなり太子曰く是れ即ち可なり我將に世を遯れて出家行者の生を度らん然て始て福德望むべく不老不死希ふべきなりと是に於て其車を回らして城に反る是より後太子更に歡樂を

事とせず頻に世を棄てんの心を顯せりと(高橋吾良氏著佛教新解九十頁)此事は古き佛書には見へざれば後人の假作なるべしと雖も然とも此が佛者の志意を適當に現はすものなりとは是れ一般學者の許す所なり而て斯の如く逸樂を棄て名利を離れ嗜慾を去り無慾無心寂滅涅槃に入るは果して是れ眞正なる人生の目的なる乎固より彼の大覺世尊が言へる如く若し夫れ人能く智慧の刀劍を以て愛着を斷除し諸慾悉く永く盡て餘り无く其人勝義諦に入て寂滅の理を証したらんには彼の滔々たる世間の凡夫が煩惱の鬼ふ責められ貪瞋痴の炎宅に住して六道に輪廻するものに比して優ることを言ふ曰く未た天地人世の眞奥に達せざればなり活氣なければなり高遠なる志望なければなり世に處する眞面目ならざるの結果を生ずればなり消極的なればなり何ぞ以て眞正なる人生の目的たるべけんや文學博士井上哲次郎氏嘗て莊子の學を就て論したる演說の筆記中ふ曰く「ヨーロッパの學者は此世界は吾々の世界である決して夢でないと思ひさうして種々なる怪誕なる妄信などを打破て確な智識を開ひたりれ

はヨーロッパの學者の手柄で御座ります印度は支那よりも一層宗教が盛であつたと言ても差支ない乍併印度の學問は矢張莊子の如く世界を夢の如く思惟したゝ此世界は假のものと見做して夢の世界の中に住て居ると思つた其夢の世界に住て居る中に己の國が取られて仕舞ふ云ふいふ事になつてもならぬ」と是れ豈獨り老莊佛者の流を汲む徒輩頭上の針なるのみならんや且つ夫れ世上幾多の靜隱退守徒に己を逸息するを以て足れりとなし更に同胞と國家と眞理の爲に心力を致すなきものは皆是れ一に其門徒のみ豈省ざるべけんや

次に予輩は今儒教の此の問題に關する思想を檢せん儒教は元來半ば政治を說き半ば道德を論ずるものにて純粹なる哲學的及宗教的の思想ふ乏しきは今更論する迄もなし故に從て其人生の目的に關する思想も又自ら單純なる政治的道德的のものたるや明なり曰臣となつては忠なれ子となつては孝なれ夫に貞に兄弟友愛に師を尊び朋友信あれと又曰仁義禮智信之を其身に體せよと進んで其の所謂聖賢の心胸ふ潛む所の目的志望を窺ひ來れは曰く位を得て我君を堯舜ふなし善政善教を布て以て民を化し

德澤を施さん若し又不遇にして用らるゝを得ずば退て文章を作爲するか又は天下の英才を得て之を教育せん道を樂み天命に安んと若し一言を以て之を約せば即ち人生の目的は單に道德を守るにありとなすが如し是れ眞に可なり何ぞ單純にして實際的なるや彼の或は現世の快樂を目的となすもの及び或は消極的に己が慾惡を滅して涅槃の理を証し己が福樂を全ふせんとするものに比して勝ること數等なりと云ふへし然ども吾人は未た此を以ても尙眞正なる人生の目的を得たるものとなすを得す乞ふ少しく之を說かん

夫れ儒教の教示する所至て單純なり然ども人は爾かく容易に道德を實行し得るものにあらず又單に人は道德を實行するが爲に此の地上に生れ出たるものなりとの思考を持しては人事か滿足して一生を送ることを得んや見よ見よ人間社會の實相を見よ如何ふ優勝劣敗生存競爭の甚きぞや又見よ如何ふ人心の反覆し易く人情の偸惡なるかを昔者杜甫吟して曰く

翻レ手作雲覆レ手雨　紛紛輕薄何須レ數　君不レ見管鮑貧時交　此道今人棄如レ土

又吻徂徠の和歌を聞け

世の中を通りくらべて今ぞ知る阿波の鳴戸は波風もなし

是豈獨り唐代の人のみならんや又徂徠同世のことのみならんや世は濁り人の惡きも多少の相違ころあれ萬世に亘り萬邦に通して蓋し同一事のみ故に古より志士仁人忠臣孝子貞婦忠僕等の或は社會を改良し同胞の福祉を圖らんが爲に或は眞理を究め又は之を證守せんがために或は國步艱難の際に生れて愛國の情已み難く國家を救濟せんが爲に或は忠孝貞節信義の爲に如何に抗河流離し又い心を碎き體を疲らし涙と汗と血を流しさるかを見よ讀者よ乞ふ今爾の思想を飛ばして直ち萬邦歴史の流に溯り其實例を想起し來れ彼の舜や禹や屈原や箕子や伯夷叔齊や孔孟顏回等の徒及び古德關羽張飛諸葛孔明より明の方孝儒等の事共を想見せよ又我邦にては彼の海神に祈て東海に投じたる橘媛や筑紫に左遷されし菅廉や菅丞や熊野に死を祈りし重盛や淀河よ弟正季と偶刺して死したる正成や四條畷に歿と消へにし正行や吉野の奥に花にはあらで良人を尋ねし靜を見よ又は維新前後の志士を見よ去て眼光を泰山の西に注が

ん首に齊武の名士を想へ又は獄中に毒を仰ぎしソクラテス及びカルバリ山頭十字架上に血を流せし救主耶蘇及其門徒を見よジョン、ホッスを見よルーテルを見よウィルバーフオース、ジョン、ハワードを見よ若ばソシントン、リンコルン等を見よ嗟吁如何に彼等の或者は不幸不遇なりしよな又彼等の或者は如何に楠風浴雨具に千辛萬苦を嘗め屢々死生の境に出入せしよな此を思ひ彼を念へば濁れる世惡き人の中に在て忠孝節義を實行し志士仁人たらんは極て容易のことにあらず夫れ唯決て容易のことに非ず是に於てか天賦の良心を絶へず人に善を勸むるにも拘らず雄大の希望は時に勃々として人を鼓舞するあるにも拘らず人は多く反動の風に捲かれ失望の波に呑まるゝぞかし老聃莊周佛者の說蓋し此處より來る在二衰世一懲二末學拘腐之弊一道也迂、治官煩擾之勞レ下也濫、人臣義忠之過レ害也慘二而見二退虐守默之爲ヒ愈 と遂に世を棄て人を棄て望を絶ち無爲虛靜獨り自ら餘生を樂まんとす此失望に摯はれ此の反動に流さる眞に故なきに非ず果て然らば唯單に人生の目的は道德を實行するありと云ふ未だ以て眞正なるものとなし難し人何ぞ以て險を越へ道を行ふを得んや

只に是のみならず凡て人には理性あり物に觸れ事に當て挑發せらる漠々たる天地是れ何物ぞ星の閃き水の流るゝ是れ何が爲にして又何故ぞ陽春還り來れば園林に花咲き秋風起れば木葉散落す何の力に因て然るか何か爲に然るか噫々不思議なるゝ天地なりけり而して人此の不思議なる天地間に須臾の生を寄す人一度生れては時に病魔に惱さるゝを免れず又老の自然に來るを免れず昔者秦の始皇帝は不老不死の藥を求めしかどおどか得べけん遂に得さりしと云ふ假令身は九重の雲深く金殿玉樓に住み又綾羅錦繡に纏はれ卓上常に山海の佳味を絶たずとも而も茅屋破窓の人と諸共に遂に老ゆる此身を如何にせん彼の一時歐洲の天地を蹂躪したる希世の英傑ナポレオンも不正不義爲さゝる所なく以て富數百万を重ね～ジエー、グールドも涙を以てパンスチヌを洗ひ血を以て世界を潔めんとせし神の子も賢愚老少貧富貴賤の差別なく吾も彼も果は同一死北邙山上一片の煙と化しぬるになむゝ人は何の爲に此地球上に出現せしものぞ何を目的とーて日夜心を碎き身を勞すべきか死は果して萬事の終極あるか善人の頭上に却て災禍不幸多く惡人の足下に時に富榮集る此理如何彼處には

英俊の青年雄大の志望を懷きながら不幸中途にして斃るゝあり此處には無用の震姦邪の徒安に白髮を戴くあり是れいかなればか而て儒教は凡て此等の疑問に解釋を與へざれば何を以て人の理性を滿足せしむるを得んや

既に此の如く道德は實際に於て甚だ實行し難きのみならず尙且つ何が故に人生の目的は其の實行し難き道德を實行するにあるかの理を示さず只平に道德を實行せよ忠孝仁義の人となれと云ふ是れ豈眞正なる人生の目的なるべけんや人何を以て之に因て滿足することを得んやされば乞ふ今遡て聖經の示す所を見ん

遂にイエス衆人を歸して室に入れり其弟子きたりて曰けるは畑の稗子の譬を我儕に解たまへ之に答て云けるは美種を播者は人の子なり畑はこの世界なり美種は是れ天國の諸子なり稗子は惡魔の子類なり之をまく敵は惡魔なり收穫は世の末なり刈者は天の使等なり稗子の斂て火に焚るゝ如く此世の末に於ても此の如くなるべし人の子其の使者を遣はして其國の中より凡て躓礙となるものまた惡をなす人を斂て之を爐の火に投入るべし其處にて哀哭切齒すること有ん此とき義人は其父の

國に於て日の如く輝かん耳ありて聽ゆる者は聽くべし（太十三〇卅六、四十三）

爾曹い互に人の榮を受て神より出る榮を求さる者なるに何て能く信することを得んや（約五〇四十四）

蓋われら必ず皆キリストの臺前に出で善にもあれ惡にもあれ各身に居りて爲し所のことに循ひ其報を受くべき者なればなり（哥後五〇十）

忍て試誘を受る者は福なり蓋こゝろみを經て善とせらるゝ時は生命の冕を受べければなり（雅一〇十二）

われ既に善戰をたゝかひ既に馳るべき途程を盡し既に信仰の道を守れり今より後義の冕わが爲に備あり主すなはち正き審判をなす者ろの日に至りて之を我に予ふ獨われに予ふるのみならず凡て彼の顯著を慕ふ者にも予ふべし（提後四〇七、八）

惟ふに讀者の中には恐ば此等の言詞の意義に通解し難き人もやあらん請ふ之を累說せん

夫れ天地間に公義仁愛の神存在するあり神は唯一絕對の靈にして永遠の存在者あり

彼れ永遠ゑ亘りて萬の國を人とを治め又之を審判んとす人は神の墨冒によりて生を此地球上に稟け「彼に賴て生きたり動きたり存ることを得るなり」故に人は皆神が此地球上に生存するを許し給ふ間神の自然の法則及道德上の法則に從ひ人の凡の義務を盡し全心全力を以て神を愛し人を愛すべきものなり而て人の靈性は固と不滅永生を得べきものにして決して死は萬事の終極にあらず神の聖冒に因て定め給ひし世の末のならん其時人は善にもあれ惡にもあれ皆各其身に居りて爲しゝ事の正しき報酬を神より受くべきものなれば故に人は假令現世に於て千萬無量の辛苦艱難に遭遇し百般の試誘に逢着するとも之を忍耐し之と戰ひ安に不完全なる人間の毀譽褒貶に頓着せず完全なる神より榮を受るを以て人生の目的となし滿足となせよと云ふにあり

讀者よ是れ豈に眞正なる人生の目的ならざる乎吾人は是に因て始て人は何處より此世に來り何處ゑ往くべきものにして何の爲めに生活すべきものなるかと云へる疑問の解釋を得たるゝあらざるか又漠々たる天地夫れ何物ぞと云へる問題の明答を得且つ眞正にして滿足なる人生の目的を發見したるにあらざるか斯の如くはしこ幽谷の

芳閑絶て人に知らるゝことなきものも以て滿足すべく泥中の清蓮空しく兒童の爲に汚損せらるゝものも亦以て滿足すべきなり

嗟彼の僅に飲食遊樂の間に樂境を求め只現世の快樂を得るを以て人生の目的となす者よ乞ふ來て此の神聖なる聖殿に入れ又は世の無定を觀じ人生の鯨波に懼れ氣を沮し望を失ひ退居守默せんと欲するもの乃至更に積極的の志望なければ宛然枯木死灰の如く冷然として涙なく血なきものよ乞ふ此の生命の泉よ近き之を掬して爾の生氣を復活せしめよ若夫れ又は忠孝操節の人となり志士仁人の列に加はり道德を實行せんとするも天地人生の解釋に苦しみつゝ躊躇するものあらんに乞ふ來て神より此の疑問を解の鍵を得よ又爾をして嶮難を越へて進むを得せしむる天の火を得よ眞正なる人生の目的い完全なる神より榮を受るにあり

第五　人間の義務

人の思想進歩するや義務責任の觀念生ず而て此の觀念は其智識を增し道德心の高まるに從ひ愈深く愈强くなるものなり然ども人の義務責任は各人の地位と關係に依て

異なり極て複雜なるものなれば今此に摘示せんとするは惟單に一般人間の義務奈何にありとす

抑も聖經に敎示せられたる人間の義務果して如何ぞや

一人の敎法師イエスを試みん爲に問ふて曰けるは師よ律法の中何の誡か大なるイエス答けるは爾心を盡し精神を盡し主なる爾の神を愛すべしこれ第一にして大なる誡なり第二も亦こゝに同じ己の如く爾の隣を愛すべし（太廿二〇卅五、卅九）

此に由て之を觀れば人間重要の義務二、曰く全心全力を盡して主なる神を愛す曰く己の如く他人を愛す是なり想ふ讀者は此が如何に人間普通の思想と同からず又他宗敎の主旨と甚だ趣を異にするかを見ん乞ふ暫く之を說かん

甲　全心全力を盡して主なる神を愛すべし

人若し眼を幽冥無限の境に馳せず望を超理の鄉に屬せず嘗て天地の何物たるを思はず人の運命の歸着する所を考へず因て以て宇宙に神の存在せるを確認せざるよ於ては何ぞ神を愛すべき義務あるを思はんや然ども基督敎は始より聖なる神の存在を信

認まるものなり而て神は天地萬有の創造者維持者主宰者たにして且つ人類の天父審判者なることは前述の如し是に於てか全心全力を�で此神を愛するを以て人間最大の義務となす固より其所なりと謂ふべし

神を愛するとは如何曰く神の憎み給ふ所を憎み悅び給ふ所を悅び聖なる神の聖旨に合ひ神の歡喜し給ふ業を成す是れなり神の憎み給ふ所は何ぞや曰諸の罪惡神の悅び給ふ所を何ぞや曰く眞、美、善、聖、義、愛等なり(詳細は聖經に考據し基督を見るべし何となれば神は聖經及基督に頼りて自己を顯現し給ふたればなり)

乙 己の如く他人を愛すべし

夫れ神は人類の天父にして一切の人類は皆神の子女なり父母は凡の兒子を愛する如く神は凡の人類を愛し給ふ故に人は己を愛する如く凡て他人を愛すべき義務を有す然ども斯く言へばとて決て基督教は彼の國家的政治的社交的及家族的の區別階級を全然破滅するものゝ如は非す又全然如何なる場合にも凡ての人に平等無差別の愛を以て對せよと云ふにも非ず此事は明に聖經に見ゆ今其根源大要の所を示すのみ

斯くて基督教は往く處に於て凡の人に教示し且つ請求して曰く神は一切人類の天父なり人は皆神の子供ふして吾人の同胞兄弟姉妹なり豈神の國に於ては貴賤貧富學無學老少男女の差別あらんや故に己を愛するが如くに凡ての人に爾の愛を及ぼせとされば基督教は到る所に於て其の神聖なる天火を放ちつゝ直ふ人の偏陋狹隘なる思想感情を燒盡し進で此の高大なる觀念に到達せしめ博厚なる愛を實行せしむ

第六 人類普通の現狀

今夫れ基督教が教示する所の人の組織人心の本性人間の位置人生の目的及人間の義務前述の如く然ば則ち人皆能く其人心の本性を汚損することなく十分に其美を發揮し居るか且つ居るべき人間の位置に居り人生の目的を誤ることなく人間の義務を盡し居るか其靈性は果て能く不窮永遠の生命を得べきか語を替て之を言ば則ち人皆能く神の御前に於て完全にして罪過なきを得るか予は今又敢て多を言ず且つ乞ふ暫く聖經の言ふ所を聞け

諸の不義、惡慝、貪婪、暴恨を充すものまた妬忌、凶殺、爭鬪、詭譎、刻薄を盈す者又

讒害、毀謗をなし神を怨ひ者、狎侮、傲慢、矜夸、譎詐、父母に不孝、頑梗、背約、不情、不慈なる者凡て此等を行ふ者は死罪に當るべき神の判定を知てなほ自ら行ふのみならず亦これを行ふ者をも喜べり（羅一〇二十九、三十二）

ろれ肉の行は顯著なり即ち姦淫、汚穢、好色、偶像に事ること巫術、仇恨、爭鬪、妬忌、忿爭、結黨、異端、娼嫉、凶殺、酔酒、放蕩などの如し此等の事につき我嘗て爾曹に斯る事をなす者は神國を嗣べからずと告し云々（加五〇十九、廿）

人能く果して此等の罪惡なきを得るか

假令われ諸の人の言および天使の言を語るとも若し愛なくば鳴銅や響鈸の如し假令われ預言するの能あり又すべての奥義と諸の學術に達し又山を移すわざなる諸の信仰ありと雖も若し愛なくは數るに足ぬものなり假令われ我すべての所有を施し又焚るゝ爲に我が身を予るとも若し愛なくば我に益なし愛は寛忍をなし又人の益を圖るなり愛は妬まず誇らず驕傲らず非禮を行はず己の利を求めず輕々しく怒らず人の惡を念はず不義を喜はず眞理を喜び凡ろ事包容おはよろ事信し凡ろ事望

み凡ろ事忍なり（哥前十三〇一、七）

主と我儕の爲に生を捐たゝへり是に由て愛といふ事を知たり我儕また兄弟の爲に捐べし（約一、三〇十六）

靈の結ふ所の果は仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、眞善、忠信、温柔、操節云々

人能く果して此の愛及ひ此等の諸德を全備し得しか

わが行ふ所の者は我も之を是とせず我が願ふ所のもの、我これを行ず我も惡む所のもの我これを爲すなり若しわれ願ざる所の者を行ふ時は律法を善とす然らば今より之を行ふものは我に非ず我に居る所の罪なり善なる者は我すなはち我肉に居らざるを知るろは願ふ所われに在とも善を行ふことを得ざればなりわれ願ふ所の善は之を行はず反て願ざる所の惡は之を行へり若われ願ざる所を行ふときは之を行ふ者は我に非ず我に居る所の罪なり是故に我善を行はんと欲ふときに惡の我にをる此一の法あるを覺ゆ蓋われ内なる人に就ては神の律法を樂めどもわが肢體より他の法ありて我心の法と戰ひ我を擒よして我が肢體の中にをる罪の法に從はする

を悟れり噫われ困苦人なる哉この死の體より我を救はん者は誰ぞや是われらの主イエスキリストなるが故に神に感謝す（羅七〇十五、廿四）

此は是れ使徒パウロの經驗なるが是豈危坐正念道德を慕ふ士の同く叫破する所の經驗に非るか誰か言ふ我れ完全にして罪過なしと切に乞ふ爾の心の眼を拭ひ爾の思念を靜にして再思せんことを

此に於てか聖經は最早全く其の裁判を終結せり而て刑の宣告をなして曰く

既にユダヤ人もギリシヤ人も皆罪の下に在ることを證せり錄〳〵て義人なし一人も有るなしとあるが如し（羅三〇九、十）

人皆既に罪を犯せば神より榮を受るに足らず只キリストイエスの贖に賴て神の恩をうけ功なくして義とせらるゝ也（羅三〇廿三、廿四）

不し知讀者は此の眞神啓示の裁判に服せざるや否

第七　其結果

漠たる天地其の何たるを知らず人生の旅路行路難を歎し不慮の災變人事の不加意なるに驚き憂愁不安暗黑の念よ夢はれつ心情の海一波濤恒に靜穩ならず思慮と素行と共に亂れて整はす脩らず高貴なる天賦の心靈は次第に其光輝を失損し其生氣を滅盡し去るなり斯くて一身脩らず一家齊はず空しく一生を徒過して碌々として墳墓に入らんとすゝ此の如き人早晩永き眠の夢醒めて神の御前に立たん時切齒して痛悔すとも其豈及ぶべけんや而て神を知らぬこと、罪惡の結果眞に然りとなす

況んや天地人生の秘奧を大悟し神人和合の意識を完成し志望高大に性情俊逸に心事潔白に其一生は以て歌ふべく以て頌すべく固と是れ一箇の大文章燦爛と〳〵て天地の間に懸かり其感化と事業は萬世に亘りて死せず滅せず湧て泉となり發して光となるが如きを得んや

痛哉萬生は暗夜の中に彷徨〳〵罪惡の巷に吟行せり誰かある此の萬生を其の暗夜の中罪惡の巷より救ひ出し以て完全無罪の境に攀ぢしむるものゞ天父豈此の憫むべき子供等を顧みざらんとする乎

英國の文豪トマス、カライル曰く人の此世界に生活するは是れ極て眞面目なるとな

り死する是豈詼諧ならんや人の一生は決して兒戯に非す詼諧に非るなりと

第四章　基督教の根據　（其三）

神の獨子萬民の救主イエスを信すること

今を距る大凡千九百年の昔時亞細亞洲の西端地中海濱猶太國に一偉人生る其名をイエスと云ふ彼れ一匹夫匠夫の家に産し僻遠卑陋の一村落に生長し嘗て高等なる教育を受けしことなく又屢々聖賢の師ふ接せしことありとも見るべき然るに彼れ年齒三十歳に達するや鶯鳥始て幽谷を辭し喬木に遷り一聲高く叫破せしが忽ち愕然として天下の耳目を聳動しぬ爾來裘葛を替ふる三回の間彼れ其弟子と偕に東奔西馳偏く國中を巡り或は山上に或は野邊に或は湖畔に或は宮殿、會堂の中に或は家室、宴席、路傍に於て諄々として絶大の眞理を説き孜々として絶世の偉業を成したり然ども暗は光に來らず僞善、迷愚、罪惡の世い遂に此偉人聖者を容るゝ能はず夫の國都エルサレムの北端往來繁き國道の邊傍ゴルゴタ丘上の悲劇は正に是れ天地も爲に震動し日月も爲め光を隱して以て深く哀悼の情を表せし此偉人の最后なりき然ども彼れ死して死

せず三日にして復活し後天に昇り神の右に坐し見へざるは靈体にて今も尚活き代々教會の首領となり以て世を潔め人を救ふて永遠に至るなり彼一度此地球上に現出して以來直に萬邦歴史の流水に特色を染出し人類の宗教道德の思想に一新生面を開けり而て今や地の極にまで彼の名は宣傳へられ萬國の人一齊に彼を仰き見るに至りぬ彼れ果して何人ぞや抑も普通の聖賢英雄なる乎若くば又眞に神の特旨を帶て來れる神の獨子萬民の救主なる乎

聖經は教示して曰く「ろれ神はろの生たまへる獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり此は凡て彼を信ずる者に亡ること無くして永生を受しめんが爲なり神の其子を世に遣し給へるは世の罪を定んとに非ず彼よ由て世を救んが爲なり」（約三〇十六、七）と

吾人は今此事を論せんとするに當り先つ演繹論理に從て神の獨子萬民の救主の顯現の必要を論し次に歸納論理に由てナザレのイエスは即神の獨子萬民の救主なりと論定せんと欲す

甲　神の獨子萬民の救主の顯現の必要

公義仁愛なる神の存在すると及び人は皆不完全にして罪過多く其が爲め憂愁、不安、暗黑、罪惡の中ふ沈淪し其情況の眞に憫むべきものあることは吾人既に之を前二章に於て論明せり夫れ果て神あり又人罪惡に惱むとせば神豈其獨子を降し之を萬民の救主となし以て人類救拯の方畧を設るなからんや其れ人は神より遙ふ劣るものなり然ども尙其子の心行善からざるか又は深く痛苦悲哀に沈むことあらんには必ずや父母は日夜之を念頭に懸けて片時も忘るゝ能はず正に寢食を廢して之が救護を勉むべけん況んや神は至善至愛なる天父なれば何を以て人が神より離れて罪惡の巷に徘徊るを見ながら尙且つ冷然として之を顧みざるが如きことあらんや若し夫れ天父之を顧ずば神は神にあるまじ義なるまじ又何を以て之を天父と曰ふを得んや吾人是に於てか神の獨子萬民の救主の顯現の必要を見る是れ其理由の一なり

去て人心の願望人類の需用より考ふるも復た神の獨子萬民の救主の顯現の必要を見る夫れ人心の奥底に潛伏せる願望は何ぞや名譽、權、威、榮、平安、幸福、及快樂等に

非るか唯夫れ人眞正なる名譽、權、威、榮、平安、幸福及快樂の何たるを知らず又此等に達するの眞路を知らず是に於てか迷惑、轉蹟五里霧中に彷徨〜不義不安の暗黑に陷るもの世皆滔々として然り果て然らば此不義不安暗黑の中より人類を救拯して眞正なる名譽、權、威、榮、平安、幸福及快樂の樂園に誘功〜感化し啓導するもの、現出するは是豈人心最大の願望需用にあらざらんや且つや人の中或は思想を天地人生の疑問に潛めて眞理の光を見んと望むもあり或は已か心性人物の鍛錬に思を凝らし完全高大なる人物の摸範を尋ねるもあり或は又人事の不如意なるに打驚き人心反覆の嶮に慄り安心立命の仙樂を求むるもあり此に由て是を觀れば人心は正に天理人道の秘奥を說き且つ自ら人類の摸範となり安心立命の源泉となるものを求むるものと謂ふべし余熟々人心の趨向と人間社會の實相を觀察し又之を自己の經驗に照らし尙に神の獨子萬民の救主の顯現の已むべからざるを見る是れ其理由の二なり

夫れ斯の如く之を神の方より考ふるも又之を人の方より考ふるも偖に神の獨子萬民の救主の顯現の必要を見る既に愛なる神存在し又人類は罪惡の巷に吟行するとせば

神は必ず其の獨子を降し萬民の救主を起し以て人類救拯の方畧を設ることなくんば
あらず

乙　イエスは即ち神の獨子萬民の救主なるを論ず

神の獨子萬民の救主の顯現の必要かること前述の如し因て吾人今萬邦の歴史を眺め誰れ其人あるかと尋ぬるに昔時ユダヤに生れしイエスは確に其人なるを信せざるを得ず地は廣く人は多しと雖未た絶倫卓美イエスの如きものあるを見ず吾人は彼の心奥より混々として湧出せし絶大の眞理及ひ驚くべき彼の品性、行爲、意識、確信、感化、事業等に就て思慮するの深きに從ひ愈々驚嘆崇尊の念を加へ彼は誠に最早吾人々類の同列に加ふべきものに非ず巍然として神境に入るを感し之を神の獨子萬民の救主イエスよと呼で其膝下に平伏せるの止むべからざるを覺ふ

吾人は今イエス一生の言行事歴等を畧論し彼は誠に神の獨子萬民の救主なることを歸納論明せんとするに先ち爰に必ず看過すべからざる一事の存するを見る何ぞや曰くイエスの傳記なる四福音書及彼の宗教に關する他の聖經の記載は確實なるものか

りや否やの疑問是れなり

第十九世紀の神學歴史は正に此疑問の火に因て燃へたり而て其の精細なる研究批評の結果は如何と問ふに諺にも雨降て地固まると云へる如く却て眞理は批評の爐中より益々光明を放て出來るを見る勿論聖經は神の默示によりて成れるものなりとて或は文体文句の末までも一々皆神が著者に口授せられたるが如く考へ或は一字一句の小までも一點無謬なりとなし或は又創世紀の始より默示錄の終に至るまで悉く皆精確なる歴史的記載なりと思惟するが如きは固より始より誤謬たらすんばあらず吾人の見る所に因れば聖經中の或處は詩歌的に記載せられ或處は譬喩的に記載せられ又或處は表號的文學的に記載せられたるものにして各時代各著者の特色を帶び漸次に進化發達し來り全体を合して而て後始て完全せるものにして其外包の如何に拘らず其大体内實の眞理に至ては眞に天啓絶美無比のものたるを信ずるものなり

聖經中の奇跡に關して批評の火は最も激しく燃へたり吾人は思ふ奇跡に關しては好し合理派論者の所説を許容するとも（合理派論者の所説は此に直接の關係なければ此れが詳述を畧す）尚決て基督及

彼の宗教の價値及根基を失損するものゝ非ず故に予は今イエスの事を論ぜんとするに際し假に奇跡を棄て其他の正確なる事實に基き議論を行らんと欲す

第一　イエスの教訓

天地開闢以來聖賢偉人の此地球に來り深遠なる思想を吐露し卓絶秀美の教訓を垂れしもの其數固より少からず然ども未だ嘗てイエスの如く至純なる天理人道を明示し高大深遠絶美の教訓を垂れ萬古不易活動の眞理を吐露せしものあるを見ず

イエスが遺物として世界の人類に與へし至大なる教訓は別に順序組織を立てゝ記載せしものあるに非ず又イエス自身の著述あるに非ず唯山に野に湖邊に會堂に家宅に又は路傍に凡ゆる往く所に於て遇ふ所の人々に向て彼が混々諄々として說き出でしものゝ彼の弟子等に因て記述せられしものゝ一斑のみ

イエスの神に關する教訓は驚くべきものゝ一斑も人類には拔くべからざる天賦の宗教心あり發して種々の宗教禮拜儀式となる今之を萬邦の歷史に問ふに宗教なく神を拜せざる國民あるなし固より一箇人としては未だ明に宗教を奉信せず又明に神

を拜せざるもの少からずと雖然ども其の心意の奥底に達すれば亦皆宗教心及神の思想を包藏せざるなし況んや明に神を求むるもの其の數實は莫大なり然ども世人暗くして人は未だ眞神を探り得ず神の性質及政治に關し完全ふして且眞正なる思想に到達し得ざるなり此時イエスは則ちユタヤに生れたりイエス既に此世に來れり而て彼れは尤も明瞭に尤も完全に神を顯現したりイエス曰く「神は靈なれば拜するものも靈と眞とを以て之を拜すべきなり」（約四〇廿四）又曰く「神はその獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へり」（約三〇十六）夫れ神は靈ふして愛なりとは是れ神に關する思想觀念の最も完全にして且眞正なるものなり而てイエスの前に又イエスの外ふ如何なる國民も如何なる聖賢も未だ嘗て此の如き高遠なる思想を吐露したるもの此あらざりき是故に獨逸のシュミーデル氏曰く「基督教は實に猶太の唯一神教より發達し來りたるものゝ如して能く猶太教の缺點を鋤去し得たるものと云べし夫れ耶蘇は神と人間との宗教的關係を以て恰も父と子との關係に等しとなすが故に異邦人はヤベー神の專横なる支配を受け神の愛は其民イスラヘルの專有なりとなすが如き鎖國的狹隘

なる思想は遂に神の慈愛は萬國民に優渥にして各個人皆悉く其恩澤に沐浴するを得べしとなす基督教主義の爲に擯斥され削除せられたり要するに基督教は純粹なる內界の宗教卽ち心の宗教なれば鎖國的妄想儀文及自然崇拜教より傳來せる犧牲と儀式とを悉く破碎し去りて全く精神的宗教となりたるなり夫れ神は靈なり神は愛なりと（基督教の大要旨とす）是れ宗教發達の最高度に達したるものと云はずして何ぞや換言すれば神の啓示は基督によりて最も高尙純正に世界に顯いされたるものにして此れ又人間の思考し得らるゝ限りの最高度に到達したるの啓示なり何を以て之を知る曰く神に關する觀念は其の靈かり愛なりと云ふよりも他に高等なる觀念は誰れも爲し得へからざればなり況んや此觀念たる宗教上よりすれば最も深遠に哲學上よりすれば最も眞正として宗教此眞想と其の最大目的とを得たるものなるに於てをや」（奇跡詳論二十二、三頁）と

實に世界の人類は久しく暗黑の中に彷徨して神を求めしがイエス來て始て世は眞神を發見したり聖經に曰く「未た神を見し人あらず唯うみ給へる獨子すなはち父の懷

に在者此みを之を彰せり」（約一〇十六）イエスは眞に神此大顯現者なり

イエスの人間に關する教訓も亦頗る驚くべき者あり古來何處の國民と雖概ね皆自國を偏重し他國民を凌辱虐蹂することあるを免れず又人は皆概ね傲慢狹量にして互に相虐侮し嫉妬し怨憤し爭害するを免れず而て見よ此が爲に人類の幸福と地上の平安は如何計り殺減せらるゝか予輩は之を思ふも尙粟此肌に生するを覺ふ然るにイエスは來り教て曰く「夫れ人類は例ひ其の屬する所の國土を異にし貴賤貧富學無學老幼男女の區別ありと雖固と是れ皆同胞兄弟姉妹にして均しく天父なる神の子供なり」「神は其日を善者にも惡者にも照し雨を義者よも義らざる者にも降せ給へり爾曹己を愛する者を愛するは何の報賞かあらん我爾曹に告ん爾曹の敵を愛み迫害ものゝ爲に祈禱せよ」「爾曹若し人の罪を免さば天に在ます爾曹の父も亦爾曹を免し給はん」「己の如く爾此隣を愛すべし」と嗟乎如何に博大洪量の美訓ならずやイエスは此の如く博大なる愛を以て人類互に相愛すべきことを教へたり然ともイエスは唯に厚く同胞人類を愛すべきことを教へたるのみならず又特に天父なる神を愛すべきことを教

べざり是れ實にイエス此人に關する教訓の特色根基にして又他の宗教及聖賢の夢にだも考へ及はざりしものなり夫れ完全にして純善靈にして愛なる神を敬愛し常に神と交親して其聖旨に合へとは如何に高遠優美の思想ならずやイエスは又悔改を教へたり人此最も大なる仇敵は罪惡なり而て此此仇敵を追拂ふべき唯一の武器は悔改なり人若し如何に罪惡の泥中に沈むとも一朝之を悔ひ眞實に改めなば直に愛なる神に近き人と和き善に進み平安に達するを得るなり故にイエスは悔改を以て道に入るの門とはなしぬイエスは又信仰を教へたり是れ亦他の宗教及聖賢の教書中ふ於ては殆ど其文字さへも見るを得ざる希有のものにして而も人間の爲に甚だ切要なる教訓なりとす懐疑は知識の鍵なり然ども其未た知識に達せざるの前に於ては懐疑は懼るべき不安、躊躇、卑怯、暗黑、失望の母なり而て此懼るべき不安、躊躇、卑怯、暗黑、失望の河を越へて安定、決斷、勇猛、光明、希望に達せしむるものゝ信仰なり信仰の用又大なりと云ふべしイエス是ふ於てか則ち敎て曰く彼の冥々裡に宇宙萬有の運行を主宰し國家人生の結局を指導する所の大能力は是れ則ち靈にして愛なる神なり爾曹之を信

じ成敗も死生も一切皆深遠なる神の攝理中ふ含蓄せるものなるを信じ泰然として立ち猛然として進めよと何等の妙敎ぞイエス又人は神の聖旨に從順なるべきことを敎へたり抑も人ゝ天地の主宰者に非ず天地の主宰者は神なり故に人生の萬事必ずしも人の志望の如く成るものにあらず然るふ人多くは人間の位置を忘れて己が任意に事を成さんと欲す是に於てか忽ち失望の石に躓き憂愁の谷ふ陷り天を怨み人を怨むふ至る何ぞ其れ愚盲なるやイエス是に於てか人皆我意私心を棄て死生、榮辱、成敗、唯神の聖旨の存する所に從順すべしと敎へたり人是に至て復た失望憂愁怨憤あるなし何等の至理ぞ

夫れイエスは此の如く人は神を愛し人を愛し罪惡を悔改し神を信仰し神の聖旨に從順なるべきことを敎へたり然ども絶大なるイエスの敎訓は單に此に止るにあらず若し夫れ新生、聖靈の恩化、祈禱に關する敎訓及び人の靈魂に關するもの柔和　謙遜、慈悲忍耐及義烈等の敎訓に就て言はんには時足らざるなり

第二　イエスの品性

凡そ人は一長あれば一短あり一得あれば一失あり眞に皆不完全にして過不及あるを免れず例へば活潑勇猛の人は粗暴過激に陷り易く温順にして忍耐強き人は優柔不斷に流れ易く淡泊にして磊落なる人は熟慮謹愼の德に欠け熟慮謹愼の人は執拗にして頑固なることあり自重自任の人は傲慢にして狹量となり謙遜にして寛大なるものは卑屈にして威儼を失ひ易く愛情滿つれども智慮足らざるものあり智慮ありて愛情足らざるあり或は智慮もあり愛情もあれど剛毅敢爲の意志力に乏きものあり或は剛毅敢爲の意志力に富めども智慮と愛情と足らざるなどありて人類の中には完全圓滿なる品性を具ふるもの至て稀なり然るにイエスは萬德を一身に具して毫も過不及なく完全にして圓滿なる品性を具ふるは誠に驚くべき事實なりとす

イエスの品性は恰も絶巧の音樂師に因て奏せらるゝ絶妙の音樂の如し緩急高下悉く宜に合ひ圓滿優美讃嘆の外なし

第三　イエスの行爲

人或は胸に絶大の眞理を湛へ又身に絶美の品性を具ふるとも一度人間社會の活戰場

に入り盤根錯節の世に處し種々雜多の人に交り一の希望を懷て勇戰せんとするに當ては事、志望と違ひ人吾と逆ひ突喊合戰の際目眩み足躓き思慮亂れ行爲激し失敗と過誤に陷らざること難し然るにイエスに於ては則ち然らず其の得意と見ゆる場合に於ても失意と見ゆる場合に於ても悲哀にも喜悅にも群集の中に於ても孤獨の時に於ても敵の眞中に在ても味方の前に於ても學者貴人に接しても婦人小兒賤劣の人に交りても頌讃崇拜せらるゝ時も嘲笑罵詈慘酷の待遇を受る時に於ても凡てイエスの三年の大激戰中彼左を突き右を拂ひ優しく潔く又勇して逼らず躊はず縱容自若傑然卓然として進んで止まざりき彼の炎々として燃ゆる精神と優美靜穩の情と調和し猛然として進むの氣慨は泰然として動かざるの度胸と伴ひ氣宇濶大天地を呑み心亦潔白玉雪の如し彼れ心に一の汚點なく彼を行爲に一の罪過なし彼れの進むい仁愛の爲なり彼の止まるも仁愛の爲なり活るも仁愛の爲め死するも亦仁愛の爲にして彼は渾身是れ仁愛なりきされば、彼は偏く巡りて善事を行ひ」（行傳十〇卅八）「會堂にて教をなし天國の福音を宣傳へ且民の中なる諸の病を愈し」（太四〇廿三）「牧者なき羊の如

く衆人なやみ又流離になりし故に之を見て憫み給ひ」（太十〇卅六）橄欖山上輪奐壯麗の國都エルサレムを觀下し其國民の迷愚敗德の甚き亡國の徵目前に逼まるを察せるや「噫エルサレムよエルサレムよ預言者を殺し爾に遣さるゝ者を石にて擊つものよ母雞の雛を翼の下に集る如く我なんじの赤子を集んとせしこと幾次ぞや然と爾曾は好ざりき視よ爾曾の家は荒地となりて遺れん」とて潸然として哭泣し其の遂にユダヤの風の罪おき彼に逆て吹き荒み愚者有司は頻に嫌厭嫉妬の炎を燃し既に罪惡の犧牲となりて勞れたる背に十字架を負ひ將さに刑場に赴かんとするやエルサレムの婦等は彼を見て哭哀しがイエス彼等を顧いひけるは「エルサレムの女子よ我爲に哭なかま唯おのまと己が子の爲に哭け」（路廿三〇廿八）と彼れ又十字架上に在て己を十字架に釘けたる兵卒の爲に天父に祈禱して曰く「父よ彼等を赦し給へ其爲すところを知ざるが故なり」と嗟呼是れ如何なる人ぞ天上天下何の處に斯の如き絶美の行爲を現はしたる聖者ありや吾人は之を聞かんと欲す宜なり彼を地より絶たんと要したる彼の仇敵さへも彼れ自ら神の子と稱へて神を瀆したり又彼は王なりと言しと云

ふの外絶へて罪惡を發見すること能はすロマの方伯ポンテオ、ピラトも彼の罪狀を審問したる末水を取りて人々の前に手をあらひ「此義者の血に我は罪なし爾曾自ら之に當れ」と宣言したり而て彼を敵ふ資したる反逆の弟子ユダも後己の罪を悔ひて堪へ難くやありけん遂に縊れて自殺し彼を刑場に監督せし百夫の長も守卒も「其有し事を見て甚く懼れ此は誠に神の子なりと曰り」（太廿七〇五十四）あゝ此の驚くべき行爲を現はせしイエスは抑も何人ぞやあゝ抑も何人ぞや

第四　イエスの事業

古來偉大の事業を計畫せし英雄豪傑其人に乏からず然ども未たイエスの如く絶大にして而も高貴なる無比の大事業を計畫せしものあるを見ずイエスの計畫せし大業は全く人類の夢想だもなさゝりしものにして至大至高永遠のものなり而てイエスハ一匹夫の身を以て僅々三年の間ユ王侯貴人學者の助力を借らず唯少數の漁夫殊更を伴侶となし兵力に訴へず腕力を用ひず又金銀の力に頼らずして而て之を成就せり豈驚くべきの至ならずや

抑も「イエス」の計畫せし至大至高永遠の大事業とは何ぞや曰く救世の大業にして地に無形の天國を建設することなりき

米國の神學博士ニュートン、スマイス氏曰く「耶蘇が罪が如何なるものなるやを見或は感せし如くに又之を見或は感せしものは古今皆で一人もあらざりしなり耶蘇は假令吾人の中に一緒に住ひしと雖或高き場處より遙に人間の心の底まで洞觀せるが如し彼は實に能く人の心にある所のものを熟知せり」（耶蘇の非凡六十五頁）と眞に「イエス」は其驚くべき智力を以て國家人類の運命を達觀し國家人類の最大仇敵は全く人心の奥底に潛伏する罪なることを見たり又此の罪が日夜間斷なく何處の國に於ても何の時代に於ても種々の形狀を取て變化し出沒し人を惱ませし家を亂し國を亡すことを見たり尚且つ人類を最早皆罪の奴隷となり罪は此世の主となりて正に暴虐の威を振て人類を統御するを見たり是に於てか彼は此懼るべき罪の權威と束縛より人を救ひ世を救はんが爲に地に無形の天國を建設せんことを計畫したり（天國は又父の國神の國と記されたり）

偖て其の天國とは如何なるものぞと言ふに當てイエスが方伯ピラトに向て訟庭に於て我國はこの世の國に非ず若しわが國この世の國ならば我僕われをユダヤ人に付せざる爲に戰ふべし然と我國は此世の國ならざるなり（約十八（卅六）と答へし如く固と無形の國土なるが故に山岳河海等を以て其境域を制定する所の此世の國土とは全く其の趣を異にするものなりイエス又嘗て神の國は何の時來るかとパリサイの人に問はれければ答て「神の國は顯れて來るものに非ず此に觀よ彼に觀よと人の言ふべき者にも非ず夫神の國は爾曹の衷に在り」（路十七〇廿一、二）と言る如く天國の支配は直接に土地家屋財産及肉体等有形事物の上に及に非ずして全く人の心靈を支配するものなりとす故にイエスが計畫せし天國の領國及支配は極て廣大なるものにして廣く萬國に亘り遠く萬世代後に及んで限りなし

イエスは「眞理について證を爲し」「天國の福音を宣傳へ」又其身を以て活る眞理を顯現し天國の福音の中心となり其弟子等に「往て萬國の民にばふてすを施し之を父と子と聖靈の名に入て弟子となし且わが爾曹に命せし言を守れと彼等に教へよ」と

命に罪惡を悔改して神を信し神の聖旨に從順し神を愛し人を愛し柔和、謙遜、忍耐、戦烈以て世の光地の鹽とならしめ之をイエスの教會に屬し神の聖徒とし天國の民となし又自ら其教會の首領となり聖徒の主となり天國の王となり以て彼等を教へ彼等を導き彼等を助け此の如くにして世を深め懼るべき罪の權威束縛の中より人を救はんとするなり噫如何に驚くべき至大至高永遠の大事業ならずや

吾人はイエスが此の如き人類の夢想にだも及はざる絶大の偉業を計畫せしを見て之を驚嘆するのみならず又彼が此の絶大の偉業を成就するに適當せる絶倫の人物たりしこと及又彼が誤りなく此偉業を成就して今日に至れることを思へば吾人は最早讃驚嘆異崇尊の念の迸出して止むべからざるものあるを覺ふされば彼の希世の英傑ナポレオン、ボナパートが一日ゼナラル、ボルドラメドの問に答て左の如く言ひしと言傳るも宜也

予は人を知る而て予は卿に告てイエスキリストは人に非すと云はん漠莫なる心はキリストと帝國建設者及び他の諸宗教の神々の間に類似の存するを見ん然ども

其類似は實に存するものに非ず基督教と他の諸宗教との間には無限の隔離あつて存ず……卿はシーザル及びアレキサンデルの事歴を說話し又彼等の勝利及彼等が彼等の將卒の心を焰やしたりし其熱心に就て說話し得べけん然ども卿は爰に一人の死人ありて其人が忠實にして且其人の紀念の爲め全く心を傾けたる軍隊を率ひて絶へず勝利を爲すものありと承認し得べきかカルセージの軍隊はハンニバルを忘失せし如く予が軍隊も亦將に予を忘失すべし否予が生存中に於てさへ既に予を忘失したり……アレキサンデル、シーザル、シャーレマン及予自身も偕に帝國を建設したり然ども吾等の英才の基く所は何なりしか武力と勢力なり然るにイエス、キリストは獨り其帝國を愛の上に建設したり而て今に至て數十百萬の人は彼の爲に死するを望む（シャーフ氏著キリストの人物二百三十五、二百四十四、五頁抄譯）と

抑も此の如き至大至高永遠の偉業を成就し以て天國の王となり萬世の後まで吾主イエスよと萬人に崇拜せらるゝ彼のイエスは何人ならんや

第五　イエスの意識

人に外界を顯はす官能あり五官之なり人に內界を顯はす官能あり意識之なり故に吾人は耳目口鼻皮膚の五官に由て身外有形の事物を知り意識に由て心內無形の作用を知るなり抑も人い屢々他人の爲に其思想行爲を誤解せらるゝことあるを免れず然ども其人自身の意識は恒ふ其人に向て尤も正當なる判決を與ふ是を以て吾人若し能く人を知んと欲せば唯に其外部を顯われたる言行ふ因て之を批判するのみならず更に其人內界の意識如何を察するを要す

今イエスの意識を察するに亦甚た驚くべきものあるを見る何ぞや自己の無罪なる意識を有せしでと是なり

夫れ人或は自己の愚盲不德なるにより又は傲慢詐欺ふよりて我れ罪なしと思考し又明言するものあり然ども　イエスは愚盲不德の人に非ず傲慢詐欺の人にも非ず彼れ智極て明に德極て高く謙遜にして且誠實なり彼も又神を敬するの念至て深く其感情も亦頗る銳敏なりき然れば彼れ若し一點の罪過あらんか彼も速に之を懺悔せしならん

彼れ又心に疾き所あらんか彼れ必ず之を嗟嘆して天父に祈禱せしならん然るに彼に於ては嘗て一度も此事あるなし彼れ人の罪を戒め人の罪を赦し罪に就て教へたり然ども彼は未た嘗て一度も自己の不德を嘆息し或は自己の言行を悔ひ或は自己の爲に罪の赦を祈りしことなし

論者或は曰ん是れ恐ば自己を欺き又他人を欺きしものならん何ぞ一點の罪過なき人あらんやと然ども幾多の確實なる反証は此の訴訟を止むるふ充分なり第一誰にても注意して福音書を讀んには聖にして且敬虔なるイエスの生涯の凡の場合ふ於る凡の舉動行爲は十分に彼の無罪なる意識を証明するを見ん第二前既にイエスは行爲を論する中にも述べし如く夫のイエスを嫌厭し嫉妬して遂に之を殺害せんと企たる彼れ伪潔さへも百方彼の罪過を求て得ず彼は神は子なりと言へり彼は又我は王なりと言へりと曰の外絕て罪狀を發見する能はざりしは又是れ彼れ無罪なる意識を承認すべき理由に非る乎第三其他彼の弟子等が終始變ることなく至大の尊崇愛慕を以て彼に服從したることの如き第四貪慾反逆の弟子ユダさへも彼を敵に賣（わたせ）しを悔ひ後遂に自

殺せしが如き皆彼の眞に無罪なりしを証明するに非ずして何ぞや

イエスの世界人類に對する意識も亦極て驚くべきものあり

吾人い未た嘗てイエスの如く世界人類に對して自ら最高等の地歩を占め至上の權威を有し大膽無比の請求をなせしものあるを見ず米國のホレース、ブシヂル氏此事を記して曰く（一箇の受造物なる人間の世界に對して此く云ふと想像せよ曰く「吾は父より來れり」「爾曹は地より出て我は上より來る」又世界の有ゆる智者及哲學者に對し大膽なる斷定をなして彼の言ふ所を聞け曰く「視よソロモンより大なるもの此にあり」「我は世の光なり」「我は途なり眞理なり生命なり」と又凡此人類及宗教に對して宣言する所を聽け曰く「人若し我に由らざれば父の所に往こと能ず」明に己の死に就て約束して曰く「我若し地より擧られなば萬民を引て我に就らせん」又自己の無限の尊威を告げ且証明して曰く「父よ我なんぢの榮を世に顯はし爾の我に委し所の業は我之を成せり父よ今我をして爾と偕に榮を得させ給へ」又人類を己に招て曰く「我に來れ」「我に從へ」又凡の最も親愛せしもの、上に接手して先例の愛を命して曰く、

我に倣りて父母を愛するものは我に合はざるものなり」云々）ナシヂル氏著自然及超自然二百八十九頁摘譯）是れ豈眞に驚嘆の至ならずや是をグリーキの大賢ソクラテスに比せんか彼は此の如き請求をなせしことなく此の如き意識を有せしことなし是を支那の大聖孔子に比せんか孔子は德之不修學之不講聞義不能徙不善不能改是吾憂也と云ひ若し聖與仁則吾豈敢と言しを聞く未たイエスの如き請求をなしイエスの如き意識を有せしことあるを聞かず是を印度の大智釋迦氏に比せんか彼れ天上天下唯我獨尊と言しと云ひ又大覺世尊と呼れしと雖歴史と比較的研究は之を承認せざるを如何せん獨りイエスに至ては則ち然らず彼も此の如き最大の請求をなし又驚くべき至大の意識を有せしと雖吾人も彼の福音傳を讀むに際し毫末も彼の傲慢不遜なる形跡を見ずして唯愈驚嘆崇尊の念を發し甘して彼の至上の權威に服するのみならず彼の光明に照らされ二千年來歴史上の事實と近年の比較的研究は既に其投票をイエスに與たり而て將さに全世界の山河も悉くイエスを仰て其德を頌はんとを洵に驚嘆の至ならずや

尚イエスに他の一の驚くべき意識あり何ぞや神に對するイエスの意識是なり

吾人は未たイエスは神の獨子なり天父と一なりと論斷すべき場合に達せず又其意味を明瞭にするの場合にも達せざるなり然ども此に看過すべからざるハイエス自ら此意識を有せしこと是なり

イエス嘗て曰く「父は我に萬物を予たまへり父の外に子を識るものなくまた子および子の顯す所の者の外に父を識るものなし」(太十二〇廿七)(註此に子と云るはイエス自身を言るものにて原語の意味に由るときは他の人類を神の子と言ると區別あるを見る)又曰く「爾曹人の子を舉しぬち我の彼なるを知り又我みづから何事をも行ず唯わが父の教に從て此等の事を言るを知るべし我を遣はし給ふ者我と偕に在り父は我を獨遣したまはず蓋われ恒に彼の心に適ふ事を行ばなり」(約八〇廿八、九)「我と父とは一なり」(約十〇卅)又祭司長が彼の罪狀を擬して「然ば爾は神の子なるか」と審問せしとき彼れ答て曰く「爾曹が言る如く我は是なり」(路二十二〇七十)とイエスの此場合に於る此の答辭は夫れシライエル、マヘル氏も言へりと云ふ如く誠に人類の吐露したる言語の中にて至大の一言と謂はざるを得ず

夫れ此の如くイエスは自己の無罪なる意識を有し又世界八類に對して自ら至大至高なる地位に立ち至大至高なる任務を有するの意識を有し且天父純善の神と其心識に於て和同合一し最も神に親近なる者たる意識を有せり豈驚異の至ならずや

第六　イエスの確信及先見

夫れ天地萬有及國家人類に關する事理は極て複雜深奥にして有限なる人智の容易に達觀し解了し得べき所に非ず何となれば天地萬有は固と是れ無限なる神の創造し維持し主宰し給ふ所國家人類の運命も亦神の攝理に下ふ導かるゝものなるが故に有限なる人智の容易に之を達觀し解了し得ざるは固より至當の事なりと謂ふべし故に人若し漫然として事物を信じ卒然として事理を斷言するときは必ずや屢々誤謬に陷り恥辱を收獲すべき大智聖賢と雖尚且達せざる所あり知らざる所ありて誤謬に陷るとあるを免れず然るに獨りイエスは斷然として絶大の眞理を說き切然として未た見聞せざる他人の心中、過去現在を語り及ひ遠き未來の事をも說きしが而も秋毫誤謬なかりき是れ亦頗る非凡の事なりとす

植村正久氏記して曰く「試に之に向て人類の未來世は存在するや否と問はゞ耶蘇忽ち之に答て曰く我は復活なり又生命なりと人は能く天父を知り得るやと問はゞ聲に應して論すらく然り爾曹若し我を知らば吾父をも知るべき筈なり今より爾曹は彼を知り彼を見たりと神は人類の安危を顧るや答て曰く然り天父は汝曹に必要なるものを知る汝曹が頭の髮も亦皆數へられたるに非ずやと祈禱は効力を有するものなるや然り求よ然ば與られ尋よさらば遇ひ門を叩けよさらば開かるゝことを得ん吾人は罪惡は赦さるゝことを得べきや然り子よ汝の罪は汝に赦されたりと基督は此の如く毫も猶豫する所なき斷言を以て一々秘奥絶大の道理を說し去りて少も苦思沈吟の体を見ず」（眞理一班百九十三頁）と

されどイエスの驚くべき確信及先見は獨り其絶大なる眞理を何の苦もなく斷乎確然として說き來り說き去りし場合に於て顯現せしのみならず又彼が暗黑生敗の眞中と見する場合に於て自ら計畫せし絶大の事業の必ず遂に成功すべきことを斷信して毛頭も疑ふ所なかりしよ由て現はれたり

抑もイエスが三十年間夫の靜閑なるナザレの谿間に潛居し給ふや彼れ其間如何に生活せしか固より正確なる歷史は徵すべきもなきを以て聖經中に記載せられたる二三の記事を除くの外吾人は詳に之を知るに緣由なしと雖想ふに彼は此間に於て或は聖經を繙て其思想を涵養啓發し或は沈思默念して心思を天外に飛し或は祖先の歷史を讀で時にアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ヨシュア 以下の古聖賢古英雄を夢み或は村中の老弱男女と交際して此に人心を活機を察知し或は又春の朝夏の夕よ天然の美妙を味へて花に笑、流水の歌を解し神に御手の業を考へ或は又當時天下の形勢を揣摩し人心の傾向を推知し國家人類の運命を達觀し遂に暗黑の世、迷惑罪惡の人類を救拯すべき絶大無比の重任の全く自己の頭上に懸れるを自覺するに至りしならん爾來彼の心は炎々として火の如く焰へしが彼は靜に時機の到來するを待ちぬ既にして時は滿てり是に於てか彼れ則ち起て其身を群集の眼前に現し愛に絶大の偉業に着手せり彼れ是より後山野、路傍、家宅の差別なく全國到る處ゝ於て諄々として絶大の眞理を說き天國の福音を宣傳へ天下の曉鐘となり木鐸となり以て一世の

迷夢を醒し人類を教導し又其繼業者を教育したりき夫れ彼は斯の如くにして永遠に亘り萬邦に通ずる無形の天國を地上に建設せんため其基礎を置かんと企圖せしが當時の有司、百官、祭司、學者以下僞善、迷信、罪惡の世は彼を知るもの至て少く彼の眞理及事業を理解するもの極て稀にして初には宛も猿澤池の鯉魚が餌を求て集るが如くに集り市人が異裝の列を觀んとて群るが如くに群りしと雖彼には漸く失望となり怨恨となり嫉妬となりユダヤの潮流は彼に逆て流れ殺氣エルサレムの天を掠め暗雲慘恒イエスは忽ち草獨孤立の身となり其生命さへも今は誠に一髮の千金を引くが如く極て危險の情態とはなりぬ此時ふ當てやイエスは唯に外に百萬の敵を引受けて其事業の前途の全く沮隔せらしを感せざるを得ざりしのみならず又內には己が繼業者たるべき十數人の弟子等さへも未だ全く彼の事業の眞意性質を了解せず或は互に爭ひ或は偕に失望するなどありて正に是れ內憂外冠交々イエス一身を圍み攻め暗黑と失望と失敗と彼を壓殺すべき場合なりき然るに彼は此狂瀾怒濤深霧暗黑の眞中にありても尙巖の如き確信を有して秋毫も動く所あらず靜に彼が弟子及群集に語りし所

を聽け曰く爾曹世に在ては患難を受ん然と懼るゝ勿れ我すでに世ふ勝てり」（約十六○卅三）「なんぢら心に憂る勿れ神を信じ亦われを信ずべし」（約十四○一）「我もし地より擧うれなば萬民を引て我に就らせん」（約十二○卅二）又夫の反逆の弟子ユダが彼の居所を敵に知せんとて出去し後彼れ弟子等に告て曰く「今人の子榮を受く神亦自の榮の中に彼を榮ゆしむ直に彼を榮ゆしめん」（約十三○卅二）而て彼既に集議所に引出され汝は果てキリストなるかと審問せられし時彼答て曰らく「今より後人の子は大權ある神の右に坐せん」路二十二○十九）と此の如く彼は暗黑の中に在ても死生の際ふ瀕しても未た嘗て分毫も其確信を變せざりしのみならず又三千世界の其中に何物も彼の確信を動し得るものあらざりき而て彼の此確信ハ眞に確信にして盲信ふ非ず事實果て其の如く成りしは又彼の非凡の先見を示すものと謂ふべし

尙他に一の驚くべき事實ありて著くイエスの至大なる確信及先見を現示す何ぞや曰くイエスが其死に就かんとするの前に當り萬世の後までも己が死を人類に記念せしめんとて晩餐の聖式を設けたることと之なり

ジョン、ヨメン氏之を論して曰く「キリストは最後の論越節の席に於て傍に坐せる弟子等に告て曰く我死方に近りときリストは死方に近るを見て心に懼るゝ處あらざりしか良しや我身の死すことは厭はざりしも其生涯の事業死と共に水泡に屬することを懸念せざりしや死して后世人は何と評すべきや終に天罰ふ由て斃れ一敗地に塗れたりと評することを恐れざりしや否然らず唯に己の死のみならず其苦痛も耻辱も悉く皆世界のあらん限りは人を〳〵て之を記憶せしめん爲に一の例典を設立したり即ちパンを取り之を擘き弟子に與て曰く此は汝等の爲に予ふる我身なり我を記へん爲に之を行せ食して後杯を取て曰く此は汝曹の爲に流す我血なり我を記し爲に之を行せと噫々何ぞ其擧動の靜肅なるや何ぞ其心の壯大なるや誰か之に畏服感動せざるものあらんや天下誰か罪人の地位に立て自ら其耻べき死を人の記憶ふ存せんと勉めたるものありや」云々 歴史上の基督二百五十三四、頁 而て亦速綿として今日に至るまで實行られ記念せられつゝあるなり

其他彼がナタナエル、サマリアの婦人及パリサイ人等に對し一見直に其心奥の秘事を洞察し毫も誤たざりし先見智明の如きに至ては事煩しければ此には之を省畧しぬ嗟、吁讀者よイエスは如何ゑ非凡卓絶直覺的の智明を有し不動の確信無謬の先見を有せしよな

第七　イエスの獨立創始

生物學者曰く生物は境遇に從て變選すと人も亦然り外圍境遇の百般の事情により其思想、品性、行爲、事業の上に影響及感化を受け變化を來すを免ず是を以て古來此等外圍境遇の束縛及勢力を排斥して能く獨立創始の人と成り得るもの甚た稀なり故ゑユダヤ人にはユダヤ人の特質ありギリシャ人にはギリシャ人の特質ありロマ人にはロマ人の特質あり英、米、獨、佛、日本、支那の人亦皆然らざるなし歴史古代の人は古代の毛色を存し中世の人は中世の印象を帶び近世の人は亦近世の形質を有す然どもイエスはユダヤに生れてユダヤ人に非ず第一世紀に產して第一世紀の產物と見へず彼の思想も品性も行爲も事業も皆空前絶後獨立創始のものあるゝ亦甚だ異常のことなりとす

抑もイエスのユダヤ國に生るゝや當時天下の形勢如何を按ずるに夫の羅馬人は正に腕力を以て天下を切り從へ破竹の勢を以て掠奪暴威を恣んするの時にしてユダヤ國も亦イエス降生前六十三年既にロマれ大將ポンペーの爲に攻破せられ城下の盟約をなして其屬領となり今は空く涙を飲で其壓抑の下に服從せざるを得ざるの場合なりき故に此時に當ては天下の列國皆宜く日夜鞱櫜を講し戰術を脩し劒を磨し矢を造り進戰防守一度ロマの勢力を挫き以て會稽の耻辱を雪くべき秋なりき特にユダヤ人の如く祖先以來吾儕は神の撰民なりとの觀念を有し頗る自尊愛國の情に富みし國民の中に生長して少く英豪の氣象あらんものゝ必すや其理想は馳て戰場に飛び旗鼓相交り兵刃相叫ぶの邊に存せざるべからざるものありき況や當時のユダヤ人は祖先傳來の理想神れ約束なるメシアの出現を熟望せし時なるに於ておや（註此メシヤとゝイエスの理解し給ふ所に由れば心の王にして心靈的救世主を指示せるなれどもユダヤ人は此を肉体的及政治的に誤解し居りしなり）故にイエスにして若し尋常の人ならしめば必すや正しく國民の敵氣を激し兵を提て直にロマ兵を蹂躙せんと試しな

らん是れ寔に時勢の切逼する所國情の壓出する所人民輿望の吸呼する所なりき然どもイエスは斷乎として此等外國境遇の感化束縛を切り棄てたり而て彼の思想は全く反對の方向に向て流れ彼の計畫せし大業い全くユダヤ人民の豫想の外にありき

今試にイエスの吐露せし獨立創始の大思想――即ちユダヤ國傳來の思想及當時ユダヤの學者人民の中に流行せし思想と異なり幷に古今萬國民の認知せざりしもの――の二三を掲れば

一　神は萬國萬民の天父にして一國一人民の神に非ること

二　神の性質は公義なると同時に仁愛なるが故に神れ救及神の恩惠は萬國民に及ぶこと

三　萬國民は皆神の子供にして上に唯一の天父眞神を戴くものなるが故に狹量頑偏の忘念を脫し博愛を似て衆に對すべきこと

四　神の躰は靈なるが故に拜するものも亦靈と眞を以て之を拜すべきこと

且夫れイエスは當時ユダヤ國一汎の通弊なり―偽善の行爲を排責し儀式と律法の末

葉ふ拘泥して肝心の本意を失するを難し赤心神を敬し實意人を愛すべきを說き傲慢狹量私慾に反對して謙遜、寬大、温和、慈悲を說きたりイエスは毫も其時代及其周圍に行れし幾多の迷信及弊害に感染することなかりき

今又イエスの計畫せし事業を見るに彼は夫の國運を知らず時勢を知らず根本を見ずして妄に肉躰的及國家的の救濟を急望する國民の輿論及過激黨に反對し靜に根本的精神的の改革を企圖し以て將に轉覆滅絕せんとせし自國の運命を支んとせしのみならず且自己は實に全人類に對する重大の任務を有すること他言を以て之を言へば自己は救世主として神より遣はされたるものなるを自覺し居りしが故に彼は更に地に天國を建設して以て世界全人類の心靈的救極を計畫したりき

是を以てイエスの說く所爲す所は多く皆ユダヤ人の思想希望と合はざるのみならず彼は更に嚴然として有司學者以下一般人民の迷謬罪惡を排斥せしかば彼等は遂にイエスを棄るに至りしものなり

夫も此の如くイエスは外國境遇の事情に制せられず感染せず超然として獨立創始の

大思想を吐露し獨立創始の行爲を現し獨立創始の事業を成しき

尙他にイエスに關して一の獨創的のものありイエスの品性是なり

フレデリキ、ロボルトソン氏曰く「歷史家が人間種族の區別を批判せんとするに當ては其國民的性質を察するに若くものなかるべし何となれば何物も之に勝りて著明なるものなければなりヒブリユー人は凡の人類に異なきる記表を有しロマ人の品性は全くグリーキ人の品性と異なり粗野なる英人の信實なるは才能の燦爛たるケルチック人種と異なり此等の特殊なる國民的性質を結合せるは甚た稀有なりとす諸君は嚴正にして老實なるユダヤ人の聖潔的感覺がアゼンス人の美妙的感覺と伴へるをば容易に發見し得ざるべく嚴格貞實は文雅温良と合し難く敏才は堅實と反對するが如く見へ感覺の銳敏なる人は大抵耐久の質に乏し故に吾人が完全なる品性と言ふときは凡て此等德性の總額を言ふなり而て吾人は唯二箇所に於て完全なる品性を發見することを得即ち一は世界の歷史中に他なきイエス、キリストに於て之を發見するなり」（ロボルトソン氏說教集三百六十五頁）と寔に然り彼は暗黑なる第一世紀に生て至大

の光明を放ち幾多の迷信罪惡及惡風の滿ちたるユダヤ人民の中に生長して而も毛頭も之に感染せず獨立創始完全圓滿の品性を現せ〜は亦是れ大に讃嘆すべきことなりとす

夫れイエスは此の如く其思想も行爲も事業も品性も皆卓乎超然として獨立創始のものなりき故に吾人が萬邦の歷史中にイエスを觀るや恰も潔然として泥中に咲き香へる蓮花を觀るが如く萬綠叢中に一点の紅花を認むるが如く又千峯萬嶺を足下に扣へて秀然として雲表に聳ゆる芙峯を望むが如し

第八　イエスの感化

凡り聖賢偉人の此世に生るゝや彼等の衷には一種の美大妙奇なる能力ありて存ず是を以て苟も精神あるものゝ之に接せるや恰も磁針の鉄に吸引せらるゝが如くに吸引せられ陰陽電氣の相感するが如くに感應〜彼等を知り彼等と交るの深きに從ひ漸く尊敬愛慕畏怖の念を增發〜不知不覺の間に遂に大に之に同化せらるゝに至る此能力を名て感化力と云ふ而て聖賢偉人の人を感化するや唯に其人現存の時に於て然るのみに非ず其人既に沒して後と雖苟も心あるものゝ彼等の言行及事業を見聞せんには千載の下尙且感奮興起して之に同化せらるゝもとなるが故に彼等偉大なる人物の感化力は洵に永遠の珍寶なりとす

イエスは古今東西に於て空前絕後最善最大なる大感化者なり

蘇國の神學博士ジエームス、ストウカル氏曰く「人若し注意して基督の傳記を讀み人々が如何程までに彼に感じ又如何樣に彼に動かされたるかを熟考せば基督の感化力は極て大なり〜を發見するなるべし……夫れ基督に近き至るものは何か其心に感する所なくして止むこと能はず怨まざれば愛し嘆美せざれば置る亦其愛憎好惡を示すに於て一も冷々淡々たるものは非ず必ず滿腔の熱情を注き出せるなり」（福音新報第四十號）と然り眞に其の如くなり〜彼十二歲の時両親に從てエルサレムの國都に上り神殿の講堂に入り祭司學者の群中に坐し聖經の質疑をなすや「聞者みな其智慧と應對を奇とせり」（路三〇四十七）彼年既に長して三十歲に至り愈々將に公然宣敎に着手せんとするや先つ當時の傑人施洗のヨハネを訪ひしがヨハネは彼

の非凡なる見識絶倫の品性を見て深く感動し此人こそ必定メシヤなるらんと認たりけん嘗てイエスの除に歩して己の許に來るを望見しつゝ其弟子等に告て曰く「世の罪を負ふ神の羔を見よ」（約一〇廿九）とヨハネ又嘗て曰く「我より後に來る者は我勝りて能力あり我はその履を提るにも足らず」（太三〇十一）イエス又國中を偏歴して醫を施し福音を説くや衆人其異能に異き權威ある教訓に感し相傳へ相率て偕に彼に集り人忽ち雲霞をなしぬペテロ、アンデレ、ヨハネ、ヤコブ等は施洗のヨハネを去り網と舟とを棄てゝ彼に從ひナタナヘルは前には其朋友ピリポに勸誘せらるゝやナザレより何の善者出んやとてイエスを嘲りしが一旦彼に接見して其自然俊偉の風采に驚き異常の智能に感動したりけん「ラビ汝は神の子なり爾はイスラヘルの王なり」と稱言して彼に從ひ稅吏馬太も官を辭して彼の弟子となりサマリアの婦人は暫時彼の教話を聞きし後村中に走り入て「我すべて行し事を我に告し人を來て觀よ此はキリストならずや」と言ひザアカイも「起て主よ我所有の半を貧者に施さん若しわれ誣訟て人より收たる所あらば四倍にして之を償ふべし」（路十九〇八）と懺悔し

マリア、ヨハンナ、スザンナ等の婦人は彼の教訓を喜び彼を敬愛して或は所有を以てイエスに供事し或は高價なる香油を彼の躰に塗り頭髪を以て之を拭ひたることもありき既にしてイエスは捕へられて四人となり方伯ピラト彼を審問するや彼イエスは答辭を聞き又其風采擧動を見て大に驚きたりけん衆人の前に其手を洗ふて曰く「我は此義人の血に與なし」と又イエス遂に十字架に釘せらるゝや之を監督せし百夫の長も守卒も彼の終期の擧動を見て痛く感せしと見へ大に驚て曰く「此は誠に神の子なり」と而て彼の生前嘗て彼の教話を聞き彼の人物に接せし學者ニコデモ及議員ヨセフは來りて彼を葬りたり見よ彼は如何に大なる善き感化者なりしぞ尙他に著く彼の強大なる感化力を檢すべきものあり何そや彼が撰し使徒等の教育の結果之なり

良しイエスは如何に絶倫の人物なりしにもせよ又如何に絶大の眞理を説き絶世の偉業を始めしにもせよ若し彼の死後普く彼を宣傳へ彼の事業を繼續するものなかりせば必ずや彼の宗教は彼と偕に墳墓の中に葬れしならん然ども彼何ぞ斯る愚計を爲す

べき彼則ち撰抜せし十數人の弟子等と寢食を偕に〜山に野に往く所に之を伴ひ安危苦樂を偕にし以て親く彼等を教導感化せしが彼は誤たず彼等の中より適當なる繼業者を得たりペテロ、ヨハネ、ヤコブ、マタイの輩是なり

彼等は本ガリラヤ湖邊の漁夫に非ればカペナウム市中の稅吏等にして左程の人物ふは非りしが一朝決然イエスに隨從〜て以來親く彼の薫陶感化を受け遂に高貴なる人物とはなりぬ

彼等が如何に深くイエスを尊敬し愛慕せしかは左の一二例に由て畧ぼ之を知るを得べく彼等が如何ゑ深くイエスを尊敬し愛慕せしかを知るときは以てイエスに如何に至善至大なる感化力の存せしかを知るを得べし

燕雀何ぞ鴻鵠の志を知らん古より聖賢偉人正義の士屢々具に辛苦を嘗む孔孟ソクラテス、ダッテの輩是なりイエス亦世に棄てられ孤城落日の勢となり四面楚歌の聲を聞くゑ至りしとありしが其時イエス十二の弟子に曰けるは爾曹も亦去らんと意ふやシモン、ペテロ進て答て曰く「主よ我儕は誰に往んや永生の言を有てる者は爾な

り又われら信じて知るゐんぢは活る神の子キリストなり」（約七〇六十八、九）と而て彼等は終に至るまで至上の尊敬を以て彼に服從〜たり是れ其一例なり

イエス既に囚人となり遂に十字架に釘殺せらるゝや弟子等は一度は大に失望したるが如くなりきイエスは事ゑ必ず此に及ばんことを前知し前以て屢々之を弟子等ゑ告知せしと雖外界の形勢及人心自然の情感は彼等をして然らしめしならんイエスの死を距る三日此に一大奇異の現象ころ起りたれ何ぞやイエスの死屍は忽焉として墳墓の中より消失〜婦人弟子等此處彼處に於て彷彿としてイエスを見イエスの語るを聞きイエスと偕ゐ食し此の如きこと凡ろ四十日彼弟子等を離て天に昇れりと言ふこと是なり此をイエスの復活談となすイエスの復活に就て二種の解說あり一を主觀的解說と云ひ他を客觀的解說と云ふ主觀的解說に從ふときはイエスは事實に或相體を現して復活せしに非ず唯弟子等が深く彼を尊敬愛慕するの餘夢の如く幻の如く彷彿として彼を見〜なりと云ひ客觀的解說に由れば否然らず此は全能なる神の特異の御業なる超理的の現象即ち奇跡に〜てイエスは全く或體を具へて客觀的ゑ復活せしなり

と云ふ吾人は今此に両説の眞否を判定せざるべし又此に之を詳論するは必要もなし唯孰れにもせよ此間一事實のあるありて弟子等の心意に一層の感動を與へイエスの死後四五十日を經しとき彼等の思想、信仰及行爲の上に一大激變を生せし事實を讀者と共に認めんと欲するのみ

使徒行傳に記する所に據ればイエスの死後間もなくして一度散りにし弟子は再び師の俤(おもかげ)の殘りてゐエルサレムの都に歸り集り昔を忍ぶ一室の中に膝を並べて團居しつ互に亡き師は往(たま)し事共語り出で或は又世間の諸人が神の恩惠を離れ出て罪惡(つみ)の巷(ちまた)に彷徨(さまよ)へるを嘆き或は又キリストに由て現されし眞の救の道を如何にして普く人に傳へなんかと行末を案しつゝ偕に心を合せて全能なる神の誘助を祈りつゝありしが今日は「ペンテコスト」とてユダヤの國の國祭日なるが此日聖靈著く彼等の上に臨しかば彼等大に感動し彼等の心は俄然として炎の如く焰へ精神頻に熱して又止むべからず此に確信の根基を得此に勇猛の精神を發揮し又此に決死の覇悟を定め決然として起ち奮然として進み直に敵の巣窟エルサレムを衝き市内各所に福音を宣傳しイエスの

證をなして曰く諸君が前數十日慘酷にも無道にもカルバリー山頭十字架上に釘殺せしナザレのイエスを是れ誠に神が先人によりて豫告せし神の獨子萬民の救主なりき「夫れ彼は爾曹の知る如く神かれに託(より)て爾曹の中に行し妙なる能力と奇跡と休徴とを以て爾曹に證し給る所の人なり此人は即ち神の定一旨と預め知り給ふ所に應て解(わた)さる爾曹も無法の手を以て之を捕へ十字架に釘て殺せり」(使二〇廿二、三)諸君も罪なき者の血を流し聖者に報ゆるに無限の恥辱を以てせり諸君の罪豈大ならざらんや諸君夫れ今之を悔改せずんば諸君も何を以て救はるゝを得んと群衆之を聞て其心刺るゝが如く叫て曰く兄弟よ我儕救はるゝ爲に何を爲すべきかと此日罪を悔改めばぶてすまを受けて信徒となりしもの其數實に三千人餘なりしと云ふ然ども無智なる祭司學者等は兎角に此新宗教を嫌忌し再び彼等に迫害を試しを以て使徒等は爾來幾多の辛酸を嘗め首にヤコブは石にて擊殺されて先渡第一の殉教者となりペテロ、ヨハネ等は屢々裁判所に拘引せらるゝ又屢々牢獄の内に投せられ終にペテロは酷慘なる磔刑に處せられしと云ひヨハネはパトモス島に流流せられにき然ども彼等は「我儕見

し所聞し所は言はざるを得ず」「人ゐ從ふより神に從ふは爲すべきことなり」と主唱しつゝ死に至るまで侃々諤々福音を宣傳して止まざりき何ぞ其の心事舉動の莫滿俊偉なるぞ而て彼等が此の如き精神を發揮し此の如き舉動を爲すゐ至りしは全くイエスの至大至善なる感化力を受けしに由るなり是れ其第二例なり

若し夫れ此の外彼等が竟に到達せー高大なる思想及信仰のことなど詳論せんには勢ひ四福音傳、使徒行傳及彼等の著述を繰返ざるを得ざるのみならず事冗長に失するの恐あるを以て此には之を省畧すべし

予は今遡て更にイエスの死後に於る感化力を論ずべーイエス曰く我は生命なりと洵に彼は人の思想を開拓し人の品性を培養するに於て最大一なる生命の源泉なり而て此源泉より混々として湧出する生命の流に由て其思想を洗はれ其品性を濕されて上帝を信尊し人を愛し信仰と希望と愛とを以て此世に確立するを得るは獨り彼が此地球上に現存せしとき彼の活人物に接して直接なる感化を受るを得しもの丶みならず彼此世を去て後と雖苟も彼の宗教彼の言行事歷を學び彼を知り彼を愛するものは皆

感奮して新生命に入り漸く聖化して彼に同化せらる丶なり

固より他の聖賢偉人君子大人と雖皆悉く多少のを感化後世に遺さゞるはなしマーチソ、ルーテルは日耳曼の森林中に其英氣を止めジオールシ、ワシントンは北米合衆國に其德化を殘しジョン、ノックスが叫破せし改革の聲は今尙蘇國に響き聖アムブロースの面影は今尙伊國ミラノに存するならん其他マーク、ホプキンズ氏のウイリアム大學に於る博士ピーボデー氏のカムブリッジ大學に於る彼等の感化や誠に大にして且長し見よ今や四海交通大に開け學問旺盛昔日の比に非す是を以て孔子孟子釋氏の如きも今は倫敦に招かれ巴理に聘せられ又遠く萬里の波濤を蹶て大西洋の彼岸に渡り數多の士人を敎導感化しつゝあるに非ずやソクラテス、カント、ウオズウオルスの輩も亦陸續と〜て我東洋に來り現に吾人を敎導感化しつゝあるに非ずや彼等は死と云ふ名稱の下に一度肉體の衣を脫せしが彼等の心靈は決して死せざるなり彼等は今尙活く而て多少後世を感化しつゝあるなり

夫れ然り然りと雖イエスは彼等の同列に非ずイエスは空前絕後最善最大の大感化者

なり何を以て然るか曰く

一　彼は神人一和の意識を有し且己は特に萬民の救主として天父より遣されしものなるを確信し居たればなり

二　彼は宗教道德上完全圓滿最大の至聖者なりしが故なり

三　彼は犧牲献身至愛の人なりしが故なり

是を以て若し夫れ懷疑に滿ち憂愁不安失望の中に彷徨するものあらんか其人一度彼を知り彼を信愛するに至らば必ずや彼の堅く上帝を信し眞理を信ー正義を信ずるを見て遂に之れに同化せらるべく心の汚穢卑劣なるものは彼の潔白無垢高大なるに化せらるべく傲慢粗暴なるものは彼の謙遜溫和博大なるに化せらるべく迷愚無智の輩は彼の明哲鋭才を學ぶべく薄志弱行の徒は彼の剛强眞勇の鉄膽を見て之に似るべきなり凡そ如何なる心靈上の疾病者も一度彼の面前に出てゝ彼の診察を受け彼の教訓摸範及彼の誘助、慰藉、奬勵、啓導等の醫藥を服せんには必ずや感奮尊慕久しからずして全愈せざるなし則ち盲者は見跛者は起ち癲病は潔まり聾者は聞き死者も亦彼に

由て復活するなり

米國の神學博士ウイルリアム、イー、チャンニング氏曰く「キリストの品性を研究するは格別に人心を喚起し愛慕讃嘆及道德上の歡喜を醒起するに適す」と（チャンニング、ウオルクス、三百二頁）又一派のクリスチアンは曰くイエスの十字架の力能く人を救ひ人の罪を贖ふと吾人は思考する所によればイエスの至善至大なる大感化力は獨りイエスは品性の中に潛伏するにもあらず（吾人はチャンニング氏が然か言ひしと云ふはあらざるども）又唯十字架は中にはみ宿泊するにも非ずイエス一生は言行事歷悉く皆相集て此に一大源泉となり一大引力となり一大熱火となり以て彼を知り彼を信じ彼を學び彼を崇拜し彼を愛慕する者の心を洗ひ之を引き之を熱し斯くて漸く己と同化し遂に天父と和合せしめ愛の人となし信仰の人となし希望の人となし犧牲の人となし暗黑より光明に遷し死より生命に轉し神の聖徒となし天國の民となし神の子とならしむるなり

噫大なる哉イエスの感化力古今人多しと雖ども誰れか又敢て彼に及ばんや彼嘗て此世に在せし時「我地より擧られなば萬民を引て我に就らせん」と言ひしが眞や彼の宗

教の傳はる所人多く彼に引かれ世も亦彼に引かるゝ也

彼又此世を去らんとせし時弟子等に告別の辭をなして曰「我なんぢらを捨て孤子とせず再なんぢらに來らん」と誠に彼は當時の弟子等のみならず凡て彼を敬愛し彼を信ずるものを棄てゝ孤子とせず彼れ親く其人の心中に來り之と偕に住み之を教へ之を慰め之を勵し之を導くなり彼一度墳墓の中に葬れしと雖彼の心靈は決して死せざりしなり彼は今尚活けり而て凡の彼を信愛するものと偕に永遠に現在するなり斯て彼は代々教會の首領となり天國の王となり絶間なく人を救ひ世を潔めつゝあるなり予故に曰くイエスは空前絶後最善最大なる永遠の大感化者なりと

第九　結論

吾人は讀者諸君と共にイエスは如何なる人なるかを理解せんため前既ゐ八條の論点事實を指摘し之を讀者諸君の眼前に陳列したり今請ふ讀者諸君、諸君は今此等の材料を集合して之を眞理の蒸餾鑵に投し暫時の後點滴凝て現成する所の歸結如何ゑ注意し給はんことを

夫れイエスの教訓、品性、行爲、事業、意識、確信及先見、獨立創始及感化の異常にして且絶大卓美なること此の如し故に吾人は歸納論理の正當なる歸結として固より彼を普通人類と伍せしむる能はざるのみならず且普通の聖賢偉人とさへも極て同席に列せしむべからざるを覺ふされば吾人は宜しく彼の爲には神の下人の上に唯一無比の位席を設け之を神の獨子萬民の救主と認信し仰慕し尊愛するの最も適當なるべきを信ず

請ふ今少く其意味を明瞭にせん神の獨子とは何ぞや曰く人は其天稟の原性より言ふときは均く皆神の子なり然ともイエスは神の獨子なり獨子は普通の兒女よりも多く両親の恩愛に浴するが如くイエスは普通の人類に優りて多く天父より心靈上の恩賜――智慧、能力卓絶の品性等――を受けたり故に彼を神の獨子と云是れ其理由幷に意味の一なり且獨子を即獨子にして二ならざる如く宗教道德上の觀察点より彼を眺望測量するときは彼は過去現在未來に通じて人類中の他れ如何なる者も決て同比すべからざる唯一無比の地位に立るものなり――神の大顯現者、神人の中保、道

德上の完全者等として――故に是を神の獨子と云ふ是れ其理由及意味の二なり

次に萬民の救主なりとえ何ぞや曰く古來聖賢偉人の萬國に現出せるもの其數固より尠からず而て彼等は皆或は眞理を發見し又は主張して人の心識を開拓し或は又其卓絶の品性、行爲及事業等によりて多少人心を感發〜啓導し同化したりき他語以て之を言ば即人類は彼等に由りて幾分か暗黑と罪惡より救出され光明と聖善に達せし也孔孟釋氏ソクラテスの輩是なり故に或意味より言ふときは彼等も亦人類の救主たるなり然ども若し夫れ凡の時代を超へ凡の境域を脫して永遠の後まで世界全人類の大救主たるべきものは斷〜てイエスの外に之あるなし何となれば前既に八條の項目を追ふて論明せしが如く彼は其意識確信等に於て全く特異のものを有〜彼の敎訓、品性、行爲、事業、感化等亦皆世界的にして且空前絶後無比なるが故に彼は永遠の後まで世界萬民の大敎師たるべく摸範たるべく感化者たるべく救主たるべきが故なり是を以てイエスは萬民の救主なりと言ふなり

夫れ斯の如く愛なる神存在し人は不完全にして罪過多く其結果の眞に憫むべきものあること等より演譯推理して考ふる時は神の獨子萬民の救主の顯現の必要なるのみならずイエス一生の言行事歷等を考察歸納するときは彼は眞に神の獨子萬民の救主なること明白なりとす

第五章　結局

予既に基督敎の何たるを說き又基督敎の根據三点を論明〜竟りたり

蓋し如何に星移り物變り批評の風猛り議論の波叫ぶとも此三大根據三大眞理は必ず巖の如く堅く立ち敢て動くとあるべきに非ず是れ吾人基督敎徒の悟道の大本、安心立命の立脚地、進戰の要具、防禦の鐵壁なり

抑も宗敎は固と是れ根本的のものにして直に萬事の根源ある人の思想信仰の上に敎化を及ぼし變動を來すものにして其結果は人の品性、行爲、目的、主義の上ふ現はれ延て一國一人民の風俗、習慣及元氣の良否消長ふ關係するものあり故に宗敎の國家の大問題にして且一身一家の榮枯盛衰幸不幸の因て以て分るゝ所の分界線なり

吾人は此に之を詳論するの暇なしと雖願ふちくは賢明なる讀者諸氏が此大問題を熟

慮し基督教の根據を明辨し以て或は其信仰の根基を堅正におし或は斷然として吾國家の爲に又諸君自身及諸君の家族の爲に此正教を信奉し此眞理を實守し主唱し以て自己を救ひ又吾國家を救ふに至らんことを

尙基督教の必要なる所以及教育勅語と基督教との關係を知らんためには乞ふ附錄を一閲せられんことを

基督教の根據畢

附錄

(一) 教育勅語と基督教

近時吾國よ一種の魔風あり基督教ふ向て吹く此風梢を鳴らして曰く耶蘇教は勅語の精神に反すと何故なりやと問へば則ち曰く耶蘇教は個人主義なり勅語は國家主義なり耶蘇教は無差別の博愛主義なり勅語は有差別の忠孝主義なり耶蘇教は未來を重んし勅語は現世を重んず故に耶蘇教は勅語の精神に反すと然り此の批難は一應道理あらざるに非ずされとも惜むべし論者は基督教の半面を見たりしも未だ他の半面を知らざりき乞ふ今予輩をして基督の教道の本色を發揮し以て此等誤解の黑雲を拂はしめよ

(一)基督教は圓滿の眞理にして一方に偏せるものにあらす

眞理は表裏二面を有す故に表面の眞理と裏面の眞理と之を合せて一方に偏せず極端に走らざるものは圓滿の眞理なり圓滿の眞理に對し一面を見て他面を見ず之を批難するは批難するもの、輕卒なり誤謬なり經妄なり眞理其もの、罪にはあらず夫れ基

督教は圓滿の眞理なり一方に偏するものに非ず極端に走るものにあらず人生を觀ず
るにも光明の方面と暗黑の方面とを示し現世と未來とを兼ね教へ心識を開發鍛錬す
るにも積極消極の二方面を示し其の人道を說くにも差別的なるあり無差別的なるあ
り箇人的思想あり國家的思想ありて決して一方に偏し極端に走るものにあらず
讀者試に舊約聖書を繙き以賽亞、利米亞等の預言書詩編及出埃及記民數記列王記歷
代志等を讀め愛國の精神鬱勃として其中に溢れモーセ、ヨシユアを始めサムエル、エ
リヤ、エレミヤ、イザヤ等の愛國者が上帝と國家との爲に正義を絕叫し血涙を注ぎ其
身を犧牲として毫も顧みざりし壯烈美雄の活劇を見ん更に新約聖書を繙き主イエス
がイスラエルの迷へる羊を尋ねし熱心を見よ橄欖山上エルサレムの國都を觀下し國
民の敗德迷謬の甚きによゝ亡國の徵目前に逼れるを察し潸然として哭泣せしを念へ
又た羅馬書十三章以弗所書五章廿二節——六章九節哥羅西書三章十八節——四章一
節及山上の垂訓等を見よ特に提摩太前書二章一節に「われ殊に勸む万人の爲に願告祈
禱懇求感謝せよ王および凡て權威を有つものゝ爲には別て之を行べし」と云ひ又以

弗所書六章一二節に「子たる者よ爾曹主に在て両親にしたがふべし是合宜なれば也
爾の父母を敬ふべし」云々と云ひ又馬太傳廿二章卅七八九節に「イエス答けるは爾
心を盡し精神を盡し意を盡し主なる爾の神を愛すべしこれ第一にして大なる誡なゝ
第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし」と云へるに注意せよ是れ極めて箇
人主義に偏するものに非ず無差別博愛主義に偏するものにあらず未來主義に偏する
ものにあらざるなり基督教は又國家主義なり有差別忠孝主義なゝ現世主義なりと云
ふを得べし豈一面を見て一面を見ずして可ならんや

（二）基督教は根本的教養の主義なり

今夫れ混々として晝夜を舍めず漫々として流るゝ河あゝ水濁て用ゆべからず若し此
水をして清淨透明水晶の如くならしめんと欲せば須らく先づ源泉を改治するに如か
ず源泉已に清らば末流自ら清む是れ極めて明白の道理なり
孔子は誠意正心を說き孟軻は仁義性善を說き朱子は格物致知を說き王陽明は良知良
能を說く老莊の無爲虛靜に於ける楊子の自愛皆命に於る墨子の兼愛尊天に於る釋氏

の解脱涅槃に於る神道家の惟神誠之道に於る各其主とする所と異にして其の中に含む所の眞理には固より廣狹多少の區別ありと雖若し夫れ公平なる思念を以て大悟〜て此等を看破せば均しく皆眞理の愛子にして異なる泉流を溯りつゝ人心の源泉を清めんとせしに外ならざるなり今眞理の國王にして万民の救主神の獨子なる主イエスの教道の主眼を察するに主は最も至純なる天理人道の大根源をぞ教へられたりける即聖なる天父上帝の存在を信認して赤心之を畏愛し己の如く人を愛すること之れなり人一度救主の招きを受け聖靈の恩化に賴りて上帝の存在を認め敬虔の念を以て之に奉へ私慾私心罪惡の中より救はれて人を愛するゐ至らば其心の源泉已よ清まれるなり其心己に清て而後萬事に處す一として不可あることなし

是故に加賀の大儒錦城太田元貞も言へる曰く「放蕩淫縱の心には神もやどり玉はず權謀を肆にし詐力を舊て功利にのみ外馳する心にも神はやどり玉はず唯菜根を咬て寒苦を忍び本心に復して君父の恩を思ひ天地鬼神の冥鑒に背かざる事を思ふ心には神とゞまり玉ふべし此に止りて萬事に處置せば事々皆其至當を得べし左傳にも此心

不レズ爽カ昏ニ亂ス百度ヲ」と云へるは尤の事なり今の人精神昏亂にして書を讀み道を講し又は政事に處置す百事の紛亂すること尤のこと也と知るべし」と故に主イエスも天理人道の大根源を說き萬事の源泉なる人心の罪惡を潔め先づ天父上帝を認信して之を愛し私慾私心を脫して人を愛するの大心を發揮せしめ而後萬事に處せしめんとはするなり人此心を以て父母に對すれば即ち孝なり此心を以て子に對すれば即ち慈なり此心を以て兄弟相對すれば即ち友愛なり此心を以て夫妻相對すれば即ち親愛なり貞操なり君に對しては忠となり臣民に對しては仁となり師弟の間に取りては懇篤となり尊從となり朋友の間ゐ取りては信義となり國家に對しては愛國心となる恰も水の止りて淵となり流れて江河となり飛んで濕布となるが如し孔子曰く「意誠ニシテ而后心正ッ心正フシテ而后ニ身脩マル身脩テ而后ニ家齊フ家齊テ而后國治ル國治テ而后天下平ナリ自ニ天子ニ以テ至ニルマデ庶人ニ壹ニ是皆ナ以テ脩レテ身ヲ爲ル本ト其本亂レテ而末治ル者否アラン」と眞に然り其れ眞實にイエスを信じて神を愛し人を愛するもの何を以てか愛國の心なからんや忠節の臣民たらざんや至孝の人ならざらんや其本脩て末亂るゝものはあらず其源泉

清て末流の濁るもれはあらじ

されば基督教は決して偏僻なる箇人主義にあらず極端なる無差別博愛主義にあらず又極端なる未來主義にあらず是れ眞に圓滿の眞理根本的教養の主義にして極めて勅語の精神に戻るものにあらず識者若し基督教の皮相のみを見ずして眞相を知らば妄に罪なきものを罪すまじ噫去れよ魔風靜けき御宇に妄り梢を鳴らすことなかれ

（二）基督教は必要

耶蘇嘗て衆人に教て曰く、我は途なり、眞理なり、生命なりと、余輩謹て考ふるに、耶蘇自身と、其の教とは、眞に余輩が頼りて以て、天父に達すべき途にして、靈魂の救と、德義に係はる眞理の發現、又人の敗腐せる精神を活かすの生命なり、されば、何人か、耶蘇を信ずることなくして、能く靈にして愛なる、天父上帝を認識し、其の無限は恩寵慈悲に沐浴することを得んや、又何人か、耶蘇を信せずして、能く眞理を掌握し、惑はず、憂へず、懼ぢず、眞理と偕に死するを得んや、又焉ぞ、心の眠より醒め、其道心に、活潑々地の生命を得ることを得んや、吾人の耶蘇を仰ぎ尊んで、万

人の救主とし、神の獨子と信ずる所以のもの、他なし、吾等其の榮を見るに、誠に父の生み給へる獨子の榮にして、恩惠と眞理にて充ち、自ら言ひ給へる如く、彼は眞に、途なり、眞理なり、生命なればなり、故に余輩只管、耶蘇に信從して、朝暮之に教訓を受け、其の誘助に因て、以て其の途に歩み、其の眞理を學び、其の生命を得んことを之れ勉む、余輩の耶蘇に信從して、耶蘇を愛慕する所以と、普く福音を宣傳して、諸君よ耶蘇を紹介する所以と、偕に其の意、此れに外ならざるなり

今の世の人、多くは未だ此の理を知らず、基督教の何たるを辨せず、救主耶蘇の、行狀と垂訓の何たるを學ばず、又自己の心靈の情態の如何なるかを省みず、自己の人物、品格、精神、知識の上帝の御前に、果〜て如何なるかを尋ねず、余輩は是を以て恒に遺憾の極とす、而るを況んや、中には臆測を逞ふし、誤解を極めて、輕然漫然、之を嘲り、之を罵り、自ら眞之光を受けざるのみならず、復た他人の義に就くを妨げんとするあり、是等は固より有德者の行爲に非ずと雖も、余輩を是を見て默する能はず、因て今左に實際的より、基督教の必要なる理由の一部を述べん

第一　心を研き、德を修せんと欲せば、基督教を信せざるべからず

易に曰く、滿は損を招き、謙は益を受くと、今の世の人、何ぞ滿者の多くして、而して謙者の少きこと、一に此の如きか、多の人は自ら心に言て曰く、吾が心、既に美に、吾が德、既に脩まる、天上天下唯我獨尊と、煙を吹き、肩を怒らせ、大道を濶歩して、意氣揚々、極めて得々然たり、あゝ今日は實に天狗ぬ世なるかな、人皆天狗となりにけり、然ども、余輩謹て其人の心術を窺ひ、其ぬ素行を詳にするに至まば、思ひきや、是ぬ醜の醜、陋又陋、不德汚行の人ぞ多かりける、爛熳たる路傍の花は之を笑ひ、皎々たる秋夜の明月は、俯して之に忠告すれども、彼等之を知召さゝるなり、彼等之を開悟し給はざるなり、孔子は聖人なり、而も自ら曰く、德之不レ脩學之不レ講聞レ義不レ能レ徙不善不レ能レ改是吾憂也と智者大師は天台宗の開祖なり、曰く解を論ずれば毘盧（佛）の頂きに居り、行を論ずれば、蟻子の高山に登るが如しと、聖經に曰く、天下に義人なし、一人もあることなしと、又曰く、人皆罪を犯したれば、神より榮を受くるに足らず云々と、好し吾人、今自ら大なる過失罪惡のあるを認めずとするも、尙進んで、更に大に、

心鏡を研き、高尙なる德を修養すべきにあらずや、然るを況んや、吾人が自ら認めて罪過なしとなすの時は、多は却て是れ、罪惡に沈溺せるの時なるに於てをや、靑色の眼鏡を懸けて、天下に赤色のものなしと言ふ、豈眞理ならんや、己が良心の鏡面疊りて、罪惡の影なしと言ふ、豈適當ならんや、夫れ人の災害は、自ら滿足するより大なるはなし、月滿つれば則ち缺く、人若し己が現狀に滿足せば、進歩則ち止む、人豈永遠に進歩せずして可ならんや、故新島先生嘗て余輩學生を誡めて曰く、小成に安ずるなかれ、卑屈に流るゝなかれ、安逸を貪る勿まと、吾人宜しく常に進んで、智識と眞理とを追求し、心を研き德を脩め、愈々研き磨きて、日月と光を爭ひ、進んで至仁、至愛、至正、至義、完全にして神の子に似るを旃めずして可ならんや、余輩古昔の大人豪傑を見るに、皆己が人物の鍛錬に丹精を凝らし、脩行心の甚だ深かりしを見ずんばあらず、見よ孔子は周公を夢み、リンコルンは心にワシントンを摸し、大久保甲東は藤田東湖の像を祭り、南州翁は、每夜必ず一時間を以て、沈思默想、自省のことをなし、常に人に語て、人を相手とせず、天を相手にせよと言へりしとぞ、夫れ堯舜も人なり、我も人

なり、勉めて止まずんば我れ豈堯舜たらざるなきを保せんや、玉研けば光を發し、草木能く培へば必ず美花と良菓を得べし、余輩の心も、之を照らす不眞之光を以てし、之に培ふ聖者の至道を以てし、勉めて怠りなくんば、其も豈百花爛熳として、美德の心頭に咲き亂ることなしとせんや、況んや吾人の生涯の行路に於て、吾人の頭上に落來る災害憂苦の多分は、是れ自ら招くの災にして、己が不德なるより、心行の善からざるより、愛敬の足らざるより湧き出るものなるに於てをや、哲學者カント曰く、無上の幸福は、至德の人にして始めて之を得べしと、聖經に曰く「耐忍て善を行ひ、榮光と、尊貴と、不朽壞とを求むるものには、永生を以て報ん、然れども爭鬪をなし、眞理に順はず、不義に厲く者には、報ゆるに忿怒と、患難辛苦とを以てす」とイスラヘルの詩人も歌ふて曰く

一　惡きもの、謀略にあゆまず、つみびとの途にたゝず、嘲るもの、座にすわらぬ者はさいはひなり

二　かゝる人はエホバの法をよろこびて、日も夜もこれをおもふ

三　かゝる人は水流のほとりにうゑし一樹の、期にいたりて實をむすび、葉もまた凋まざるごとく、その作すところ皆さかえん

四　あしき人はしからず、風のふきさる粃糠のごとし

五　然ればあしきものは審判にたゑず、罪人は義きものゝ會にたつことを得ざるなり

六　そはエホバはたゝしきものゝ途をゑりたまふ、されど惡しきものゝ途はほろびん

と然らば吾人豈萬障を排して、進んで心を研き德を脩めすして可ならや

吾人既ふ、進んで心を研き、德の脩すべきを知らば、夫れ何を以て之を爲さん乎、是れ天父が古へより聖人及救主を降して、宗教道德の眞理を、吾人に附與したる所以なりとす

さりながら、彼の愚夫愚婦の間に行はるゝもの、如きに至ては、余輩は固より諸君と共に之を顧みさらんと欲す、獨り孔孟釋迦の教道の如きさへ吾人其の中より多の眞理を

含み、我を益し世を益するものあるを信ず、然りと雖も、余輩を以て之を見れば此等も尚、旭日待つ間の星又は月にして、凡の人を照らす眞の光は、實ふ耶蘇キリストに因て來れりと信ず、イエス曰く「我は世の光なり、我に從ふものは、暗中を行かず生命の光を得るなり」と

第二　安心立命を得んと欲せば基督教を信せさるへからず

人の此の世に在るや、恰も一葦の舟を浮べて大洋に漂ふが如し、人一ト度、母の胎内を離れて蜉蝣の生を此の不思議なる大天地間に寄す、仰けば、穹蒼限りなく高く、蒼々茫々として、其窮極する所を知らず、日月之に懸かり、星辰之に列張す、晴れて、麗日晴夜の美妙を現し、陰りては、雲霧雨雪の奇觀を呈す、誰れか能く思を天涯に馳せ、眼を空際ふ凝らして、其の盡くる所を窮め、其の無限の意味を解得し得るものあらんや、俯して、大地の局面を眺むれば、森羅萬象其上に整列し、條理自ら存し、妙用殆ど極りなきが如しと雖とも又時には、俄然突忽、魂飛魄驚く底の悲劇が、見る見る、一瞬の間に演じ去られて、幾多の熱涙紅血を絞り取るが如き慘狀なきにあらず、漠々たる

天地夫れ何物ぞ、嗟呼人は實に此の不思議の極なる大天地の間に瞬秒の生を寄するものにして、年々歳々、花相同じきも、歳々年々、人同じからず、變らざる天地の間に、人ん變はり〳〵て端なく思ひざるの時に生れ出で、思はざるの時に災禍苦痛に遭逢し、思ひざるの時ふ病床に横はり、思はざるの時に此の世を辭し去るなり、人生万事意ひ如くならねば、人生の航旅決して容易ならざるなり、今此方の岸邊ふ起ち、眼を擧て、遙に望めば、前途茫々、水天と連なり、白雲漠々、東西得て知るべからず、彼岸認め難きなり、浮世の灘の浪荒く、時に怪風水を卷き、狂瀾怒號、我を襲ふなり、人情の山、最と嶮はしく、或は憎み、或は怨み、或は嫉み、或は怒り、失望の沼、落膽の淵、暗黑の谷ぞ多かりける

然れば誰れか能く、我に此の不思議なる天地の解釋を與へ、人生渡航の方針を敎ゆるものぞ、吾等何に因てか、能く惑はず、懼れず、憂へず、痛まず、以て此ひ天地の住宅に安んじ、人生の航路を誤まることなきを得るか

イエス曰く「凡て勞れたる者重を負へる者は我に來れ、我なんぢらを息ません、我は

心柔和にして謙遜者なれば、我軛を負ひて、我に學べ、なんぢら心に平安を獲べし」と吾等若しイエス、キリストを信じて、彼の如く、靈にして愛なる、天父上帝の存在と、攝理を信じて、之に我運命を托し、主に因て新に生れ、潔白の心、博愛ㄟ精神を得るに至らずんば、夫れ何を以てか、安心立命を得んや

第三　衆人を愛し衆人の幸福を希望せば自己先づ基督教を信ぜざるべからず

夫れ人の此の世に生活するや、唯に自己の爲ふのみ生活すべきに非ず、又宜しく衆人の利益を圖り、他人の幸福を增す爲に、尽す所なくんばあらず、若しも、已れ一己の利益を圖るゝ汲々として、毫も家族及同胞の幸福を顧みざるものあらば、是れ實ふ賤むべく、憎むべきの人ふして、此の如き人の、社會に增加する時は、其の社會は、禽獸の社會となり、弱肉强食、又絕へて人道なきに至るべし、唯ゝ人間の價値を損し、又聖なる社會道德の秩序を破滅するのみならず、且つ是れ、自滅の法、自殺の道なり、何となれば、人は凡て社會的の動物にして、單獨孤立して生活する能はず、必ず家族を組織し、社會を、成立して相助け相賴らざるべからざるものなり、而て決局、甲の幸福は乙

の幸福となり、丙の損害は又丁の損害となるべけきばなり、父母不幸なるに、子豈幸福なるを得んや、吾が町村の人疲弊して、其の影響豈我に及ばざらんや、されば、他人を幸福にするは、又自己を幸福にすることゝなり、衆人の利益を圖れば又己が利益となるにてゞある、好し然らずとゝるも、其ㄟ是を成すは、此れ最高の道德にして、又人間の義務なりとす

諸君は、諸君の父母、妻子、兄弟、眷屬と諸共に、仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、操節などの如き諸德を養ひ得て、和氣洋々、一家團欒の光榮と、快樂を得るを欲せざるか、又諸君は、諸君の隣里、鄉黨、四千万の同胞と共に、所謂寛忍をなし、又人の益を圖り、妬まず、誇らず、驕傲らず、非禮を行はず、己の利を求めず、輕々しく怒らず、人の惡を念はず、不義を喜ばず、眞理を喜び、凡ろ事包容、おほよろ事信じ、凡ろ事望み、凡ろ事忍ぶ所の、至純の愛を養ひ得て、汚濁、詐僞、僞善の社會を變じて、公義、聖潔、平和の社會となし、吾が國民の精神をして、琵琶水の淸きよりも淸く、吾が大和民族の品格をして、芙峯の高きよりも高からしむるを希はざるか、諸君果〳〵て之を欲〳〵